

「W杯の事後検証～自治体による検証はなされたのか～」

上席研究員 広瀬一郎

・報告編：問題認識と調査結果の考察

序 はじめに - 問題認識

1 . 調査結果

- 1-1 事後調査の必要性の認識
- 1-2 調査自治体共通の問題認識
- 1-3 調査自治体の戦略性の特色

2 . まとめ

- 2-1 今後の課題
- 2-2 今後に向けた提言
- 2-3 本調査についての事後評価（参考）

・データ・資料編

1 . 調査方法

- 1-1 アンケート調査
- 1-2 ヒアリング調査
- 1-3 捕捉文献等資料調査
- 1-4 調査内容とその時期

2 . 調査データ

- 2-1 札幌市 - アンケート結果・文書回答
- 2-2 宮城県—アンケート結果・文書回答
- 2-3 茨城県—アンケート結果・知事インタビュー
- 2-4 埼玉県—アンケート結果・文書回答
- 2-5 横浜市—アンケート結果・関係者インタビュー
- 2-6 新潟県—アンケート結果・文書回答
- 2-7 静岡県—アンケート結果・知事インタビュー
- 2-8 大阪市—アンケート結果・文書回答
- 2-9 神戸市—アンケート結果・文書回答
- 2-10 大分県 アンケート結果・知事インタビュー

3 . 参考資料集

3-1 質問票

3-2 アンケート結果まとめ

3-3 自治体提出資料リスト

3-4 ワールドカップ関連事業費一覧

3-5 各自治体ボランティア数一覧

3-6 「国際スポーツイベントによる地域づくりに向けた視点・留意点」

3-7 各自治体におけるワールドカップ関連部署の大会時と調査時点の状況

序 はじめに - 問題認識

アジア初、そして史上初の共催という形でサッカーの世界選手権「ワールドカップ」(以下Wカップ)が日韓で開催されたのは昨年、2002年であった(本稿執筆時)。あれから「もう1年」なのか、「まだ1年」なのか、人によって抱く思いは様々であろう。今や「あの時のWカップ」の話題と言えば、「建設されたスタジアムの事後活用がうまくいってないこと」、つまり「建設したものの運営経費が莫迦にならず、黒字となっている施設はごくわずか、というのが実態である」と、時折マス・メディアの話題となることぐらいである。報道によれば、この点は共催したお隣の国も同様、頭の痛い問題であるようだ。しかしながら、施設の利活用で運営経費が賄えないということは、今になって明らかになったわけではなく、事前の予想が容易にできたはずの事柄である。

このような施設問題に象徴されるように、我々は巨大な国際スポーツイベントを開催する上で、施設建設を含めた全てのコストと効果について、これまで十分な議論を尽くして来なかったのではないだろうか。であるならば、今回のWカップ開催は確かに従来の姿勢を反省する良い機会に違いない。

(サッカーの)Wカップには、「競技(サッカー)」、「ビジネス」、「祝祭」という3つの側面がある。ここで扱うのは2番目の「ビジネス」の領域である。ビジネスであれば、当然のことながら常に成果が問われ、その評価を受ける。そしてWカップにおけるビジネスは、その主体及びステークホルダーの性格からパブリックセクターとプライベートセクターに分けて論ずべきである。プライベートセクターの主たるビジネス主体は、TV局であり、広告代理店(例えば電通)であり、公式スポンサー等である。公式なステークホルダーではないが輸送・宿泊その他様々な業者もビジネスを行った。

(なお余談だが、2002年大会で最も悪名を馳せた、チケット販売業者は「公式」ではあるが、「公的」即ちパブリックではない。業務は飽くまで民間業者の事業として行われた。)

プライベートセクターの事業者は、当然それぞれの内部で成果を評価し、また外部からも評価がなされる。その成果は決算にも反映しようし、株主にも報告され最終的には市場という外部から評価を受けることになる。従って、それらは今回この調査の対象としない。

この調査では、市場の評価を受けることのないパブリックセクター、その中でも中核的な役割を担った地方自治体のビジネス成果と、その事後評価に関するものを対象とする。言い換えれば「行政評価とアカウントビリティの確立」という今日的なテーマをサッカーのWカップ開催に関して検証することが本調査のテーマである。

ここで、今回の W カップ大会において地方自治体が中核的な役割を担ったという点について解説を加えておきたい。その構造を理解するためには、大会を招致する前の段階に遡る必要がある。まず、日本サッカー協会で W カップの招致が決まったのは 1988 年であった。翌 89 年初頭の日本サッカーリーグ活性化委員会(後のプロ化検討委員会)のサッカー協会に対する答申の中に、「プロ化と W カップ開催は日本サッカーの向上の両輪である」という記述が見られる。その後、90 年の W カップイタリア大会直前の FIFA 総会において、「日本は開催立候補の意志あり」というパンフレットを配布した(当時筆者は W カップ運営・開催に従事しており、ローマでそのパンフレットの配布を手伝っている)。91 年 6 月には「2002 年ワールドカップ日本招致委員会」が発足したが、まだこの段階では単にサッカー協会内の任意団体という位置づけであった。そして 92 年 7 月に 15 の開催希望自治体が立候補した。招致委員会がそれまでアンケートで開催に関心を持っている自治体を募り、興味を示した自治体を対象にした開催条件の説明会などを実施した結果、手を挙げたのである。

立候補した 15 の自治体は、開催条件となるスタジアムその他のインフラ整備などについての具体的な事業計画や、開催にあたってのビジョンを提出しなければならなかった。いずれも予算措置を伴うことなので、無論のこと議会承認を必要とし、しかもそれらが単なる口約束では済まされない、高いハードルが存在したのである。例えば立候補する自治体には、招致活動のための資金を負担することが要求された。1 自治体あたり 2 億 5 千万円という多額の負担金は、招致活動の結果が失敗に終わっても返還されないという条件であり、それを期日までに委員会の口座に振り込むために議会承認を得るのは相当な苦勞であった、と当時の担当者達は口々に語っていた。そのような経緯があったため、招致委員会としては 15 全ての自治体を日本の立候補における正式な開催候補自治体として承認した。そして結局、総額 90 億円の招致活動資金の 45%を自治体負担したのである。(その後愛知県が加わって立候補時には、開催候補自治体は 16 となり負担金の合計は 40 億円にのぼった。なおその後、韓国との共催が決まり最終的に開催地は 10 になった。)

以上のように、昨年の W カップの日本での開催については、従来の国家的規模の事業とは違って、国/中央が正式な決定もしていないのに、地方が自らの対応を先行して決定したのであり、国は地方の意志決定に主導される形で閣議了承したのである。そういったプロセスを称して、一部では土光臨調のもとで作成された前川レポートに提起された「地方から中央へ」を実現するプロジェクトであるという評価も聞かれた。また、前川レポートの中で日本社会と経済全体が目指すべき方向として示された「内需振興」と「ハードからソフトへ」というテーマにも W カップは合致していたのである。*

* 「未来へのキックオフ」横江茂著 (TBS プリタニカ)

なお W カップ招致についての閣議了承は 95 年 2 月 21 日になされ、ここで初めて日本国政府としての開催意志が確認されたのである。(FIFA の開催要求書に示された「政府の開催保証」を確認する締め切りが翌月末に迫っているという、ギリギリのタイミングであった。)

繰り返しになるがこのように、「2002 年 FIFA ワールドカップ大会」は、地方が主導してスタートした大会であり、試合を開催する各自治体は正に中核となるプレーヤーだったのである。

アカウントビリティ

アカウントビリティは「説明責任」と訳されるが、その前提として、第一に該当事項に関し、事前に「目的」と「目標」が説明されていることが必要である。目標の明示に併せて、その目標達成をどのように評価するかという「指標 (measurement)」の明確化も同時に示されていなければならない。事後にその指標に基づいた検証と評価を行わなければ、目標達成(度)を立証することは論理的に不可能である。目標達成度を自己評価し、説明しないかぎりアカウントビリティは果たせないのである。つまり、アカウントビリティとは、「事前の説明」と「事後の検証・評価」がセットになったものに他ならないのである。

ピーター・F・ドラッカーは名著『マネジメント』*において、「マネジメントにはフィードバックが不可欠である。第一に意志決定の前提となった予測をはっきりさせなければならない。そのためには書面で明らかにしておく必要がある。第二に、決定の結果について体系的にフィードバックしなければならない。第三に、このフィードバックの仕組みは、決定を実行する前に作り上げておかななければならない。」と述べている。そしてこのことは、パブリックセクターであるかプライベートセクターであるかを問わずに適用される。

この点をスポーツについて鑑みれば、評価の前提となる「国際スポーツイベント開催による地域振興」の内実とは何かが従来議論されず曖昧なままで、具体的に明示されていなかったのが実態である。しかし、そこで開催地域が「期待し得る成果」とは、一般的に如何なる領域におけるものなのかを明示することは可能であり、緊急かつ重要だと思われる。

当該地域がそこで明示された個別の施策の中で何を選ぶのかは一律に決められるべきことではなく、それぞれの当該地住民が選択すべき戦略の問題である。(戦略とは「何をしないか」を議論して決定することでもある。)だが、少なくとも何を目指し、期待

* 『マネジメント：基本と原則』ピーター・F・ドラッカー著(ダイヤモンド社)

して開催地となるのかを、事前に明示し、議論のうえで「目的」に関するコンセンサスを得ること、目標を設定し指標を示すこと、そして事後に選択された期待すべき成果項目の達成度を調査し評価すること、それら無しには施策のアカウンタビリティは果たせないのである。

「国際スポーツイベントによる地域振興」の成果と評価

そもそも筆者がそのような問題意識を持ったのは、1998年の長野冬季五輪に遡る。開催後に大会を総括したものはなく、「Wカップでも同じことが繰り返されるのではないか」という危惧を抱き、当時筆者の企画提案により(財)地域活性化センターがアンケート調査を行った。その結果は、1998-99年に「国際スポーツイベントによる地域づくりに関する調査研究」*としてまとめられた。調査費600万円のうち(財)地域活性化センター/旧自治省が半額の300万円、残り半分を10のWカップ開催自治体が等分に(各30万円)負担して実施された。即ち、一部費用負担した時点で開催自治体はこの調査研究で示された結果にコミットしたと考えられる。今回の「W杯開催の事後調査」はこの調査研究の延長上に位置づけられるものであり、調査25項目は、上述の報告書のものから抽出したものをそのまま利用している。

「成果」の評価をするにあたって、アメリカのマルコム・ボルドリッジ賞を参考にした「経営品質賞」の考え方を援用すれば、ビジネスの評価には「システム(の有無)」「稼働」「成果」の3段階が存在する。仕事/作業とは飽くまで最終的な成果(=目標・目的)との関連で評価すべきものである。成果を出すためにはまずシステムを構築し、それを稼働させることが必要である。ところがあらゆるシステムは、システム設計段階では「成果との整合性」に留意して構築したはずなのだが、一端出来上がってしまうと個々のプロセスが自己目的化する傾向にある。しばしば「官僚制」の弊風として指摘されるこの傾向は、官民を問わずあらゆるシステム・組織に生ずる宿阿のようなものである。

Wカップのケースに目を転じれば、大会の開催による地域振興を目指すなら、Wカップが盛り上がらなければその期待すべき成果を得ることは確かに困難ではあろう。したがって、「大会の盛り上がり」を稼働あるいは稼働の条件と見なすことは可能である。他方、従来はその「盛り上がった」ことを「成果」としてあげるような傾向がよく見受けられたのも事実である。端的には長野冬季五輪の大会後、「原田の涙と金メダル」などで盛り上がったことを最大の成果と捉える風潮が無かつたらうか。

* 「国際スポーツイベントによる地域づくりに関する調査研究」((財)地域活性化センター)

だが、これは「稼働」と「成果」の混同に他ならない。当該イベントの成功自体が自治体の開催目的であれば、盛り上がり成果とするのも間違いではなからう。しかし競技団体であればともかく、自治体にとって大会の成功が開催目的となり得るはずがない。あらゆる作業はともすると自己目的化し、本来その作業が果たすべき意義を見失いがちになる。冷静に考えて、常に作業の自己相対化を意識し、目的との乖離を避けねばならない。だからこそ目先の成果によって作業を評価するという陥穽に落ちると、一時的な興奮(先に挙げた長野冬季五輪の「原田の涙」)や華やかさの中で本来の目的を見失い、事後に十分な客観的評価を怠ってしまうはめになる。そうすると長期的なコストパフォーマンスの検証などは望むべくもない。ここでは飽くまで当該地域の持続的な発展につながったかどうか、自治体の成果を計るメルクマールのベースとならなければなるまい。一例を挙げれば、後述する調査結果にボランティアの応募が多かったことを成果としてあげていた自治体もあるが、それはまだ「稼働レベル」の指標でしかないのである。

こうして考えると、成果の根拠となる地域振興とはそもそも何なのか。それを問い直すことこそが、最も重要な課題であることが明瞭になるであろう。そこでは即ち、当該地域が自らの「地域像」を明確に持ち得ているかどうか問われるのである。そして「国際スポーツイベントの開催」とは、たかだかその目的を達成するための手段、あるいは方法でしかないという点、今更ながらではあるがここで確認しておこう。

調査の目的は識別ではない

誤解の無いように付言すれば、この調査の目的はWカップによって獲得された成果の全てを実証し、評価することではない。また、25の評価指標によってその出来不出来を評価するものでもなければ、事前に当該地域の自治体が目標に対して実際に具体的な施策として何を行ったのかについての、事実を調査して、その真偽を確かめるものでもない。これらは全て当該地域住民の問題である。

繰り返しになるが、まず当該地域が自らの「地域」ビジョンを持つことが必要なのである。そこで今回の25の調査項目全てを平等に扱う必要性は全くなく、プライオリティーをつけることが自らの「地域」観を明確化させることに他なるまい。25項目全てを網羅する必要さえありはしないのである。ここで明らかにしたいのは、「何をどのように判断しているのか」、「自らの検証によって判断しているのか」、といった事実関係なのでありその成果を判断する当事者は飽くまで当該地域の行政と住民でなければならないのである。ここで意図されているのは、成果そのものを実証することではなく、事前に何が標榜され、それがどのように施策として意識され、政策当事者はその成果をどのように考えているか、という「メカニズムの実態」を明らかにすることである。

そこから導き出された結果により、

- ・ 「事前に『目的』を明らかにすること」
- ・ 「あらかじめ『目標（値）』のコンセンサスを作っておくこと」
- ・ 「事後の『**成果調査検証と評価の制度化**』を確立すること」

の議論の開始が期待される。本調査はその目的のために、議論の基礎として便宜的な指標を提示し、「目的」明示、「目標（値）」設定、「成果」検証と評価のフレーム設定を提案するものである。

1 . 調査結果

今回の調査にあたっては、第一段階として 10 の開催自治体に対するアンケート調査（別表参照）を行ってから、第二段階としてその結果をもとにヒアリング調査（一部書面による調査）を行い、最後にそれら回答に付随する文献等資料調査を実施した。個別の調査結果については「 . 資料編」として全データを掲載したのでそちらを参照いただきたい。本項ではそれら結果をもとに、いくつかの考察を試みることにする。

1-1 事後調査の必要性の認識

アンケート調査における最初の質問は、各自治体が事後調査の必要性をどの程度認識しているかを確認するものであった。「事後調査はすでにしていらっしゃいますか？」という問いに対して「はい」と答えた自治体は、横浜、静岡（経済波及効果のみ）、大分の 3 自治体で、それぞれ議会等への報告書類、もしくは自治体で経済波及効果の調査を行っていた。

一方この質問に対し、「いいえ」と答えた残りの 7 の自治体の内、「する予定はない」と回答した自治体は、札幌、宮城、新潟、神戸の 4 自治体である。また、「今のところはしていない」と回答したのが、埼玉、茨城、大阪の 3 自治体であったが、これらの自治体に「ではいつ頃やる予定ですか？」と質問したところ、茨城は「実際にはする予定がない」という回答であった。埼玉、大阪についても「やらないと決めたわけではない。ただし、やるための予算はとっていないので、やるとなった場合には別途予算の調整が必要となる」という趣旨の回答を得たことから、この両自治体とも「やる予定はない」と考えるべきであろう。

アンケート実施時の各自治体における事後評価の状況

すでに実施している	横浜 静岡（経済波及効果のみ） 大分
今のところはしていない	札幌 宮城 新潟 神戸
する予定はない	埼玉 茨城 大阪

1-2 調査自治体共通の問題認識

各自治体から、共通して見られた意見として以下のようなものがあった。

・「試合数が少なかった」

日韓共同開催だったことも影響して、各開催地の試合数が 3 つ程度にとどまった。この点に関しては、折角盛り上がったものの時間的に限界があった、経済波及効果は一つだった、などの意見が多く聞かれた。

・「キックオフの時間が早かった場合は、宿泊する客が少なかった」

試合の開始時間が 15:30 ばかりだった地域などは、日帰り客が多く、その地域への滞在は当初の見込みほどではなく、経済効果は今一つだったとの意見もあった。

・「極東の地のため、外国人の流入が少なかった」

極東の地までのアクセスはやはり非常に不便だということと、海外参加諸国の経済状況もあいまって、海外からの流入客は、当初期待していたほどなかった模様。このことが地域経済の活性化に今一つ反映しなかった要因として、各自治体から指摘されていた。

これらの意見を総合しても、日本のように小さな国（韓国も同様と思われる）で、新幹線網、高速道路網が整備されていると、外来の観光者の多くもよほど交通が不便でない地域以外は、日帰りなどの首都圏滞在型となっていた模様。そのため、各地域への宿泊や観光、飲食などによる経済効果が、期待されたほどではなかったということは否めない。

・「地域の知名度の向上」ほか

各自治体に共通して成果が認められた点として「地域の知名度の向上」ということが挙げられており、メディアへの露出の高さは W カップならではの部分も大きかったといえよう。またボランティアに対する評価も、各自治体に共通して高かった。

1-3 調査自治体の戦略性の特徴

アンケートの第二問目であげた 25 の項目（環境や国際交流などの具体的な施策、表参照）について、「開催前に充実／促進が図られると意図していたか」また「具体的な施策や事業を実施したか」を質問した。この点に関して、宮城、埼玉、大分の 3 自治体はすべての項目について開催前から期待し、また具体的な施策を施していたと回答した。横浜、静岡に関しても、それぞれ 1 項目を除いてすべてについて充実／促進が図られることを意図していたという結果で、施策や事業実施についても積極的であった様子が窺えた。

一方、札幌は充実／促進を期待していなかった項目が 7 つ、期待していた残り 18 項目の中でも 6 項目については具体的な施策が行なわれておらず、充実／促進を期待し、実際に施策を実施したのは半分以下の 12 項目という回答だった。さらに大阪に至っては、期待していなかった項目が 10 項目、期待していた残り 15 項目の中でも 8 項目については具体的な施策が行なわれておらず、充実／促進を期待し、実際に施策を実施し

たのは実に7項目という回答だった。なおこの結果は、ただちに当該自治体の怠慢を意味するものではない。むしろ「具体的戦略が絞られていた」という可能性もあり、個別の検討が必要であろう。

以下、各自治体の戦略/事後評価に関して主な特色を示していく。

札幌市

開催自治体の中で、具体的な施策実行範囲が最も狭かった（最も絞られていた）。

世界の注目を集めたアルゼンチン VS イングランド戦が行われたことを含め、札幌と札幌ドームの認知度を高めたことは、札幌市としてかなり評価している。だが対戦カードは自治体の施策範囲外のことであり、この点に高い自己評価を与えるのでは自治体としての当事者意識、あるいは当事者能力について疑問を抱かざるを得ない。かつて長野で行われた冬季五輪で最大の成果はとメディアから問われた時に、長野県の担当者が「ジャンプの原田の涙」という自らの立場を弁えない回答をしてしまったのと同質なものが看取されよう。

一番の成果としているのは「札幌ドームの建設」である。一般に行政は、建造物について高い評価を与える傾向があるが、ここも例外ではない。更に、この点に関して今後の活用方法についての施策があまり明確になっていない印象がある。またこれと連動して、ソフト（具体的にはJリーグチーム「コンサドーレ札幌」とプロ野球の「日本ハム・ファイターズ」）との関連を含めた戦略も不明確である。「箱モノ行政」という指摘に対して、どう応えていくのか、今後の対応が注目される。

宮城県

今回のアンケート調査にあたっては、回答期限を2002年末とお願いしていたが、宮城県は回答が最も遅れ、1ヶ月ほどずれこんだ。「宮城スタジアムの問題（交通の便の悪さ等からその採算性がかねてから問題になっている）」が注目を浴びているが、その問題が回答遅れと関連しているかどうかは不明。ボランティア活動に関する成果については高い評価をしている。またJリーグチームの「ベガルタ仙台」に継承されたサッカーの人気の高まりやイベント運営ノウハウ等の関連性への分析は、「箱モノ行政」に留まらないという気概が感じられる。

茨城県

県知事が自らインタビューに応じた点は、認識の高さという点で評価すべきであろう。また知事の「自己評価で95点」という高い評価は、達成感の高さを表すものであろう。特にスタジアム周辺の盛り上がりに関しては、全自治体の中でも最高レベルのものだったとの自負があるようだ。この点に関しては、Jリーグチームの「鹿島アントラーズ」

の存在が、自治体や地域住民にとって経験となって蓄積していたためである、という意識が明確であった。もっとも一方で立候補時点では、それほど明確な戦略的な目的意識がされていなかったと知事自らが告白していたが、その点については、立候補段階ではJリーグも開始されておらず、サッカーに対する意識が国内ではそれほど高くなかったという背景もあり、他の自治体も含め致し方ない部分かもしれない。事実、多くの自治体は日本開催が決定し、大会初出場となったフランス大会を視察するまで、「うちは最近国体を開催したから大丈夫」などというように、何かと国体を引き合いに出す(的はずれな)発言が多かったのである。

埼玉県

「地域のメディア露出」「環境保全意識」「国際化に対する意識」などについて高い成果があったと考えている。環境関連に明確な言及をしている自治体は意外に少ない。ここから自治体独自の戦略、目的意識がはっきりしていたのではないかと推察ができる。スタジアムについては、確かに「日本最大のサッカー専用スタジアム」という非常に分かりやすい点を差別化要因として高い評価はしているが、埼玉にはJリーグのチームが「浦和レッズ」「大宮アルディージャ」と2つあるにもかかわらず、いずれも埼玉スタジアムのホームチームとはなっておらず、「ハード」と「ソフト」の有機的で統一的な戦略が存在していたのかどうかは疑問である。この点についても質問したが現時点では明確な回答が得られなかったことも付言しておく。

横浜市

アンケート回答自体は模範回答に近いものではないか。全ての項目について、しっかりした検討がなされ、その上で施策を検討吟味し、実行したという政策上の整合性については、スキがない。特に「ボランティア活動」について重要視し、問題意識が高い点は特筆すべきであろう。

だが、ここで挙げられている結果(あるいは短期的な成果)を今後どのように(中長期的に)活かしていくかという戦略的な取り組みについては、「重要である」「望ましい」などといった表現に留まり、その「重要性に関する認識」に伴って何がどのように実行されていくのか、具体的な言及が一切無く、従って実行度に関する評価の指標も存在しない点は問題である。他方、自己評価の内容については、「決勝戦の開催」=「開催地としての成功」といったような単純な評価をすることなく、客観的な評価を試みる姿勢が見られた点は行政のプロとしての矜持が感じられ、評価できる。

新潟県

Wカップを通じて、サッカーJ2チーム「アルビレックス新潟」の存在が生み出すシ

ナジー効果について、自覚的である。実際にその効果はアルビレックスの試合入場者数増加といった数値で評価できる現象に反映されている。大会に利用された新設のスタジアムは比較的市街地に近く、ホームチームも存在しているため、Wカップでの盛り上がり地域資産として活用し、文化としての定着を図り住民の生活充実に結びつけるという図式で発展可能性が最も見込まれる。

静岡県

知事自身が直接インタビューに応じた姿勢は、「サッカー王国」の自負が感じられる。自らその達成度は90点と語るように、全体的に高評価。マイナス要因は、外国人訪問客と開催ゲーム数が少なかった点だ、という評価であった。この点に関しては、東京やその他の大都市からの新幹線や道路交通網の充実が却って仇になり、静岡での試合開催が静岡への滞在に直接的に反映しないことが大きく影響しているのではないかと思われる。

大阪市

全体的に事後の自己評価は低い。Wカップに対する大きな期待に比較して成果が低かったことへの失望なのか、それとも自分たちが課題に対して想定通り運営できなかったことに対する真摯な反省なのか、その原因は不明であるが、その中でも「地域のホスピタリティ向上」「ボランティア活動の充実」については実感をもっているようだ。五輪招致も含め、スポーツでソフトとハードを併せて総合的に地域を活性化させる、という意識は高い。

神戸市

「神戸の震災復興の要素を世界に発信することが大きな目的だった」という中で、「地域のホスピタリティ向上」「国際交流」「ボランティア活動の充実」については成果が上がったとの評価をしている。ただ、復興神戸をPRするための具体的施策に関して、今一つ戦略性が不明である。

また、神戸市の女子選抜サッカーチーム「神戸エンジェル」が中心となって提案実施した「アフガニスタン難民キャンプへサッカーボールを贈る運動」を成果として挙げていたが、それが地域振興・活性化に向けた戦略的位置づけに基づくものなのか、単なる美談を作りたかったのか、その趣旨が不明確である。

なお神戸市は、ワールドカップ担当部署の解散が最も早かった自治体だった(アンケート送付時点で、「教育委員会庶務課」に戻っていた)点も付記しておく。

大分県

知事も達成度を 120 点と語ったように、その戦略的な取り組みは際立っており、評価に値するだろう。自己評価も軒並み 5 点満点が並んだように、達成満足度も非常に高い。試合開催のみならず、カメルーンのカンパ地として中津江村が注目を浴びたように県全体の PR 効果も高かった。大会開催後に「大分トリニータ」が 2002 シーズンで J1 に昇格する等、そのシナジー効果を最大化するような事態も起こり、成果を実感として得ている自信と自負がはっきりと表れている。

小規模の地方都市でも世界規模のイベントを開催できることを証明したこと、またそのノウハウを得たこと、それによって地域アイデンティティーの確立が図れたことは、実体として大きな財産となったであろう。また、W カップを一過性のものとしないう「ワールドカップ大分開催成果継承委員会」を設置し、成果を引き継ぐための取り組みの検討体制を整えている点は、その戦略的な対応という点で特筆すべき事項である。

2. まとめ

2-1 今後の課題

W カップと縦割り行政

「スポーツによる地域振興」という政策に関して、W カップの開催を通じて判明した奇妙な事実がある。役所の縦割り行政という問題が指摘されて久しいが、地方自治体における「地域振興」に関する予算もその例外ではなく、中央省庁の管轄別に分かれているということだ。例えば農林水産省管轄の「地域振興予算」で農道の整備が行われる。また経済産業省管轄では、中小企業の助成策が「地域振興」の名のもとで実施される。スポーツを管轄するのは、言うまでもなく文部科学省であるが、その文部科学省管轄の予算には「地域振興予算」という項目がそもそも存在しないのである。「地域振興」という政策がある地域の行政施策として存在するかどうかを判断する規準は、第一に予算化がなされているかどうかであろう。無論、予算化されていることが、ア priori に有効な政策が実施されているということではない。しかし、予算化されていないということは、実施すべき施策自体が存在しないということに他なるまい。

それでは「地域振興」を主要な業務領域にする総務省（旧自治省）はどうか。こちらには残念ながら、「スポーツ」に関わる事項は「文部科学省」のものであると言う認識があり、自ら実施すべき行政施策のなかに「スポーツ」という領域はない。

スポーツによって「地域振興」は可能である。むしろ積極的に進めるべきだとの議論もある。筆者はその議論に大いに与する。一方で、わが国に「スポーツによる地域振興」という政策は、少なくとも名目上は現実には存在しないのである。この事実は一般に知

られていないのではないだろうか。そしてこの点において一般の認識と現実とは、大いに乖離しているのではないだろうか。我々は、我が国では「スポーツによる地域振興」政策が行われているという幻想を持っていないだろうか。我が国のスポーツには、曖昧で情緒的な議論が多いと感じるのは筆者のみであろうか。例えば「スポーツ文化」などという多義的で定義の困難な用語は、何かの不在を隠蔽するのには便利なことばである。山本七平氏が名著『「空気」の研究』*において指摘したように、我々日本人はとかく冷静な現実の認識と分析を欠き、「何となく」「そう思いこんで」行動を決定するきらいがある。問題を解決するためには、現実の正確な事実認識から開始しなければならないのである。「スポーツによる地域振興」とは、具体的に何を指すのか。その現状は一体どのようになっているのか。それらのどこが問題なのか。今や我々は現実に関して具体的な事実関係を把握し直す必要があるのではないだろうか。情緒的な議論ではなく、事実に基づいた議論を開始しないと、現実的な政策論議に進まないのは今更論を待たないのである。

たしかに「地域振興」を前面にかつ直接に打ち出せる省庁と、そうではない省庁があるのも事実である。なぜなら、各省庁は、それぞれ権限・目的が明確になっており、地域振興を真正面から打ち出せる省庁は、総務省と農水省ぐらいであろう。それ以外の省庁は、対財務省や対総務省との関係で「地域振興」を前面に打ち出せない。実際に某開催地方自治体では、文部科学省管轄のスポーツ関連政策部署からの担当者が主になって開催の運営事務局が設置され、その際に「Wカップによる地域振興」をスローガンにしたところ、総務部から呼ばれ「どこの予算を狙っているのか」と糾弾された上、スローガンの変更を命じられている。総務部長は旧自治省出身者であった。従って、総務省以外が「地域振興」に関与する場合、それぞれの所管施策の振興を第一義的に掲げながら、それが結果的に地域の振興にも繋がるというロジックで施策を立てているはずである。まさに縦割りの弊害である。

無論、政治的な配慮を別にすれば、文部科学省が地域振興予算を持ってないという合理的な根拠はない。現実には文部科学省も地域振興を直接の目的とすると謳った施策こそ打ち出していないが、地域のスポーツの振興や地域の文化の振興という観点から施策を行っている。それらは直接にはスポーツ振興や文化振興策であるが、結果的に、その地域の振興も図れるというロジックである。

例えば、総合型地域スポーツクラブ育成事業などは、その典型であろう。「スポーツによる地域振興」では、スポーツが手段と位置づけられるため、文部科学省の「まずスポーツ振興 それが地域の振興に繋がっていく」というロジックとは齟齬を来すという

* 『「空気」の研究』 山本七平著（文春文庫）

ことであろう。だがこのロジックは、外部の者には理解しにくいし、第一、振興すべき地域の住民にとっては全く意味がない区別である。それにも関わらず、従来大型の国際スポーツ競技大会を招致する際、議会答弁などで必ず「この地域の振興のため開催いたしたく」などと招致事由を説明している。そしてその成否は大会開催後、誰も問うことの無い空疎なお題目であることを行政側は承知の上なのだから、相当性質が悪い茶番劇が連綿と繰り返されてきたといえる。

近くは98年に行われた長野冬季五輪も例外ではなかった。あれだけ大掛かりなことを行い、巨額な公金も投入されたにも関わらず、成果が調査され評価が公表された形跡がない。またそのことの不在が問題視され議論されたという形跡も見当たらない。成果を調査し報告しない当時の長野県の行政側に「アカウントビリティー」という意識が希薄だったというだけでなく、その報告を受けるべき納税者の県民側にもそれを要求するという意識が希薄なのである。それで良しとするなら、「アカウントビリティー」などは望むべくもなく、もはや民主主義の放棄以外の何ものでもない。

行政評価に馴染みにくいスポーツというソフト

今大会の行政評価というと、第一に施設面の問題が想起されよう。いずれも数百億円の税金を建設にかけた大型の公共投資である。大型の施設建設は「行政評価」に最も馴染むものではある。その公共投資はどのような見地から正当化され得るのだろうか。例えば、現在ロンドンで建築中の「サッカーの聖地」ウェンブリースタジアムは、資金繰りとその回収計画が公開されている。これらの事前計画が明らかであれば、事後の評価はやりやすい。しかし残念ながら、我が国においてはこのように比較的评价が容易なハードについてもそれが十分であるとは言い難いのが現状である。

今大会で利用された10のスタジアムのうち4つはJリーグ等のホームチームを持たず、中にはその上極端に交通の便の悪い場所に作られたところもあり、事後の利用に問題を抱えるところは少なくない。「国体の予算で建造するので、ホームチームは不要」と述べた自治体がある。ホームチームというのは当該スタジアムにとってはソフトの中核となる存在である。「国体予算で建造した」ことが「中核ソフトを保有しないでもいい」という根拠になり得るであろうか。常識で判断すれば答えは明白である。こういった対応の結果、建設費を償却するなどは望むべくも無く、毎年数億円の運営赤字の解消に目途がたたないという施設が過半である。正に「典型的なハコモノ行政」という誹りはいくらかでも可能ではある。しかしこの問題を事前にチェックできなかった責任に言及することなく論ずるのは、無意味で不毛である。「Wカップの開催が終了するまでは、そういった問題を表面化しないような」バイアスがマス・メディアにも存在したことは、疑いようの無い事実である。そういった事態を招来してしまった土壌、あるいは我々を含めた制度を再検討する必要がある。

そしてそれはスポーツに限ったことではなく、一般的に音楽等も含めて、ソフトは行政評価には馴染みにくい。わが国の場合、特にソフトの評価は社会全般で遅れをとっていると言われている。我が国は今後「知財立国」を目指すべきであるとの議論が近年盛んになってきているが、その際しばしば指摘される問題は、従来我が国では「ソフトウェアの資産評価」が未発達であったという点である。ことほどさように、特にスポーツイベント開催によって期待すべき成果には、所謂「行政評価」には馴染みにくいものが少なくない。さらに今回の調査項目には「地域のアイデンティティ」や「意識の一体感」なども含まれている。確かにこれらは行政評価の対象として扱うには厄介であることには違いないが、スポーツに期待する項目としては一般的かつ正統的でさえあると言えよう。「スポーツの公共性」とは、むしろそういった側面に依拠して成立していると考えられる。

また現代のような高度に情報化された社会では、決まり切った日常を打破する非日常的な機会、即ちカタルシスを提供する機会の重要性は増している。スポーツイベントはまさにそのイベント性、祝祭性によってカタルシスの機会を万人に提供する貴重な装置である。確かにこの点については、2002年の6月(Wカップ開催時)に日本中で改めてそれが実感され、また確認された。もっともカタルシスが社会的な便益である点に異論はないであろうが、行政評価の対象として考えれば測定が困難であるには違いない。

さて、制度を再検討する上において不可欠なのは「事後の評価システムの構築」と「結果の公表」である。既に前述の「国際スポーツイベントによる地域づくりに関する調査研究」報告書において、この点の重要性が強調して述べられている。そして、開催された10の自治体に平成11年3月、つまり大会が開催される3年前に、この報告書は20部納品されているのである。ここで同報告書の当該部分を下記に掲げておこう。

(5) 事業評価システムの構築と定期的な評価結果の公表

国際スポーツイベントによる地域づくりを効率的、効果的に推進していくためには、事業評価システムを構築する必要がある。評価システムの構築にあたっては、評価の目的、評価の体系、評価の視点と方法を明らかにし、評価者を選定することになる。評価者は、地域の住民を中心に構成するのが望ましい。

イベント開催期間中は、地域づくりのアクションプログラムの中でも、とりわけ社会実験の対象となるプロジェクトを中心にモニタリングを実施することになる。

イベント終了後は、その直後と2～3年間隔で定期的に地域づくりの成果を評価し、その結果を公表することが望ましい。

評価の対象の中心は、開催目的の達成度、開催理念の浸透度や実現度であるが、イベント開催に伴い発生する問題の解決・解消の度合いも評価することが望ましい。また、開催の費用対効果の推計を実施し財政負担の解消度合いを評価し、公表することが望まれる。

平成11年「国際スポーツイベントによる地域づくりに関する調査研究事業・報告書」(p80)

スポーツの持つ象徴機能

スポーツの果たす機能あるいは効用に関して、公共性と同様に重要であると思われるのは象徴性であろう。スポーツは多くの人に同じ参画意識を持たせ得る強い象徴機能を有す。例えば静岡の石川知事は、我々のインタビューにおいて以下のようにその価値を指摘した。

「今回のWカップでは、多くの一般県民が自発的に様々な催しを企画・実施した。また行政とパートナーとなって共同で行った事業も多く、この経験はこれから民間あるいはNPOなどと行政がアフィリエイト関係（*筆者註：提携関係）を結ぶなどして、共同でいろいろな問題に対処していく上で、いわばパイロット事業のような機会でもあった。これはWカップの持つ魅力によって、多くの人と同じ目的・目標意識を共有することで初めて可能であった。」

ここで指摘されている、「自発的な参加」という点は頗る重要である。「行政主導のボランティア」とは言語矛盾以外の何ものでもないのだが、ボランティアの思想・文化・経験に乏しい我が国では、従来そういった例、即ち「行政主導のボランティア」が少なくなかったようだ。市民がボランティアを「する」、行政がそれを「受け入れる」という関係をどのように構築していくかは、経験を通して学習するしかないのである。その過渡期においては、行政主導のボランティアという矛盾した事態にも一定の意味を認めなければならないのであろう。特に今後の地方行政を考えれば、いわゆる「三位一体の改革」に伴ってパブリック・サービスのアウト・ソーシング化が大きな課題として浮上してくることが容易に予想される。エージェントなどの中間的な法人を活用することなど、アウト・ソーシングされる受け皿には従来にない様々な形態での検討が必要である。いずれにせよ、従来型の「官対民」の図式では解決不能なテーマであり、民間の「自発的な参加」が鍵となるであろう。

この点で「Wカップの開催」は、現時点でどのような関係を取り結ぶか具体的な方途が見えない「官」と「民」両者の距離を一挙に縮める機会を提供したようである。開催地となった自治体の全てが、アンケートで「ボランティア」に言及していることが、この問題へのアプローチに関する関係当局の切実さと、にも関わらずなかなか有効な手段が見いだせない現場の手詰まり観が反映されているのではないだろうか。

つまりこれら「市民のボランティア参加」も確かに大きな成果には違いない。しかし同時に、その成果をどのように評価すべきなのかという点について、いまだ確たる手法と指標が存在しないというのもまた冷徹なる事実である。我々もここで実施したアンケート調査を通じて、この点の限界と困難さを強く認識させられた。

ただし、「スポーツは行政評価になじみにくい」という事実が、大会の事後検証を怠る言い訳にならないのは今更言うまでも無い。困難だということがイコールやらなくてよいということにはならないのである。あらゆる事項について、どのような評価手法が開発されようが、100%正確な評価などは不可能ではある。だからといってそれが評価不要の根拠にならないのも最早多言を要しまい。

自治体の当事者意識と温度差

現実に調査を開始すると、行政の対応にはその当事者意識の違いによって、随分と格差があることも明らかになった。格差の第一は「Wカップ開催の意義」に関する認識の軽重である。結論から言えば、大分県の戦略的な取り組みは際立っていた。事前の戦略的な意図と、実際の施策と、事後の成果の利用という行政の継続性という観点では、見事な整合性が見られた。中津江村をめぐる一連のハプニング（大分県中津江村をキャンプ地にしていたカメルーン選手の到着が大幅に遅れたことに端を発した一連の出来事）は、確かに望外の僥倖ではあったろうが、ここまで周到な準備があったればこそ、神様の粋な取り計らいだったのではないかなどとってしまうほどである。もっとも、重ねて言うが、大分県が実施した戦略的取り組み自体は大いに評価すべきであるが、現時点で明らかになっているのはあくまで「何をしたのか」という施策レベルの話なので、評価段階としては「稼働」レベルのことである。最終的な「成果」レベルの評価には数年を要するであろう。今後の定点観測と、その結果を次の施策にフィードバックし、一層効果のある施策に向かわれることを期待したい。

他方、政令指定都市にとっては、Wカップは、数多ある事象の一つでしかないという感じを受けた。例えば調査準備を開始した11月時点でWカップに対応した部署は例外なく縮小されていたが、神戸市だけは部署そのものが解散されて存在していなかった。

自治体のおかれた環境や条件によって、Wカップに期待するものの大小は異なるということであろう。つまり、ある自治体にソフトが多ければ相対的に個々のソフトの価値は低くなる。イベントが多ければ、対応する行政の個々への取り組みは薄くなるという側面もあるだろう。「世紀の大イベント」を特別扱いにして欲しい、という思いが一般のサッカーファンにはあったと思われるが、その思いがそのまま行政の対応に反映されるわけではない。当然の間にはいくばくかの距離が存在するのである。

中には首長がほとんどサッカーあるいはWカップそのものをあまり理解していなかったため、開催地として立候補した理由も「何となく」というレベルのものであったところもある。長野冬季五輪当時の長野県知事が「スピードスケートは水すまじみたいで面白くない」という発言によってスポーツに対する理解の浅さを露呈し、「一体なぜ長野は冬季五輪を招致したのか」と議論になったが、それは決して特殊な例ではないのである。

更には、調査を開始して接触した自治体の中には、「あなた達はどんな権限でこのような調査を行うのか」という、あからさまな不快感を表明したところもある。そういった自治体が独自で事後評価をしているならば、その表明は「大きなお世話」という意味だろうが、残念ながら自分達の怠慢を棚上げにした発言でしかなかった。甚だしいところでは、「そもそもこういう事後調査はすべきではない」と宣った担当職員すらいた。彼らには納税者に対する責任感が疑わしく、公僕という意識が希薄ではないかと感じられた。首長へのインタビューを申し入れた際、想定質問事項に「アカウントビリティ」の語句を見つけ、「挑戦的」だと削除を要求してきたのも当然予想された範疇ではあった。この点アンケートの調査票の第1問に注目されたい。結果は興味深い。第一問では、事後評価の重要性の認識と実施の有無について問うているのだが、独自で評価していると答えたのは前述の大分県を含め3つのみであった。設問時には「当面調査する予定はない」という回答が多いだろうとは予想したものの、まさか「調査する予定はない」と回答する自治体があるとは予想しておらず、いくつかが無自覚に「ない」と回答してきたのには言葉を失ってしまった。詳しくは「 . データ・資料編」で確認されたい。

2-2 今後に向けた提言

【提言1】イベント自体の成功は目的ではない：

「Wカップ開催」とは、「地域振興という成果」にとっては手段のひとつである。

地域振興の全ての自治体において、大会の「盛り上がり」を大きな成果としてあげている。このことから、「Wカップ開催」自体の成果と、「開催による地域の振興」の成果が混同される傾向にあることが判明した。特に「大会開催」運営担当部署にとって、成功・不成功のメルクマールは第一に前者のイベント自体の成功であり、その部署が同時に地域振興全体を課題として負うのは無理ではないか、と思われた。大会開催の成功は「成果」達成にとって必要条件ではあるが、十分条件ではない。大会を開催するための「制度」を備え、さらに大会が成功するという制度「稼働」を確保したら、当初の目的であった地域振興という「成果」を達成するためには何が必要なのか、といった構造的かつ戦略的な視点で捉えることが重要である。

【提言2】「稼働」と「成果」を結びつけることが行政のプロとして求められるものである。

「大会開催という制度稼働」を「地域振興という成果」にどう結びつけるかということこそが、行政のプロとして求められるもののはずである。そうでなければ、民間のイベント業者が運営を行った方が効率は高いはずだ。（この場合の効率とは、飽く

までイベント開催を目的とした場合のものである。)

開催自治体の内部における担当部署による事後評価の中心は、「何を行ったか」であり、しかも「盛り上がり」や「円滑な運営(で無事に済んだ)」といった「大会開催自体の成否」に関するものに偏っているきらいがある。つまり大会開催という、本来は地域振興にとって手段であるべきものが、自己目的化してしまっている。一般に官僚組織は自分の仕事を自己目的化する傾向があるが、Wカップの開催もその例外ではなかった。

自己目的化を避けるためにはよほどしっかりしたフレームを設定し、事後評価とその情報開示をフレームの中にビルトインさせて置く必要がある。(アンケートの第1問目で事後調査実施について問うているが、「実施している」と回答したのは3カ所のみであった。)

【提言3】 イベント開催には事前の戦略的視点と事後評価が求められる。

達成された成果としてあげられたものの中には、事前に期待していなかった望外の事柄が散見される。いずれも結果論としての「成果」ではなく、事前に予想され得たのではないかと推測される。そして事前の予想に基づいて戦略的な対応をしていれば、更に成果は大きかったのではなかっただろうか。「スポーツのビッグイベントが、地域振興にどう貢献するのか」について真摯な検討をし、潜在的な可能性をできるだけ顕在化させるのが当該地域の行政の責任であるならば、今後はこの調査を初めとした様々なケースを研究し、できる限りの準備を怠ってはならないだろう。

本調査から明らかになったのは

「国際スポーツイベントの開催」を「地域振興」に結びつける戦略的視点の欠如
事後評価の必要性に対する感覚の希薄さ

である。

従って今後必要なのは、

国際スポーツイベント開催地において、開催によって達成すべき「地域振興の具体的内容の明確化」

達成された成果の事後調査と評価、及び結果の公開
であり、これらを制度化する必要があると思われるのである。

【提言4】スポーツイベント開催に際し、アカウントビリティーは重要である。

スポーツの世界では、とかくアカウントビリティーが軽視されてきた傾向がある。これまでは、何について議論すべきなのか、議論のフレーム自体が設定されておらず、アカウントビリティーを問う側と問われる側に共通の議論が成立しにくかった。

前述したように、アカウントビリティーを果たすために第一に必要なのは、該当事項に関し、事前に「目的」と「目標」が説明されていることである。それらを明示する課程で議論を行う共通のフレームを形成することが可能である。「目標達成度を自己評価し、説明しないかぎりアカウントビリティーは果たせない」のであるが、その評価指標がお手盛りの我田引水となる危険は避けなければならない。となると評価フレームの設定課程に第三者としてその道のプロである有識者を参加させると同時に、住民にも参画させることが望まれよう。それは住民も主体として結果に対して一定の責任を持つことをも意味する。「事前の説明」と「事後の検証・評価」がセットになったアカウントビリティーの達成も、それ自体が目的であることは今更言うまでもない。屋上屋を架すことを承知で述べれば、「目的と手段の混同」には常に留意が必要である。アカウントビリティーも独立した価値を持ったものでなく、全て地域の健全なる振興発展に繋がって初めて意義のあることとなる点、強調しておきたい。

以上のコンセンサス形成の作業を通じてアカウントビリティーを果たすことは、「スポーツの公共性」を担保する最低限の条件であることを最後に付言しておこう。

2-3 本調査についての事後評価（参考）

さて、本調査の主題は「事後評価」である。従来、ややもすると軽視されがちであった「事後評価」の重要性を喚起し、その実践を極めて重要なものであると位置づけている。従って、筆者が行った調査自体への事後評価も不可欠な要素であると考え、政治学のご専門である飯尾潤政策研究大学院大学教授（RIETIファカルティフェロー）に行政学的な観点から今回の一連の調査についてのコメントをお願いした。

【行政評価の視点】

- 一般に政策や行政の評価としては、次の3つの種類がある。事前評価、行政評価、事後のプログラム評価である。 については通常第三者が行う。この3つとも揃っていることが望ましい。
- 第1の事前評価がどれくらい行われたのかが、まずポイントである。評価の視点は「コスト/ベネフィット分析」が基本になるが、そのためにも、まず目的/目標を設定する必要がある。これは行政評価や、事後のプログラム評価に於いても必要である。

- この調査でいっていることは、「事前評価がされていない」ということ。事前の政策評価をするときに、あるいはこのようなプロジェクトをしようという時に、コスト・ベネフィットの分析が全く欠けているということが問題としてあり、それが事前評価で第1に必要なことである。
- 「Wカップの事後評価」を行政の観点で行うならば、まず担当部局の評価という視点で、行政評価から入るのがよいが、これは事業が行われている間に行うべきものである。
- そこで2番目の行政評価は、目的・目標を与えられた行政機関がその目的・目標を達成しようとしているかどうかを見るものである。これが行政評価の基本であり、いわゆるパフォーマンス・メジャメントである。
- もっとも、まず行政がきちんとした体制であれば、「事前評価」と「事後のプログラム評価」は無いまでも、少なくとも「行政評価」が無ければおかしいのだが、それも不十分なようである。
- たとえば、神戸のケース。組織は早い時期に解散したことの是非はともかくとして、なぜ解散したかが不明なままである。役割/目標を達成したかどうか、そのあたりの評価が十分に出来ていないまま部署を無くすというのでは、行政評価の点からすると問題である。

【Wカップ開催における行政の役割】

- Wカップのようなスポーツ競技大会の開催自体は、本来行政機関でやる領域ではない。従って、行政機関の担当は「どういう役割をどこまで果たすのか」ということが、逆にきっちり明確でなければいけない。いくら本人たちが頑張っても、あくまで主体/主催は競技団体であるから、Wカップ自体がどうにかなるものでもない。その仕分けも重要である。大会開催が全体として成功したから行政としてもよろしいという考え方では、少々具合が悪い。行政が、主催の競技団体を手伝って税金を使うのは、どういう目的のためなのか。そこからどの部分に使うのが導きだされるべきである。
- また第3の事後的なプログラム評価に関してこの調査では、事後的なプログラム評価という事後評価を行政にさせているが、これは本来行政の外部による第三者評価でなければならない。

【調査方法と質問項目の整理】

- この調査における質問項目自体はよいが、質問に仕分けが必要であろう。25項目の質問について、もう少し構造化してグルーピングできるはずだ。個々の質問同士の関係などが不分明なので、体系化・構造化をする必要がある。
- たとえば、「住民意識と一体化」といっても、できた・できないという結果だけでは

なくて、行政としてやっていることがどれくらい寄与しているかという、寄与度の比率を考えておく必要がある。

- 事後的に評価する際には、ある仮説があったほうがよい。そうすると、これは当事者だけに聞いているものだが、そのほかにも効果測定の方法はある。
- この調査で聞かれているのは基本的にはアウトカム指標だが、中にはアウトプット指標も含まれている。たとえば、「鉄道交通網の整備」などはアウトプット指標である。単純に「やるかどうか」だけの話だ。一方「地域ホスピタリティの向上」などは、本当はアウトカム指標だが、札幌などは説明会の実施や基本介護集の配布とか、これはアウトプットの話で終わる。観光客数などはアウトカムとして測りやすい。
- 質問項目が 25 では多すぎるかも知れない。大雑把なフレームを把握するにはよかったかもしれないが、さらに深い分析をするためには、このうちのいくつかを選んで、もう少し実際のインパクトを含めて調べることが必要だ。
- アウトプットは簡単だが、アウトカムを調査するためにはお金がいる。たとえば施策の実施前と実施後の両方の世論調査・意識調査が必要になる。厳密には事前調査をしておかないとアウトカムのインパクトはでてこないのだが、それは普通できないので、その「変化」を事後的に聞き取るということになる。

【アカウントビリティーと事後検証】

- アカウントビリティーという点から考えると、人のお金を使ってやった以上は、検証の責任があるということだ。従ってこれは、知事や市長というトップの責任になる。行政評価はまた別な話で、担当者がどれだけ一所懸命やって結果／成果を出したかたかという話だ。
- 議会がうまく機能していないから、アカウントビリティーという問題が解決しない。アカウントビリティーは、本当は、「住民 - 議会 - 行政」の係に成り立つものである。ところが現状では、多くの地方行政において議会が無視されてやっている。住民・行政直結になっているため、アカウントビリティーはおかしくなる。
- 問題の解消には、議会で予算を決めるときに、調査の予算まで含めてつけるようにすることも考えるべきである。

. データ・資料編

1 . 調査方法

本調査にあたっては、第一段階として 10 の開催自治体に対するアンケート調査を実施した後、第二段階としてその結果をもとにヒアリング調査（一部書面による回答）を行い、最後にそれら回答に付随する文献等資料調査を実施した。

1-1 アンケート調査

調査対象

2002 年日韓 W カップの会場となった国内 10 の自治体を対象に実施した。具体的には以下の通り。札幌市、宮城県、茨城県、埼玉県、横浜市、新潟県、静岡県、大阪市、神戸市、大分県。

調査内容

先述した、財団法人地域活性化センターが 1999 年に実施した「国際スポーツイベントによる地域づくりに関する調査研究事業」を元に、地域づくりについて重要であると思われる 25 の視点を抽出し、これらの視点を中心として、一連の「事業」についての事後評価に関するアンケート調査を実施した（なお、ここでいう国際スポーツイベントとは、一つの自治体で連続して開催することが難しい非継続型のスポーツイベントを指す）。

筆者も関わった同報告書中で我々は、今後「各種の事業を通じた地域づくりには、住民の参画が不可欠」であり、「そのためには、これから進展する高度情報化、国際化、地方分権化などを踏まえて、地域の総意や自発性を活かし、透明性と公平性を備えた地域社会を実現していくことが求められる」と述べた。そして、これからの地域づくりに必要なポイントとして、次の 3 つを挙げたのである。

- ・ 「住民参加による地域社会の共通目標の構築と理解の深化」
- ・ 「活力・魅力ある地域の創造と住民生活すべてにわたる豊かさの実現」
- ・ 「地域の創意や自発性が生かされ、透明性と公平性を備えた地域社会の実現」

さらに W カップのような国際スポーツイベントおよびそれに伴う活動は、こうした地域づくりを進めていく上で以下の 3 つの点で貢献する。

第一は「地域づくりの理念や目標像の理解促進とその地域が有する優れた魅力の発信」である。国際スポーツイベントの有する豊かなメディア性を有効に活用すれば、地域内においては地域の人々が地域づくりの理念や目標像を理解することを促進し、一方地域外には地域が有する優れた魅力を発信することができる。

第二は「ゆとりや豊かさを実感出来る地域社会の創造」である。国際スポーツイベントの開催が地域経済や産業の活性化に寄与し、文化・スポーツについてハード・ソフト

の両面の整備により、質の高い生活の享受に貢献するとともに、地域住民の国際意識の醸成と国際理解の促進に役立つことが期待される。

第三は「新しい時代にふさわしい社会システムの構築」である。国際スポーツイベントは、世界が注目すること、期間や場所が限定的であるということで、新しい社会システムの実験や普及の場として適しており、例えば開催理念の世界への発信、まちづくりの理念や目標像の浸透等普及・PRを行ったり、青少年の国際交流・国際理解教育の実践、社会実験ができたりというソフト面に加えて、開催準備を進める上でインフラ整備を行うなど、ハード面でのストックの充実を図ることもできる。ほぼ全ての自治体において重要項目として言及されていた「ボランティア」の項目は、今後の行政と住民の新しい関わり方の萌芽として期待されているようである。

以上の3つの貢献を大項目として、そこからさらに細かい中項目に体系化することができる。

(参考資料：3-6「国際スポーツイベントによる地域づくりに向けた視点・留意点」)

地域づくりの理念や目標像の理解促進とその地域が有する優れた魅力の発信

「地域アイデンティティの確立」

「地域からの情報発信・地域イメージの向上」

ゆとりや豊かさを実感出来る地域社会の創造

「地域経済・地域産業の活性化」

「文化・生活環境の整備拡充」

「地域スポーツの振興」

「地域の国際交流の推進」

新しい時代にふさわしい社会システムの構築

「交通通信基盤の整備」

「住民参加の促進、ボランティア・NPOとの協働」

「環境保全(環境への配慮)」

「セキュリティ・ホスピタリティの向上」

さらに国際スポーツイベントによる地域づくりの視点を小項目に分類すると57項目となる。これら57の項目の内、今回の調査の場合は、Wカップを開催した10自治体に規模の大小があるため、Wカップの特性と共通する視点に鑑み、代表的な25項目を抽出抜粋した。

なお地域づくりのための各施策については、個々の項目は独立に存在するのではなく、「国際スポーツイベントによる地域づくりに求められる視点」に立脚して、総合的な成果を高めるために、それぞれが関連した要素であることは言うまでもない。

以下にその代表的な 25 項目の具体的なチェックポイントについて簡単な解説を付記する。

アンケート項目

1. 住民意識の一体化

W カップという国際的スポーツイベントを地域で開催したことにより、ひとつのことに向けて住民の意識が一体となっていたこと。

2. 住民の連帯感の醸成

W カップという国際的スポーツイベントを地域で開催したことにより、ボランティア等の参加を通して住民が連帯感を持つようになったこと。

3. 地域の誇りや住民の自信の獲得

W カップを開催した都市として国際的に知名度も向上し、住民が地域に対して誇りと自信を持つようになること。

4. 地域文化の見直し

W カップを通して地域に根ざした個性のある文化の創造や歴史、文化的財産の継承・保存・再生などを意識するようになったこと。

5. 地域名のメディア露出

W カップを通じて様々なメディアに地域名が露出したことにより、知名度や地域イメージが向上したこと。

6. 外来観光客数の増加

W カップ開催中または終了した後、国内外からの観光客数が W カップ開催前と比較して増加していること。

7. 商店街の活性化

W カップの開催に当たって地元商店街でイベントやバナーの掲出などを行ったことにより商店街への観光客が増加したこと。

8. 地域経済への波及

9. 交通渋滞解消 / 自動車交通の定時制の確保

必要に応じて幹線道路等の整備・建設を実施すること。また交通施設の安全性・快適性の向上に対して施策を実施すること。

10. 鉄道交通の整備

必要に応じて鉄道交通網の整備・建設を実施すること。また鉄道交通の安全性・快適性の向上に対して施策を実施すること。

11. 街並など景観の向上

Wカップの開催に当たって都市サインの統一、公共施設の緑化等、街並みや景観の形成・維持・向上を意識したこと。

12. 住民の美化運動の実践

Wカップの開催に当たって住民が参加してのガーデニング等美化活動が活発に行われたこと。

13. ボランティア活動参加者の増加

Wカップを通してボランティアの参加者が増加したこと。

14. ボランティア活動組織の増加

Wカップを通してボランティア参加者による新しい団体が増加したこと。

15. 地域ホスピタリティの向上

外国人観光客の活動しやすい環境づくりや交通施設等のバリアフリーなど福祉の街づくり等を実施したこと。またそれに伴う行政やサービス産業のサービス水準が向上したこと。

16. 国際意識の向上

Wカップを通じて外国人観光客や参加選手等との交流や国際交流を目的としたイベント等を実施することで、住民が国際交流や国際協力など海外へ理解を深めようとするようになったこと。

17. 国際交流の進展

Wカップを通じて海外都市との交流や外国人留学生の受け入れなど国際交流・国際協力が推進されていること。

18. 青少年への国際理解教育や社会教育の実践

Wカップを通して海外への理解を深めるためのイベントや教育が実施され、Wカップ終了後も継続していること。

19. 環境保全意識への高まりへの寄与

地域の自然や緑の保全・回復、環境にやさしい街づくりの推進、環境教育の推進

等が W カップを契機として実施されるようになること。

20. スタジアム等スポーツ施設の充実

開催会場となるスタジアムの整備・建設を実施したこと。またスタジアム周辺施設等の W カップに必要なスポーツ施設を整備・建設したこと。

21. スタジアム等スポーツ施設利用の活発化

競技施設を活用したスポーツイベントの実施やスポーツ・レクリエーション環境の整備等により住民が積極的にスポーツ施設を利用していること。

22. 地域スポーツの活発化

W カップを契機として新たなスポーツイベント等を開催するようになり、住民がスポーツに積極的に参加するようになったこと。

23. スポーツ参加率の上昇

W カップを契機としてスポーツをする住民が W カップ以前よりも増加したこと。

24. スポーツイベント運営ノウハウの獲得

各種スポーツイベントの運営に必要なノウハウが W カップを通じて共有され、今後他のスポーツイベントに活かしていく状態ができていること。

25. サッカー人気の高まり

同地域をホームタウンとするプロサッカーチームの試合に来場者数が増加したこと。地域のメディアにサッカーの露出が多くなったこと。同地域で開催するサッカーのイベント等に参加者が増加したこと。

アンケート内容

内容は、「事後調査の必要性への認識」「具体的な事後評価と戦略性」「その他補足」という3つの角度からアンケートを実施した。以下は具体的な質問項目である。

<事後調査の必要性への認識>

Q1. 貴自治体におかれましても、W カップに関する事後評価は重要であると認識していらっしゃるかと存じますが、すでに事後評価はしていらっしゃいますか？

W カップの事後調査の重要性、必要性についての認識の有無

<具体的な事後評価と戦略性>

Q2. 25 の項目について A ~ C の三段階でご質問します。

A . ワールドカップ開催前に、W カップ開催によって、下記項目について「充実/促

進」が図られると考えておられましたか？

開催前の充実 / 促進についての意図の有無

B . A で「1. はい」と回答された場合は、そのために施策や事業を実施しましたか？
もしされている場合は、その具体的な内容をお書きください。

意図があった場合の具体的な施策とその内容

C . W カップ開催を終え、下記項目について、その成果を評価するとどのようにお考えですか。

またその成果を評価するための客観的な指標はありますか？もしある場合には、その項目と内容を具体的にお書きください。

なお「現時点で評価できない」とする場合は、いつ頃評価できるようになるのでしょうか？評価できる時期とその理由をお書きください。

開催後の成果に対する実感とその客観的分析に対する取り組み

<その他捕捉>

Q3. 貴自治体における W カップの事後評価について、特記すべき事項を自由にご記入下さい。

追加補足自由回答

1-2 ヒアリング調査

調査対象

1. のアンケート調査の結果を受け、2002 年日韓 W カップの会場となった国内 10 の自治体の首長（県知事ならびに市長）へのヒアリング調査を実施した。ただし、一部自治体については、首長への直接のヒアリング調査が不可能であったため、W カップ担当者レベルのヒアリングの実施（横浜市）もしくは文書回答（札幌市、宮城県、新潟県、大阪市）となった。

札幌市長・桂信雄氏

宮城県知事・浅野史郎氏

茨城県知事・橋本昌氏

埼玉県知事・土屋義彦氏

横浜市長・中田宏氏

新潟県知事・平山征夫氏

静岡県知事・石川嘉延氏

大阪市長・磯村隆文氏

神戸市長・矢田立郎氏

大分県知事・平松守彦氏

以上の計 10 名。（肩書きは当時）

調査内容

質問項目に関しては、アンケート回答結果や各自治体の特色により多少異なるが、別添資料の通りである。アンケートの回答に対する疑問点等の補填と、W カップを実施したことが地域づくりに果たした役割について、自治体の長としての実感を聞くことに主眼をおいて設定した。

ヒアリング内容

- Q1 2002 年 W カップは大きな成果を上げたと思いますが、自治体の長としての全体的な印象をお聞かせください。併せて、事前に意図されたことの達成度について自己採点すると、100 点満点で何点に相当するでしょうか。自己採点をお願いいたします。
- また次の 10 の項目の中で、特に重要と思われるものを 3 つ挙げてください（地域のアイデンティティ確立、知名度向上、経済的な成果、交通インフラ整備、町並景観の向上、住民の参加意欲向上、地域ホスピタリティの向上、地域の国際化、環境問題意識、地域スポーツの振興）。
- Q2 開催地への立候補時点、開催地決定直後、終了後、各々で W カップへのイメージ、考え方に変化はありましたか。
- Q3 成果として挙げられるもののうち 3 つだけに限定し、その成果を自慢してください。
- Q4 こうした事業に対してその成否あるいは事後評価、効果測定及びその公表などの説明責任の重要性についてどのようにお考えか、ご意見をお願いいたします。
- Q5 直接あるいは間接的に出された総費用はどの程度になりましたか。また、その出費は「イベントへの参加費用」としてのコストとお考えでしょうか、あるいは「将来への投資（インベスト）」としてご認識されているのでしょうか？
- 将来への投資として考えられたとすれば、「（有形、無形いずれも）資産として何が残ったか」「今後、どのようなかたちでそれを生かすべき」とお考えでしょうか。
- Q6 単年度決算として W カップ関連の収支とそれについてのご感想をお願いいたします。
- Q7 住民の自治参加意識の醸成に W カップ開催は貢献しましたか。
- Q8 市民レベルでの国際交流という点ではいかがでしたか。
- Q9 交通・情報インフラ、宿泊施設、商業施設、文化財施設などで貴地域において不足

しているもの、より充実させたいと思ったものはありますか。

Q10自治体，民間を問わず、人材は充分でしたか。将来さらに人材育成の充実を図るためにはどのような政策が有効でしょうか？ご意見を伺わせてください。

Q11地元 J リーグチームの存在が W カップ開催にどのようにいかされましたか？また今後さらに発展させるための具体的な方針などあれば、お聞かせください。

Q12大会終了後、当地で試合を行った国を中心とした国際的な PR を継続して行くお考えはありますか？

1-3 補足文献等資料調査

アンケート返送の際に、各自治体より添付されてきた効果指標を示す資料や補足データを示す資料の調査に加え、自治体の財政状況、ボランティア数の推移、スポーツ施設数の推移などについて電話・文献・ウェブサイト等により追跡調査を実施した。

1-4 調査内容とその時期

調査内容	時期	方法
開催 10 自治体へのアンケート調査	2002 年 12 月 - 2003 年 1 月	アンケートの郵送 / 回答の返送受領
開催 10 自治体へのヒアリング調査	2003 年 2 - 4 月	依頼状の郵送 / 各自治体でのインタビュー（または文書での回答依頼）
補足文献等資料調査	2003 年 4 - 6 月	各資料について電話・文献・ウェブサイト等による調査

2 . 調査データ

2-1 札幌市 - アンケート結果・文書回答

【アンケート結果】

Q1. 貴自治体におかれましても、ワールドカップに関する事後評価は重要であると認識していることと存じますが、すでに事後評価はしていらっしゃいますか。

A1. する予定はない。

Q2. 以下の25項目につきまして、A, B, Cの3段階でご質問いたします。下記表内に書き込んでください。

A. ワールドカップ開催前に、ワールドカップ開催によって、下記項目について「充実/促進」がはかれると考えておられましたか。

B. Aで「はい」と回答された場合は、そのための施策や事業を実施しましたか？
もしされている場合は、その具体的な内容をお書き下さい。

C. ワールドカップ開催を終え、下記項目について、その成果を評価するとどのようにお考えですか。
1~5、xのなかから番号(記号)を1つ選んでをつけてください。

またその成果を評価するための客観的な指標はありますか？

もし有る場合には、その項目と内容を具体的にお書き下さい。

なお「x:現時点で評価できない」とする場合は、いつ頃評価できるようになるのでしょうか？
評価できる時期とその理由をお書きください。

1: 効果なし

2: ほとんどない

3: あった

4: かなりあった

5: 効果絶大

x: 現段階では評価できない

A2.

1	項目		住民意識の一体化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・会場周辺及び都心部住民、商店街への説明会の実施
C:	評価	3	
	客観指標・内容	特になし	
2	項目		住民の連帯感の醸成
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
C:	評価	-	
	客観指標・内容	-	
3	項目		地域の誇りや住民の自信の獲得
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
C:	評価	-	
	客観指標・内容	-	
4	項目		地域文化の見直し
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
C:	評価	-	
	客観指標・内容	-	
5	項目		地域名のメディア露出
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・PRビデオ・ガイドブック海外発送(各国サッカー協会、放送局:38カ国、108カ所) ・抽選会におけるPRブースの設置
C:	評価	4	
	客観指標・内容	特になし	

6	項目		外来者観光客数の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・ガイドブックの製作・配付（10万部） ・市内インフォメーションコーナーの設置 ・羽田空港インフォメーションコーナーの設置
	C:	評価	x いつ頃：平成15年6月頃 理由：前年の観光客の入込み調査による
客観指標・内容		-	
7	項目		商店街の活性化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	FIFAのマーケティング構造により実施することが難しかった
	C:	評価	x 時期：平成15年9月頃 理由：消費動向調査による
客観指標・内容		-	
8	項目		地域経済への波及
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
	C:	評価	3
客観指標・内容		民間調査機関の試算によると大会期間中の経済効果は60億円程度としている	
9	項目		交通渋滞解消 / 自動車交通の定時制の確保
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
	C:	評価	-
客観指標・内容		-	
10	項目		鉄道交通網の整備
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
	C:	評価	-
客観指標・内容		-	
11	項目		街並など景観の向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・都市部の放置自転車の撤去 ・道路上の違法広告看板の撤去
	C:	評価	3
客観指標・内容		特になし	
12	項目		住民の美化運動の実践
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	11.に同じ
	C:	評価	3
客観指標・内容		特になし	

13	項目		ボランティア活動参加者の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・JAWOCボランティア及び自治体の外国語ボランティアの一部募集。なお、自治体ボランティアは既存組織による対応
	C:	評価	4
客観指標・内容		特になし	
14	項目		ボランティア活動組織の増加
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
	C:	評価	-
客観指標・内容		-	
15	項目		地域ホスピタリティの向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・会場周辺及び都心部住民・商店街への説明会の実施 ・指さし基本会話集の配付(5万部)
	C:	評価	4
客観指標・内容		特になし	
16	項目		国際意識の向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	15.に同じ
	C:	評価	4
客観指標・内容		特になし	
17	項目		国際交流の進展
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・出場6カ国を知るイベントの開催
	C:	評価	3
客観指標・内容		特になし	
18	項目		青少年への国際理解教育や社会教育の実践
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・小学校出場国応援運動の実施
	C:	評価	3
客観指標・内容		特になし	
19	項目		環境保全意識への高まりへの寄与
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
	C:	評価	-
客観指標・内容		-	
20	項目		スタジアム等・スポーツ施設の充実
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・札幌ドームの建設 ・公式練習場(厚別競技場、白旗山サッカー場)の芝の整備
	C:	評価	5
客観指標・内容		-	

21	項目		スタジアム等・スポーツ施設利用の活発化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
	C:	評価	x 時期：平成15年7月頃 理由：スポーツ施設利用状況調査による
客観指標・内容		-	
22	項目		地域スポーツの活発化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・国際ユースサッカー大会の開催
	C:	評価	3
客観指標・内容		特になし	
23	項目		スポーツ参加率の上昇
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
	C:	評価	x 時期：平成15年7月頃 理由：スポーツ施設利用状況調査による
客観指標・内容		-	
24	項目		スポーツイベント運営ノウハウの獲得
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
	C:	評価	5
客観指標・内容		特になし	
25	項目		サッカー人気の高まり
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
	C:	評価	3
客観指標・内容		特になし	

Q3. 貴自治体におけるワールドカップの事後評価について、特記すべき事項を自由にご記入ください。

A3. 札幌の会場となった「札幌ドーム」は、8,300トンのサッカーステージを空気圧で10分の1の重さとし、スタジアムの中に移動する芝転換システムを備えることで、天然芝のサッカーと人工芝による野球、また、コンサートや様々なイベントを開催できる世界で初めてのスタジアムとして関係者各方面の注目を浴びている。

ワールドカップをはじめ、様々な大会やイベントの開催は、市民・道民に新たなライフスタイルを提供しており、今後、国際イベント誘致の核となる施設としても期待が高まっている。

一方、大会のロゴマークや名称の使用における、近年のマーケティング構造では、地域や商店街での開催機運の醸成や活性化への使用が制限されるなど、今後の国際大会開催における、教訓を得た。

しかし、その中において、今回の大会で初めて、エンブレムを使用した開催地独自の「コンポジットロゴ」の製作が認められたことは、大きな成果であったと考えている。

【文書回答】

1) 2002 FIFA W カップは大きな成果を挙げたと思いますが、首長としての全体的な印象をお聞かせ下さい。

ワールドカップは世界が注目する大会であり実際に開催してみて、サッカーが世界共通のスポーツであるとの印象を強く受けました。

また、大会期間中の日韓両国の盛り上がりで、スポーツが国民に与える影響の大きさを実感したところです。

札幌においても、期間中は国内外から多くの観客が訪れましたし、各国の様々なメディアの方々の取材など、ワールドカップを通じて、世界に札幌と札幌ドームをアピールできたと考えています。

世界の厳しい予選を勝ち抜いた 32 カ国の試合は、どの試合も白熱した好ゲームであり、札幌での 3 試合は、ドイツ、イタリア、アルゼンチン、イングランドと強豪がそろい、特に、アルゼンチン対イングランド戦は、今大会を象徴する名試合であったと思っています。このようなレベルの高い大会を札幌で開催できたことは、市民にとって素晴らしい体験であり、大きな財産になったと考えています。

2) 開催地への立候補時点、開催地決定後、終了後、各々で W カップのイメージ、考え方に変化はありましたか。

札幌市は、冬季オリンピック札幌大会、ユニバーシアード冬季大会や様々な国際コンベンションを開催しており、これまでの経験から、オリンピックに匹敵するイベントであるワールドカップへの理解はもっていましたが、フランス大会の視察を期に、改めて、この大会がサッカーの頂点を争うと同時に、世界のファンが集まって楽しむという、素晴らしい祭典であるとの認識を深めました。

また、この大会にはフーリガン問題が必ずついて回りますから、安全の確保が課題になることは承知していましたが、2001 年夏の明石市の歩道橋事故や米国の同時多発テロで大変緊張することになり、また、ファイナルドローでドイツ、イタリア、アルゼンチン、イングランドという強豪国の対戦が決まり、まず、安全確保がなにより重大であるとの認識を強くしました。

しかし、この大会がサッカーを通じたお祭りであるとの認識は、終始変わらず、安全を確保するとともに、世界のファンを暖かく迎えて、札幌のワールドカップを心から楽しんでいただくことが大切であると考えました。

安全と祭りの盛り上げの両立は、難しい課題でしたが、警察にもご理解いただき、全体としてうまくいったと思っています。

また、日韓の共同開催、国内 10 開催地との協力、マーケティング構造、エンブレム、

ロゴなど知的所有権など、学ぶことは多く期待以上の収穫があったと思っています。

3) 住民の自治参加意識の醸成に W カップ開催は貢献しましたか。

札幌では、対戦の組み合わせが決まって以来、マスコミの報道で、フーリガンに対する不安感の高まりもありましたが、多くの関係者や住民の方々のご協力により、何事もなく大会を終了することができました。

フーリガンやテロへの対策には、多くの市民の方々のご理解と最悪の事態を想定した万全な備えが必要でしたが、大会を成功裡に終えることができたことは、本市としても大きな自信になりました。

また、本市には冬季オリンピック以降、ボランティア組織が育っておりますが、今大会においても、その活動は高く評価できるものであり、今回の大会を通じて成熟度が高まったものと考えています。

4) 市民レベルでの国際交流という点では如何でしたか。

大会期間中、大通公園に設置したファンヴィレッジには 51 万人の方々を訪れ、海外からのサポーターと多くの市民が触れ合う姿が見られました。

また、札幌でも 1300 人の JAWOC ボランティアと、380 人の自治体ボランティアに大会運営や案内業務等に携わっていただきましたが、どの業務においても、心のこもった対応により、英国関係者はじめ多くのサポーターの方々から感謝の言葉をいただくなど、札幌のイメージアップが図られたとともに、市民の国際交流の推進に大きな成果があったと考えています。

5) W カップ開催について最大の狙いと成果を優先順位の高かったものから 3 つお答えください。

一つ目は、シティ PR です。

札幌市では、『ワールドカップは、札幌で開催される多くのコンベンションの一つであり、世界が最も注目する大会を通じて、初夏の札幌と札幌ドームの素晴らしさを世界に知ってもらうこと、そして、オリンピック以来培ってきた、都市としてのホスピタリティに新たな経験を付け加え、更に充実すること。』を目的として、この事業に取り組んできました。

グループリーグの 3 試合ではありましたが、全てが第一シードで試合の組み合わせにも恵まれ、フーリガン報道にゆれはしましたが、アルゼンチン対イングランド戦は、国内外から注目が集まり、シティ PR の絶好の機会となりました。

特に会場となった「札幌ドーム」は、8300 トンのサッカーステージを空気圧により

10分の1の重さとし、スタジアムの中に移動する芝転換システムを備えることで、天然芝のサッカーと人工芝による野球、またコンサートや様々なイベントを開催できる世界で初めてのスタジアムであり各国のメディアをはじめ、関係各方面の注目を浴び、大会終了後も様々な取材や問い合わせが後を絶たない状況となっています。

二つ目は、国際化の推進です。

大会期間中は、多くのボランティアや市民の方々の熱心な応援や親切な対応で、ホストシティとして心のこもったおもてなしができたと考えています。

特に、案内業務など市内及び会場周辺で働いていただいた、自治体ボランティアについては、本市の様々な交流事業やコンベンション、スポーツ大会、観光案内などで、これまでも積極的に活躍いただいている、札幌国際プラザ、体育指導委員会、地域スポーツリーダー、社会福祉協議会、観光ボランティアといった既存の団体の参加、協力をいただきましたが、これらの方々にとっても、貴重な経験になったと思います。

また、多くの市民の方々が、国際交流を肌で感じ、新たなスポーツの楽しみ方を経験したと思います。

札幌市は13年度に「国際化推進基本指針」を策定し、国際化施策の更なる推進と新たな展開を図ることとしていますが、このワールドカップの成功は、札幌市の財産と市民の大きな自信となり、今後の国際化への大きなステップになるものと考えています。

三つ目は、経済波及効果です。

民間のシンクタンクでは、札幌市で行われるワールドカップ・グループリーグ3試合の開催に伴う経済波及効果を、約73億円と試算しています。

これは、約1ヶ月間に及ぶ開催期間中、札幌に訪れる観客を、国土交通省の試算に基づき、海外約4万人、国内約11万人の合計15万人、延べ宿泊者数21万人とし、土産品の購入や飲食、宿泊、交通費等の消費を行ったものとして計算したものです。

しかし、海外からの観客は長期間にわたって各会場を回ることを予定しているため、財布の紐は硬かったと見られます。

従って、経済波及効果の予測値は冷静に考えるべきと思います。

しかし、札幌市民のグッズ購入や関連イベントによる消費拡大、報道及び警備などの消費、さらには、札幌ドームの建設とそこで行われる数多くのイベントやワールドカップを通じて知名度が上がったことの効果など、長く広い視点から考えると、大きな効果があったと考えています。

2-2 宮城県 - アンケート結果・文書回答

【アンケート結果】

Q1. 貴自治体におかれましても、ワールドカップに関する事後評価は重要であると認識していらっしゃるかと存じますが、すでに事後評価はしていらっしゃいますか。

A1. **する予定はない。**

Q2. 以下の25項目につきまして、A, B, Cの3段階でご質問いたします。下記表内に書き込んでください。

A. ワールドカップ開催前に、ワールドカップ開催によって、下記項目について「充実/促進」がはかれると考えておられましたか。

B. Aで「はい」と回答された場合は、そのための施策や事業を実施しましたか？
もしされている場合は、その具体的な内容をお書き下さい。

C. ワールドカップ開催を終え、下記項目について、その成果を評価するとどのようにお考えですか。
1～5、×のなかから番号(記号)を1つ選んでをつけてください。

またその成果を評価するための客観的な指標はありますか？

もし有る場合には、その項目と内容を具体的にお書き下さい。

なお「×：現時点で評価できない」とする場合は、いつ頃評価できるようになるのでしょうか？
評価できる時期とその理由をお書きください。

1: 効果なし

2: ほとんどない

3: あった

4: かなりあった

5: 効果絶大

x: 現段階では評価できない

A2.

項目		住民意識の一体化
1	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	はい
	施策の内容	ホームページの開設、機関紙の発行、地元マスコミへの積極的な情報提供、大会前や大会期間中の各種イベント等の開催大規模イベントへの参加、「W杯あなたのアイデア・ゆめ募集」への応募、ボランティアとしての参加などを努めた。
	C: 評価	4
	客観指標・内容	地元住民をはじめ県民の意識がかなり高まり、ワールドカップに限れば、マスコミ調査によれば、87.8%の県民がワールドカップに何らかの形で拘りを持ったとされた。
項目		住民の連帯感の醸成
2	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	はい
	施策の内容	県と利府町と利府町民(特にスタジアム周辺住民)との意見交換会が実施された。
	C: 評価	4
	客観指標・内容	町民の協力体制ができ、大会後、町民からスタジアムの有効利用について積極的なアイデア提供がなされているほか、初の町民体育祭がスタジアムで開催された。
項目		地域の誇りや住民の自信の獲得
3	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	はい
	施策の内容	県民・ボランティアの協力、関係機関・団体との連携など地域の総合力を発揮することで宮城開催が成功するよう努めたほか、イタリア代表チームのキャンプ地誘致活動(イタリア代表チームがホテル内外の恵まれた自然環境が選手の保養に好適)の支援に努めた。
	C: 評価	5
	客観指標・内容	地元報道機関の大半が平成14年度ビックニュースのナンバーワンとしてワールドカップ宮城開催を取り上げた。県民の多くから大会の成功を祝する声が上がった(新聞等)。

4	項目		地域文化の見直し
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	ワールドカップについて、ホームページ、機関紙の発行、機運醸成イベントやパネル展のほか、大会期間中のサッカーパークの設置やパブリックビューイングの実施、ベガルタ仙台の支援などを通して、スポーツ文化の醸成に努めた。
C:	評価	3	
		客観指標・内容	マスコミのアンケート調査によれば、県民の最も興味のあるスポーツとしてサッカーが昨年より10.9%も上昇し32.1%、宮城スタジアムでのベガルタ仙台ホームゲームはJ 1セカンドステージ最多入場者数（約4万4千人）など、サッカー文化が着実に根付き始めつつある。
5	項目		地域名のメディア露出
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	ホームページの開設、開催地情報提供基地（メディアセンター、メディアサポートセンター）の設置、メディアツアー（招待事業）の実施などによりメディア露出に努めた。
C:	評価	5	
		客観指標・内容	イタリア、メキシコ、ブラジル、中国など多くのテレビ局が、宮城の歴史、文化を取材し、本国で放映した。
6	項目		外来者観光客数の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	国際イベントへの参加や仙台七夕まつりへの参加、宿泊施設空き室情報サイトの開設、県及び仙台観光コンベンション協会等のホームページに宿泊リストを作成した。
C:	評価	3	
		客観指標・内容	外国観客数3試合で7,000人、そのほか、イタリアキャンプやメディア関係者多数ほか、空室情報サイトアクセス件数21,095件に上った。
7	項目		商店街の活性化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	出場国など歓迎装飾の実施、商店街との意見交換、ワンポイント会話集の配付、接遇研修会などを実施した。
C:	評価	3	
		客観指標・内容	一部飲食店、お土産売場、ユニフォーム等グッズ販売店はかなり賑わったとの声もあるが、反面、テレビ中継の時間帯は繁華街の人通りが少なかった。また、市内中心部にオープンカフェが設置（仙台商工会議所）された。
8	項目		地域経済への波及
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	スタジアムワールドカップ仕様等施設整備のほか、大会関連イベント等の実施に努めた。なお2002年F I F Aワールドカップ宮城・仙台推進委員会では経済波及効果を366億円と試算した。
C:	評価	x	
		客観指標・内容	理由：実際の生産誘発額を算出することが出来ない イタリア代表の仙台市キャンプや、日本代表の宮城スタジアムでの試合などで相当の効果があったものと推測している。

9	項目		交通渋滞解消 / 自動車交通の定時制の確保
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
	B:	施策の内容	輸送交通専門委員会の設置、交通規制の実施、観客輸送対策（パークアンドパスライド）の実施、道路利用者等への事前告知などにより努めた。
C:	評価	3	
	客観指標・内容	スタジアムで開催されたコンサート（約5万人）やJリーグの試合（約4万4千人）における輸送対策の参考とされ、円滑な運営が行われている。	
10	項目		鉄道交通網の整備
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
	B:	施策の内容	スタジアム最寄り駅のホーム増設や高速道路の早期設備の実現、スタジアム周辺の地方道の新設・改良に努めた。
C:	評価	4	
	客観指標・内容	スタジアムで開催された大規模イベントの輸送の円滑化、地域住民の通勤等生活の利便性や産業の振興に寄与している。	
11	項目		街並など景観の向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
	B:	施策の内容	関係機関の協力により、仙台駅前街路に花装飾、街路樹の剪定、道路などの清掃のほか、放置自転車・バイクの撤去、ピンクチラシの浄化作戦などの景観・美観の向上に努めた。
C:	評価	3	
	客観指標・内容	仙台市は、従来より「杜の都」として街並みの景観の向上に積極的に取り組んでおり、カウントダウンタワーの設置などワールドカップ関連事業の実施も指導を受けた。	
12	項目		住民の美化運動の実践
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
	B:	施策の内容	仙台市の中心部及びスタジアム周辺地域では、大学生、地元中学生、ボランティア、商業団体によって自主的な清掃など美化活動の取り組みが行われた。
C:	評価	3	
	客観指標・内容	国体、ワールドカップと2年連続で大規模イベントが開催されたことにより、美化運動に対する意識は高まっている。国体、ワールドカップを契機に宮城スタジアム周辺道路美化活動事務局（県関係職員ボランティア170名）が組織され、定期的な活動が定着してきた。	
13	項目		ボランティア活動参加者の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
	B:	施策の内容	市民活動・ボランティア専門委員会を設置するとともに、大会運営を支えるJAWOC、自治体ボランティアの確保に努めた。 JAWOCボランティア：1,132人参加 自治体ボランティア：527人参加
C:	評価	5	
	客観指標・内容	8月の仙台七夕ボランティア応募者が前年の2倍程度(100人)、ベガルタ仙台の平成15年ボランティア登録者数は313人（1月現在、H14最終350人）と急増している。なお、スタジアムの利活用推進のため、新たにボランティア募集しており、応募状況は順調である。	

14	項目		ボランティア活動組織の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	ワールドカップ友の会「キックラブ」の設立、本番に向けたボランティア研修、そして、地球規模の大会に拘ることが出来た貴重な体験を通して、活動組織の増加に繋がるよう努めた。
C:	評価	5	
		客観指標・内容	大会後、ボランティア同誌の交流組織「エキポ・ミヤギ」の発足、キックラブ有志による「キックラブ・アクティブ」が結成されたほか、新たにスタジアムボランティアの組織化とボランティアセンターの設置を進めている。
15	項目		地域ホスピタリティの向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	携帯端末向け公式サイト「ポケットみやぎ」による情報提供、国際親善の普及啓蒙のためのテレビコマーシャルの制作・放映のほか、インフォメーションコーナーの設置、外国語併記の案内標識の充実、県国際交流協会に保健・医療通訳ボランティアの設置のほか、観客の移動ルート等に救護所を10カ所設置した。
C:	評価	4	
		客観指標・内容	インフォメーションコーナーでの対応延べ42,000件、救護所の受付患者40名、救急搬送4名となった。「ウェルカムせんだい・みやぎ」キャンペーン（仙台商工会議所）、アーケード街におけるストリートパフォーマンス、地元大学生による外国人向け地図の作成等自主的な取り組みが行われ、意識は高まった。
16	項目		国際意識の向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	出場国理解講座の開催、サッカーパークなどでの交流等を通して意識の向上に努めた。
C:	評価	4	
		客観指標・内容	一般県民の自主的な外国語講座への参加。商店街やホテルでの外国語マナー等の講座の開催。ホテルの外国人仕様への一部改装等、外国人受入体制が充実した。
17	項目		国際交流の進展
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	ワールドカップを通して各種国際交流の推進を支援するとともに、キャンプ地誘致のためのトップセールス、日韓の交流事業のほか、サッカーパークの設置や出場国大使歓迎交流会（利府町）の実施に努めた。
C:	評価	4	
		客観指標・内容	大会後、出場国スウェーデンの音楽家の利府町での演奏会、利府町民の環境保護調査のためのスウェーデン訪問。白石市とイタリア・アナーニ市との交流。古川市立小学校と韓国の小学校との友好校提携のほか、国際シンポジウム「サッカーとスポーツ文化」が開催された。
18	項目		青少年への国際理解教育や社会教育の実践
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	関係市町村教育委員会などの協力を得て、1校3国運動、出場国料理の給食、中学校修学旅行での大使館(30カ国)訪問、出場国大使等の歓迎レセプションへの参加、国際ユースサッカー親善試合・交流試合の開催、韓国高校生とのホームステイ交流、ならびにスタジアム周辺等での美化活動などの取り組みが行われるように努めた。
C:	評価	3	
		客観指標・内容	1校3国運動の学習、イベントへの参加やその他各種活動を通して、身近で開催されたワールドカップに拘ることが出来たことは、青少年の国際理解を深めるのに有効であったとされている。

		項目	環境保全意識への高まりへの寄与
19	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	宮城スタジアムは周辺の恵まれた自然との共生が設計コンセプト、仮設工事はリース品を多用、ガイドブックやゴミ袋などの再生紙利用に努めた。
	C:	評価	3
		客観指標・内容	宮城スタジアムは、豊かな自然と調和のとれた施設と評価されているところであり、国内外から訪れた観光客、あるいはテレビ観戦・視聴者に新鮮なイメージを与え、自然の大切さ、素晴らしさを認識させた。
		項目	スタジアム等・スポーツ施設の充実
20	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	当初設計は陸上競技主体であったが、ワールドカップ開催決定後、屋根の増設などワールドカップ仕様を取り入れ充実を図った。
	C:	評価	4
		客観指標・内容	大会後、スタジアムでは大規模イベント（コンサート、Jリーグ試合）が開催されており、これらの運営に対応できる機能を有する施設、設備であることが実証されている。
		項目	スタジアム等・スポーツ施設利用の活発化
21	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	リハーサル大会等（H12キリンカップ、Jリーグオールスター、H14ベガルタ仙台対浦和レッズ）を実施した。
	C:	評価	3
		客観指標・内容	県民から「スタジアムをスポーツに限らず、イベント会場として広く利用すべき」との声があり、（地元紙の世論調査モニターで54.8%）、現在幅広い、スタジアム等の利活用促進を図るための協議会を設立し、検討している。
		項目	地域スポーツの活発化
22	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	地域スポーツ文化講座の開催、サッカー・スポーツ教室、仙台スタジアムまつり、ベガルタ仙台の地域に根ざしたクラブづくりへの支援などを通して、活発化に努めた。
	C:	評価	4
		客観指標・内容	スポーツNPO法人数が2から10に増加しており、地域スポーツの活性化が図られてきている。
		項目	スポーツ参加率の上昇
23	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	地域スポーツ文化講座の開催、サッカー・スポーツ教室、スポーツイベント、仙台スタジアムまつりなどを通して活発化に努めた。
	C:	評価	x 時期：2012年 理由：スポーツ振興計画の目標年次
		客観指標・内容	本年度に策定したスポーツ振興計画で、県民のスポーツ参加率が上昇するように努めることとしている。

		項目	スポーツイベント運営ノウハウの獲得
24	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	大会の成功に向けて、JAWOCとの連携、大手広告代理店との情報交換や市町村等関係機関との調整を行い、円滑な輸送・警備対策、万全な医療・防災対策などに努めた。
	C:	評価	4
客観指標・内容		スタジアムで行われたベガルタ仙台ホームゲーム(4月14日)をリハーサル大会として、(株)東北ハンドレッドと協力して実施するとともに、ワールドカップ時の観客輸送計画書の配付などを行った。大会後、開催されたベガルタ仙台ホームゲームの輸送・警備の運営に活かされた。	
		項目	サッカー人気の高まり
25	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	ワールドカップ宮城開催の成功、イタリア代表チームの仙台キャンプ、日韓交流サッカー大会への支援のほか、在県外国人等の交流フットサルフェスタを実施した。
	C:	評価	5
客観指標・内容		ベガルタ仙台のホームゲーム1試合平均入場者数が21,862人(J1で第4位)、スタジアム収容員率は90%以上とJ1で第1位となっている。	

Q3. 貴自治体におけるワールドカップの事後評価について、特記すべき事項を自由にご記入ください。

- A3. アジアで初めてのワールドカップは、日本と韓国の友好新時代の幕開けに相応しい初めての共同開催ということもあり、全世界の人々の注目の中で開幕し、連日、観客を魅了する熱戦が繰り広げられ、興奮と熱狂に包まれました。
- 運営面では、共同開催というまったくマニュアルにない中での本大会でした。また、当初、神経を尖らせたテロやフーリガンなどによる暴動が杞憂に終わり、大きな混乱もなく終了し、成功を収めることが出来ました。
- 本県にとって特筆すべきことは、日本代表チームが初めて決勝トーナメントに進出し、歴史に残る試合を宮城スタジアムで行ったことです。これは県民に大きな夢と感動を与えてくれました。
- また、本県が開催地であったことに加え、イタリア代表チームが仙台市でキャンプをしたことから、MIYAGIの情報を世界に発信することが出来ました。
- さらに1600名を超えるボランティアの方々の活動や社会参加の高まり、様々な国際交流のほかに、集団災害緊急医療体制や、危機管理連絡体制等の構築を通じ、関係機関の結びつきを強固なるものにするなど多くの成果を残しました。
- これまで、全く経験のない世界最大のスポーツイベントを成功させたことは、県民にとっても大きな自信と誇りであり、これらの有形無形の財産は未永く後世に継承されるものと考えます。
- ただ、残念であったことは、大会初期から空席問題が発生し、また、宮城スタジアムでの日本対トルコ戦において、約700席もの空席が発生したことです。この件に関しては、後にFIFAが第三者機関の評価報告を受け、チケット送付の遅延と空席問題があったことを認識し、遺憾であることを表明、その責任の所在を明確にしました。一時は、日本側の不手際もささやかれたことから、名誉も回復され、溜飲の下がる思いです。今回の教訓が次回以降の大会に活かせることを強く期待します。
- なお、大会を終えての本県の課題は、スタジアムへのアクセス及び、スタジアムの有効活用です。アクセスに関しては、時間をかけて方向性を見いだしていきたいと考えておりますが、スタジアムの有効活用については、すでに「グランディ・21利用促進協議会」を設置、検討を始めておりますし、さらには、スタジアム等で活躍するグランディ・21ボランティアも募集を開始しております。
- 最後に本大会の貴重な体験を、宮城のスポーツ文化の創造や韓国を初めとする国際交流など、今後の県政運営に最大限活かして参りたいと考えております。

.....

考慮すべき点としては以下の通りである。

- ・ 3試合とも午後3時30分キックオフとなったため、宿泊数が国土交通省の予測よりも相当少なかった。
- ・ また、外国人観戦客数も予測を下回った。これは、アルゼンチン、トルコなど母国の経済情勢が影響したものと推測される。
- ・ 県民・観戦客の安全を優先させるため、スタジアム周辺でのイベントを見合わせた(仙台市中心部で開催)。その結果、地域住民と外国客との交流が不十分であった。

【文書回答】

1) 全体的な印象

日本代表チームが決勝トーナメントに進出し、その歴史に残る試合がこの宮城で開催されるなど、県民に大きな夢と感動を与えてくれたと思います。また、開催地という事だけではなく、イタリア代表のキャンプ地が仙台市ということもあり、宮城・仙台の情報を世界に発信する事ができました。県としては、ボランティアの活躍や社会参加が高まったこと、また、県内各地で様々な国際交流などの成果もありました。更には、集団災害緊急医療体制や危機管理連絡体制の整備を通して関係機関のネットワークもできました。これに限らず、ワールドカップサッカーがもたらした様々な結果は、今後、宮城県によっていい意味を持ってくるものと期待しています。

自己採点

「 90 点 」

減点の 10 点は、チケット販売の遅滞や空席が発生したチケット問題があったため。

重要と思われる項目 (3 点)

住民の参加意欲向上、 地域ホスピタリティの向上、 地域の国際化

2) 開催地立候補時点、決定直後、終了後の各々でWカップへのイメージ、考え方の変化の有無

立候補時点における、世界の一流選手の競技を堪能できるだけでなく、大会を通じたサッカーの普及強化、世界の人々との相互交流、友好促進や本県経済、文化への大きな波及効果への期待など、世界との交流を目指す本県に様々な好影響をもたらしてくれるという考えについては終了後も一貫している。開催地決定の段階において、韓国との2カ国開催となったが、韓国との定期路線を有する仙台空港のメリットなどから、本県開催の実現に向け誘致活動にも弾みがついたように思う。

当然、決定後の大会への関心度は、県民もそれ以前とは比較にならないほどの高まりを示した。

3) 成果の自慢 (3 点)

第一に我が県で開催できたこと自体が自慢です。日本代表の決勝トーナメントを含め3試合、海外の5チームが本県で対戦し、さらにイタリアを含めると6カ国チーム、それにサポーターが来県しましたが、それぞれの国では試合に限らず開催地・キャンプ地である

「宮城・仙台」についてもメディアへ紹介されたことと思います。また、関係者のみならず県民もサッカーパークでの国際交流など貴重な体験ができ、有形無形の財産を残したと思う。

第二に前年の夏季・秋季国体の際もそうでありましたが、今大会を通じて 1,600 人ものボランティアが協力してくれたこと。サッカーなどのスポーツのイベントに限らず、今後、様々な場面で住民の参加が望まれますが、その意味でも手ごたえを感じました。

第三に無事終了できたことです。フーリガンやテロ等に備え、集団災害対策として医療機関、消防、警察、自衛隊等でプロジェクトチームを作り対応しました。45,000 人を超える観客の輸送や宿泊についてもできる限り情報提供に努めました。これらが、円滑に運営され大きな事件・事故もなく終了できたことです。

4) 事業の成否又は事後評価、効果測定及びその公表等の重要性

開催自治体では多額の予算を投入し、また、開催自治体以外からも宝くじ収入をワールドカップの費用に優先配分する協力を得ております。その意味でも JAWOC が中心となり事業評価なりを公表していくことが重要であり、それが義務、責任であると考えます。

5) 直接・間接総費用

2,890 百万円

経費の性格

スタジアムについては、平成 13 年度開催された国体のために整備されており、上記の費用は「イベント参加費用」のみを計上している。ただし、スタジアムについてはワールドカップ仕様とするため経費を上乗せしており、今後、サッカーに限らず各種スポーツ大会やイベント、県民への開放など多面的な活用を図ることとしています。

6) ワールドカップ関連収支についての感想

FIFA との調整や為替との関連で収入見込みが開催直前まで分からないため、JAWOC 負担金の追加があるなど、国際的なイベントの収支見込の難しさを感じました。本県の予算規模から見れば多額の支出ではありましたが、成果の自慢でも掲げたように、費用以上に有形無形の財産を得られたことを考えれば決して無駄な支出ではなかったと確信しています。

7) 住民自治参加意識への貢献

成果でも掲げたようにボランティアの積極的な協力が得られ、また、次の市民レベルの交流でも記しているがイタリア代表チームの支援のため市民を巻き込んだ組織ができるなど、今回のワールドカップサッカーは住民の自治参加意識への貢献を一步も二歩も前進させる契機となりました。

8) 市民レベルの国際交流

交流の場となるサッカーパークを仙台市中心部の公園に設置し、市民のみならず対戦国のサポーター同士との交流も図れました。また、仙台市をキャンプ地としてイタリア代表チーム“アズ-リ”への練習環境の整備などの支援のために、市民、企業、サッカー関係団体等で組織「フォルツァアズーリクラブ」が設立され、滞在期間中は支援に止まらず交流の場を設置されるなど国際交流にも寄与しています。将来的にもイタリアサッカー協会との交流を図るため、新生「フォルツァアズーリクラブ」に衣替えをし、活動を継続しているところです。

9) 交通・情報インフラ、宿泊施設、商業施設、文化財施設等で不足しているもの

提示された中で最も心配したのが、交通アクセスです。会場が仙台市の東隣の利府町の住宅団地内にあることから、最寄りの公共交通機関などからのシャトルバスによる輸送に重点をおいて対応しました。また、ワールドカップサッカー大会の直前には東北縦貫自動車道路から分岐し、仙台空港からも直接アクセスできる有料道路のインターチェンジが会場となった宮城スタジアムの隣接地に完成し、計画に沿った輸送が実現できましたが、仙台駅からのアクセスが悪いとの不評も聞かれたことも事実です。

情報インフラについては、既存のインフラで対応できないわけではありませんが、IT革命が進展する中であって、県内でも地域間格差の解消や情報産業の集積を目指し、高速情報ネットワークやインターネット・エクスチェンジの設置を目指しています。

商業施設については、仙台市中心部に商店街が集中していますが、海外旅行者への配慮は今回の大会を契機にさらに充実が望まれます。

10) 人材

今回のような国際的なスポーツイベントは本県にとって初めてであるが、ワールドカップの前年には、夏季・秋季国体を開催しており、スポーツイベントのノウハウは職員や関

係団体等にも蓄積されていきました。さらに FIFA、JAWOC との連携や過去の大会の情報収集などを通して人材が育ってきており、限られた人員の中でよく役割を果たしてくれたと思います。イベントのために日ごろから人材を育成する余裕はありませんが、組織として人的なネットワークやノウハウを蓄積し引き継ぎ、共有していくことが重要だと思います。

1 1) ベガルタ仙台の貢献、今後の方針

昨年はベガルタ仙台が J2 から J1 に昇格し、ベガルタ仙台の活躍は県民に夢を与えてくれています。ワールドカップサッカーが、その J1 昇格の年に開催されたこともあって県民の関心も熱狂的なものがありました。

仙台市がキャンプ地に決定され、また、イタリア代表チームがキャンプ地として背景としては、プロサッカーチーム「ベガルタ仙台」の存在とそれに伴う施設の充実が挙げられます。今年の 6 月上旬には、1 周年記念事業としてサッカー協会が主催、フォルツアアズーリクラブが共催し、イタリア・セリエ A キエーヴォ・ヴェローナとベガルタ仙台との国際交流試合も開催されるなど大いに貢献しています。

本県における J リーグチーム設立、設立後の支援については、宮城県も積極的に支援してきていますが、J リーグチームはホームタウン制であることから、県が積極的に関与することよりも、チームが市民や民間団体等と一体となって発展することが望ましいと考えています。

1 2) 大会終了後の国際的 P R 活動の継続

今大会を通じて宮城の知名度が上がったと思います。それを最大限に生かしていくということを考えていくべきだろうと考えております。具体例を挙げれば本年 1 周年記念事業として、勧告のチームと本県のチームとのサッカー、フットサルの交流試合やベガルタ仙台とキエーヴォ・ヴェローナとの交流試合なども国際的 P R 活動に寄与することと思います。

2-3 茨城県 - アンケート結果・インタビュー

【アンケート結果】

Q1. 貴自治体におかれましても、ワールドカップに関する事後評価は重要であると認識していられることと存じますが、すでに事後評価はしていられるでしょうか。

A1. 未回答

Q2. 以下の25項目につきまして、A、B、Cの3段階でご質問いたします。下記表内に書き込んでください。

- A. ワールドカップ開催前に、ワールドカップ開催によって、下記項目について「充実/促進」がはかれると考えておられましたか。
- B. Aで「はい」と回答された場合は、そのための施策や事業を実施しましたか？
もしされている場合は、その具体的な内容をお書き下さい。
- C. ワールドカップ開催を終え、下記項目について、その成果を評価するとどのようにお考えですか。
1～5、×のなかから番号（記号）を1つ選んで をつけてください。
またその成果を評価するための客観的な指標はありますか？
もし有る場合には、その項目と内容を具体的にお書き下さい。
なお「×：現時点で評価できない」とする場合は、いつ頃評価できるようになるのでしょうか？
評価できる時期とその理由をお書きください。
- 1: 効果なし
2: ほとんどない
3: あった
4: かなりあった
5: 効果絶大
x: 現段階では評価できない

A2.

項目		住民意識の一体化
1	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	はい
	施策の内容	各界を網羅する次の団体を設置し、県民運動、市民運動として機運醸成を図り、受入準備を進めてきた。 県：ワールドカップ推進委員会 市：ワールドカップ市民懇談会 県内各地でのイベントの実施、機運醸成PR
	C: 評価	5
	客観指標・内容	客観的な指標はない 次のようなことから効果の程度を判断。ワールドカップ開催に際して次のような市民参加が行われ、各界各層の支援を受けた。 ・花いっぱい運動への市民参加 ・女性団体、青年団体のイベントへの参加 ・消防団、交通安全協会による市内巡回等安全確保への協力
項目		住民の連帯感の醸成
2	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	はい
	施策の内容	1.に同じ
	C: 評価	5
	客観指標・内容	1.に同じ
項目		地域の誇りや住民の自信の獲得
3	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	はい
	施策の内容	・ワールドカップ開催時の地元の伝統行事「祭頭祭」の披露 ・ホスピタリティ事業としての郷土芸能の披露
	C: 評価	5
	客観指標・内容	客観的な指標はない。次のようなことから効果の程度を判断 茨城開催についての新聞・雑誌などの報道により茨城（カシマ）のオリジナルなホスピタリティ事業に肯定的評価

4	項目		地域文化の見直し
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
C:	評価	x	
5	項目		地域名のメディア露出
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・開催前のイベント毎に、マスコミに開催地名を露出して公表、PR ・インターネットホームページでのPR ・新聞広報・スタジアム増築工事中のJリーグ中継 ・スタジアム増築工事中のJリーグ中継
C:	評価	5	
		客観指標・内容	国内開催地として、全国的に認知された。アントラーズの活躍もあって相乗効果があった（客観的な指標はない。上記のようなことから効果の程度を判断）。
6	項目		外来者観光客数の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・コンフェデ・ワールドカップを契機として茨城の観光PR インターネット、案内所 ・宿泊施設空室情報のインターネット提供 ・県内主要施設の割引券の発行
C:	評価	4	
		客観指標・内容	・ワールドカップ開催時には宿泊施設も満室状況であった ・鉄道利用者が多く、遠方からの来客が多数であった。 ・ワールドカップ後のアントラーズ観戦客が増加している。
7	項目		商店街の活性化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・スタジアム周辺イベントでの飲食物販売への出展参加 ・主要施設割引券の発行 ・インターネット等での観光宿泊情報の提供
C:	評価	3	
		客観指標・内容	・大会当日の観戦客による飲食物を中心とする売上げ（ワールドカップ開催前に経済波及効果調査を実施） ・宿泊施設での宿泊客の増加
8	項目		地域経済への波及
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・スタジアム増築、関連道路の整備 ・交通輸送における地元からの資源調達 ・交通誘導等における緊急雇用対策
C:	評価	5	
		客観指標・内容	・産業連関表を用いた経済波及効果調査を開催前に実施した。 ・投資、消費総額508億円に対し経済波及効果773億円
9	項目		交通渋滞解消 / 自動車交通の定時制の確保
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・交通アクセスセンターによる交通案内等、主要道路10本の整備 ・臨時駐車場とシャトルバス運行 ・スタジアム直行バスの運行 ・JR鹿島線及び第三セクター鉄道の増便
C:	評価	5	
		客観指標・内容	ワールドカップ時の交通は円滑に確保できた。主要道路での渋滞も生じなかった。

10	項目		鉄道交通網の整備
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	鉄道網の整備こそしていないが、新神宮橋、51号バイパス等主要道路を整備したほか、鉄道の増便、増結を行った。
	C:	評価	1
	客観指標・内容		鉄道網はもとより、便数も増加していない。
11	項目		街並など景観の向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	沿線景観向上に配慮した主要道路の整備
	C:	評価	5
	客観指標・内容		客観的指標はないが、新設主要道路の景観が向上した。
12	項目		住民の美化運動の実践
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・花いっぱい運動に対する資材の提供等の支援 ・違法看板撤去への市民参加
	C:	評価	5
	客観指標・内容		スタジアム周辺及び主要道路沿いは草花で飾られ、観戦客を喜ばせた。 主要道路に違法看板はなくなった。
13	項目		ボランティア活動参加者の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	JAWOC茨城支部と共同でのボランティア募集及び研修実施
	C:	評価	5
	客観指標・内容		開催地ボランティア600名 JAWOCボランティア1,400名の応募
14	項目		ボランティア活動組織の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
	C:	評価	3, x 理由：不明。計数的には把握していない。
	客観指標・内容		-
15	項目		地域ホスピタリティの向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・一校一国運動の取り組み ・6カ国会話集の作成 ・県民参加のワールドカップ時のイベントへの参加
	C:	評価	5
	客観指標・内容		スタジアム周辺のイベント会場では、女性団体、青年団体による創意ある交流事業が繰り広げられた。花いっぱい運動によるスタジアム周辺の美化。
16	項目		国際意識の向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・1校1国運動 ・6カ国会話集作成 ・英会話教室（消防本部、県事務局、県警） ・出場国の紹介事業
	C:	評価	4
	客観指標・内容		・女性団体による出場国料理の提供がイベントで実施された。 ・スタジアム周辺では外国人との交流イベントが女性・青年団体により自主的に実施された。

17	項目		国際交流の進展
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日韓交流事業（ユースサッカー交流） ・民団茨城地方本部との協力 ・出場国歓迎イベント ・スタジアム周辺の交流イベント
C:	評価	4	
	客観指標・内容		・ワールドカップ開催後も日韓ユースサッカーが実現できた
18	項目		青少年への国際理解教育や社会教育の実践
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1校1国運動 ・出場国料理の給食での提供 ・日韓ユースによるサッカー交流
C:	評価	4	
	客観指標・内容		<ul style="list-style-type: none"> ・出場国を勉強し、開催前イベント(40日前イベント、トロフィーツアー等)で発表した ・出場国料理を味わい、異文化を経験した
19	項目		環境保全意識への高まりへの寄与
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
C:	評価	2	
	客観指標・内容		-
20	項目		スタジアム等・スポーツ施設の充実
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スタジアムの増改築 ・芝生の全面はりかえ
C:	評価	5	
	客観指標・内容		<ul style="list-style-type: none"> ・15,800人収容のスタジアムが増改築されワールドカップ仕様のスタジアムになった ・給排水施設も整備された芝生も更新された
21	項目		スタジアム等・スポーツ施設利用の活発化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・収容人員の増加 ・スタジアム利活用の促進
C:	評価	4	
	客観指標・内容		<ul style="list-style-type: none"> ・アントラーズのゲームでは、改修前収容人員を上回る利用がある ・スタジアムの利活用促進については、新たな大会の招致等に努めている
22	項目		地域スポーツの活発化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	スタジアムを核として、カシマ地域をスポーツ交流の空間として創造
C:	評価	x	
	客観指標・内容		-

項目		スポーツ参加率の上昇
23	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	はい
	施策の内容	・サッカー教室の開催 ・小学生のスタジアム竣工記念試合への招待 ・パブリックビューイングの県内各地での開催
	C: 評価	x 理由：不明。計数的には把握をしていない。
	客観指標・内容	-
項目		スポーツイベント運営ノウハウの獲得
24	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	はい
	施策の内容	・職員のJAWOCへの派遣
	C: 評価	4
	客観指標・内容	・大規模イベント開催について、宿泊、交通、輸送、ロジスティクス等について専門業者等との交流等により貴重な経験が得られた。 ・イベントを資金面から支えるマーケティングについても学習できた。
項目		サッカー人気の高まり
25	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	はい
	施策の内容	・ワールドカップの機運醸成事業の展開 ・スタジアムを利用したイベント ・スタジアムの一般開放
	C: 評価	5
	客観指標・内容	・もともとサッカー人気の高い地域ではあったがJリーグのホームゲーム入場者数が増加した。 ・J2の入場者も増加傾向にある。

Q3. 貴自治体におけるワールドカップの事後評価について、特記すべき事項を自由にご記入ください。

A3. 別添資料あり。
知事／議会議事録など（本レポートには添付せず）

【橋本昌知事インタビュー】

1) 開催地への立候補時点、開催地決定直後、終了後、各々でWカップへのイメージ、考え方に県として変化はありましたか。全体的な印象をお聞かせください。

鹿島アントラーズが平成5年に、Jリーグのファーストステージで優勝し地元が活気づいた。鹿島地域は元々住んでいた人と、他の地域から移り住んできた人との一体感がなかなか生まれず、また、若者が喜んで住む街というイメージもなかった中で、サッカーが大変な盛り上がりを見せた。こうした当時の雰囲気の後押しされ、ワールドカップを茨城に招致することで、鹿島にとどまらず県全体の活性につながるのではないかと考え立候補したもの。

ワールドカップ開催決定後も、アントラーズの活躍により更にファン層も拡大した。また、若者のエネルギーをサッカーの応援に向けることができ、暴走行為が減少するなどいい方向転換ができた。企業の中には、鹿島に転勤したいという若い従業員が生まれるなど鹿島の地域イメージもアップした。

鹿島はワールドカップ開催20会場の中でも最も小さな地域であるが、田舎なりの良さを出そうと意識した。電車を降りてからスタジアムまで30分くらいの道沿いに誘導サインの装飾に工夫をこらしたり、小学生が描いたワールドカップの絵の展示などを行い試合へのムードを演出した。また、スタジアム周辺に「わいわい交流広場」を設け、フェイスペインティングサービスや屋台を出したり、急遽花火を打ち上げたりするなど大変盛り上がった。お祭りムードという点では、本県が一番ではないか。若者のために用意したキャンプもマスコミなどに頻繁に取り上げられ、大成功だった。

試合数3は少なすぎたというのが本音。もう少し試合が多ければもっと盛り上がった。

アントラーズ活躍の10年で、サッカーを見る側（サポーター、運営ボランティアなど）の文化が地域に根付いてきた。ワールドカップ開催により地域の一体感が深まった。

2) 成果として挙げられるものを3つほど。

地域の一体化

上述のとおり地域が一体となり盛り上がったこと。

サッカー人気の向上

茨城に限った話ではなく、Jリーグ発足後、サッカーブームは一時下火になったが、ワールドカップの開催決定により盛り返した。更に、ワールドカップ後もサッカー人気は続き、20～30年後はファン層が相当広がると思う。

この意味でワールドカップが、日本にサッカーを定着させたといえる。

社会資本の整備

Wカップをきっかけに交通インフラの整備等が進み、日曜日なら東京の八重洲から鹿島まで1時間20分程で着ける。東京方面（東関東自動車道 潮来インター）からのアクセスが格段に良くなった。

スタジアムもFIFAマタラ - ゼ副会長から「劇場のようだ」とほめられた。芝がきれいということが誇り。日本各地のスタジアムから芝の育成について問い合わせがある。

3) 自己評価すると100点満点の何点?

また、ワールドカップのPR効果についてはどのようにお考えですか。

95点。減点は、茨城の開催期間(6/2~8)が短すぎたということ。このため盛り上がりは鹿島地域に限定され、県内全域まで盛り上がるには時間が足りなかった。

県域テレビがなかったというのも要因だと思う。テレビというメディアパワーは大きいので、その点もったいなかった。なお、来年10月以降に、NHKが地上波デジタルの県域テレビ放送を開始する。

日本全体としてもやはり決勝ラウンドあたりから盛り上がってきたので、茨城で準決勝/決勝などが行われればまた違った成果が得られたかと思う。その点は惜しまれる。

しかし、祭りムードを演出でき皆から喜ばれ、鹿島を広く国内外にアピールでき、大きな効果があった。

4) スタジアムの整備、アントラーズの設立は茨城にとって投資という意識が強かったように思うが、どのようなリターンを生むと考えているか?

鹿島地域は、周辺地域に比べ元気がある。利根川対岸は人口が減っているが、鹿島地域は発展を続けている。

サッカーへの取組みがなかったら、この地域のイメージも違うものになっていたし、元気が無く、若者も少なくなっていたかもしれない。

投資に見合う金銭的效果がないと評価するのは当たっていない。

波崎町にはサッカー合宿が定着し、10~20億円規模の産業になっている。

景気が悪く、工場の整理統合が進んでいるが、そういう場合も名前が有名になった分、有利に働く面もある。若者のボランティア活動が活発化したなど教育面などでもいい影響を与えている。全体として良かったのではないか。

5) 最後に茨城として重点的に取り組んでいる施策をお聞かせください。

県内には、鹿島の外に、つくば、東海、日立など高度な科学技術の集積地を数多く有しているので、これらを産業振興や県民の生活向上に結び付け、日本をリードする最先端の科学技術立県を目指している。

県では、現在3本の高速道路網の整備、つくばエクスプレス常陸那珂港の整備、ひたちなか地区開発、百里飛行場の民間共用化など広域交通ネットワークの整備を進めている。

また、企業等が立地しやすく、若者も喜んで住めるよう、昨年9月から伝送容量2.4Gbpsの高度情報通信基盤、いばらきブロードバンドネットワークを整備している。

これらを活用し、「つくば・東海・日立の知的特区」「鹿島経済特区」「ひたちなかを中心とした物流特区」などの構想を推進するとともに、産業の活性化と雇用機会の確保を図るため、新規立地企業等に法人事業税及び不動産取得税を免除する全国一思い切った特例措置を講じることとしている。

このように、科学技術立県の基盤づくりを進め、本県産業の振興を図り、雇用の場がしっかり確保された元気な茨城をつくる。この活力を生かし、福祉や医療、教育や文化、環境などの面を一層充実させ、住みよい県づくりを実現していく。

(2003年2月17日)

2-4 埼玉県 - アンケート結果・文書回答

【アンケート結果】

Q1. 貴自治体におかれましても、ワールドカップに関する事後評価は重要であると認識していらっしゃるかと存じますが、すでに事後評価はしていらっしゃいますか。

A1. 今のところはしていない。

Q2. 以下の25項目につきまして、A, B, Cの3段階でご質問いたします。下記表内に書き込んでください。

- A. ワールドカップ開催前に、ワールドカップ開催によって、下記項目について「充実/促進」がはかられると考えておられましたか。
- B. Aで「はい」と回答された場合は、そのための施策や事業を実施しましたか？
もしされている場合は、その具体的な内容をお書き下さい。
- C. ワールドカップ開催を終え、下記項目について、その成果を評価するとのようにお考えですか。
1～5、×のなかから番号(記号)を1つ選んでをつけてください。
またその成果を評価するための客観的な指標はありますか？
もし有る場合には、その項目と内容を具体的にお書き下さい。
なお「×：現時点で評価できない」とする場合は、いつ頃評価できるようになるのでしょうか？
評価できる時期とその理由をお書きください。
- 1: 効果なし
2: ほとんどない
3: あった
4: かなりあった
5: 効果絶大
x: 現段階では評価できない

A2.

1	項目		住民意識の一体化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	さいたま新都心を中心に、ワールドカップ関連イベントを展開した
	C:	評価	4
2	項目		住民の連帯感の醸成
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	県広報紙「彩の国だより」でワールドカップの特集を組むなど、様々な機会をとらえて、県民に埼玉開催の意義等を理解してもらうよう努めた
	C:	評価	4
	客観指標・内容	県内各地で、県の活動とは別個に自主的なホスピタリティ活動が展開された(ワールドカップを契機として)	
3	項目		地域の誇りや住民の自信の獲得
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
	C:	評価	5
	客観指標・内容	埼玉開催に関し、県議会や県民、マスコミなどから高い評価をいただいた	

		項目	地域文化の見直し
4	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・開催地ボランティア研修で「彩の国埼玉マイタウン講座」を実施した ・ワールドカップフェスタなどで県内の伝統文化や文化活動を紹介した(5月/6月)
	C:	評価	4
客観指標・内容		・マイタウン講座4回に156名が参加した ・地元につながる見沼竜神伝説をつかった ・まちおこしが地元商工会の自主企画で展開された	
		項目	地域名のメディア露出
5	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	1.インフォメーションプレスセンター、インフォメーションコーナーの設置 2.記者発表の実施 3.国内外メディアツアーの実施
	C:	評価	5
客観指標・内容		1.大会当日約180名の記者（イギリス、スウェーデン、ベルギー等）が取材に訪れ、国内外に埼玉を広報した 2.5～6月の2ヶ月にわたり、隔日おきに魅力ある情報提供を行った 3.約60のメディアが参加し、スタジアムや新都心取材した	
		項目	外来者観光客数の増加
6	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	(1)スタジアムで対戦する国の言語に対応してインターネットのリニューアルを行い、観光等の情報提供を実施 (2)コールセンター事業を実施 (3)観光案内専用ブースを設置し、対戦国に対応したパンフレットを配付 (4)観光案内誘導に関連して、外国人観戦客のために英語による広報を実施・アクセスガイドの配布、退場時誘導用チラシの配布・案内看板の設置・問い合わせ電話の設置・自動音声案内（電話）
	C:	評価	4
客観指標・内容		(1)インターネットのアクセス件数は75万件にのぼった (2)三者通話による通訳サービスで、少数言語を話す外国人に便宜供与を行った (3)約55,000部のパンフレットを配付した (4)観客案内誘導に関する英語対応の実績 ・自動音声案内利用112件 ・問い合わせ対応58件	
		項目	商店街の活性化
7	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
	C:	評価	3
客観指標・内容		・主催者側の厳しいマーケティング活動のため、県内各地の商店街からイベント・バザールなどの問い合わせが多数あったものの実行したところはなかった ・さいたま市内の商店街に出場国旗を掲揚するなど、歓迎色を演出した	

		項目	地域経済への波及
8	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
	C:	評価	x 時期：評価は困難 理由：信用するに足る客観的なデータに乏しいため
客観指標・内容		-	
		項目	交通渋滞解消 / 自動車交通の定時制の確保
9	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・交通量削減のための広報の実施（県広報紙、看板など） ・交通総量抑制等連絡会議の開催 ・東北自動車道浦和インターチェンジのフル化 ・国道122号浦和インターチェンジ橋の整備 ・国道112号の左折レーン新設（スタジアムへの進入のため）（国道463号バイパスの整備）
	C:	評価	4
客観指標・内容		路線にもよるが、試合当日は最大30%程度交通量が減少した	
		項目	鉄道交通網の整備
10	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	埼玉高速鉄道の整備
	C:	評価	4
客観指標・内容		埼玉高速鉄道（平成13年3月28日開通）は埼玉スタジアム2002での試合開催時の主要アクセス手段となっている	
		項目	街並など景観の向上
11	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	埼玉スタジアム2002を中心とした浦和東部・岩槻南部地域の整備
	C:	評価	x 時期：評価は困難 理由：地域整備の完了時点で評価するといってもW杯との因果関係は明らかでないため
客観指標・内容		-	
		項目	住民の美化運動の実践
12	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	埼玉での開催を記念し、スタジアム周辺の環境美化や体力づくりを兼ねてクリーンウォークを開催した
	C:	評価	4
客観指標・内容		(1)健脚コース 600人 (2)一般コース 300人 (3)マイペース 400人 計1,300人参加	
		項目	ボランティア活動参加者の増加
13	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	埼玉開催に当たり、多くの県民がボランティアとして参加・活躍することで効果的に大会運営を支えた。
	C:	評価	4
客観指標・内容		登録者数 958人 研修 51回 延べ3,535人 講座（任意） 48回 延べ1,337人 配置 4試合 延べ1,814人	

14	項目		ボランティア活動組織の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	ボランティア団体が自主的にイベント等を実施する機会を提供した
C:	評価	4	
	客観指標・内容	キルトリーダーズ埼玉、埼玉サッカーサポーターズ、定住外国人ネットワークなどが自主的に活動を展開した	
15	項目		地域ホスピタリティの向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	埼玉サポーターズビレッジをさいたま新都心で展開
C:	評価	4	
	客観指標・内容	・県内各地のボランティア団体が多様なイベントを展開。17日間で合計50,000人が来場 ・地元さいたま市が浦和美園駅前広場でイベントを実施	
16	項目		国際意識の向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	ワールドカップを盛り上げ、楽しむとともに国際交流を深め、友好の輪を広げるために各種のイベントを開催した
C:	評価	4	
	客観指標・内容	各種イベントの参加合計40万人	
17	項目		国際交流の進展
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	日韓共同開催のこの大会を成功に導くよう、知事が韓国を訪問し、自治体間での意見交換などを行った
C:	評価	5	
	客観指標・内容	本県とソウル特別市との間で相互交流による青少年サッカー大会が開催されることになった	
18	項目		青少年への国際理解教育や社会教育の実践
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	青少年の国際サッカー大会を開催し、国際理解教育を推進した
C:	評価	5	
	客観指標・内容	埼玉国際コースサッカー大会(U-18) 埼玉・ソウル交流コースサッカー大会(U-15) 国際ジュニアサッカー大会 地元さいたま市などでワールドカップ給食を実施した	

		項目	環境保全意識への高まりへの寄与
19	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	環境美化対策として、スタジアム周辺清掃活動を実施した 環境に配慮した、次のような観客輸送を実施した ・低公害シャトルバスの運行 ・シャトルバスを利用した「環境優先・埼玉県」のPR スタジアム整備に当たって、環境への配慮を施した
	C:	評価	5
		客観指標・内容	試合の翌日(6月3,5,7,27日) スタジアム周辺の市道及び民地周辺 ゴミ清掃員120人(4日間)、ボランティア64人(4日間) 路線型車両のシャトルバス全てに低硫黄軽油を給油した バス事業者がワールドカップを契機に次のような対応を自主的に 行った ・低公害バスへの買い換え 6台 ・DPF(粒子状物質減少装置)の装着 29台 ・酸化触媒の装着 17台 試合当日のスタジアムでは、環境に配慮した管理が行われた ・屋根に降った雨水を浄化処理し、トイレの洗浄水などに利用し た ・太陽光発電パネルからの電気を事務室照明などに利用した ・自家発電機の廃熱を利用し、冷暖房や加熱給油などに利用した
		項目	スタジアム等・スポーツ施設の充実
20	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	「埼玉スタジアム2002」の整備及び、サブグラウンド2面・フットサルコート2面をもつ「埼玉スタジアム2002公園」の整備
	C:	評価	5
		客観指標・内容	アジア最大級のサッカー専用競技場の整備が図られ、観戦客をはじめ、広く国内外から高い評価をいただいた。今後、サブグラウンド等の整備により、一層の充実を図る。
		項目	スタジアム等・スポーツ施設利用の活発化
21	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
	C:	評価	4
		客観指標・内容	埼玉スタジアムにおける浦和レッドダイヤモンズや大宮アルディージャの試合数が増え、観戦客からも高い評価をいただいている
		項目	地域スポーツの活発化
22	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
	C:	評価	x 時期：評価は困難 理由：本県の場合、2004年に国体が開催されるので、その要素も軽視できないため
		客観指標・内容	-
		項目	スポーツ参加率の上昇
23	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
	C:	評価	x いつ頃：未定 理由：仮に県民アンケートを実施するとしても、その必要性等につき、庁内合意が必要なため
		客観指標・内容	-

項目		スポーツイベント運営ノウハウの獲得
24	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	はい
		施策の内容
	C: 評価	4
	客観指標・内容	JAWOC理事会への参画・復命 計19回 埼玉開催記録誌の発行 4000部
項目		サッカー人気の高まり
25	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	いいえ
		施策の内容
	C: 評価	5
	客観指標・内容	大会終了後もJリーグの人气が上昇した 地元紙ではJリーグに限らずサッカー関連の記事に重点を置き、他紙との差別化を図っている

Q3. 貴自治体におけるワールドカップの事後評価について、特記すべき事項を自由にご記入ください。

A3. 2002FIFAワールドカップ埼玉開催は成功を収め、その事後評価の必要性についても十分認識している。しかし、本県の場合、国際的なスポーツイベント開催地としては、このFIFAワールドカップ以前に2001年バスケットボールヤングメン世界選手権埼玉大会があるのみであり、FIFAワールドカップの開催準備についても、招致当初から試行錯誤の連続だった感は否めない。

このようなことから、大会後に事後評価を行うに際しても、例えば、次のような具体的な事項に関する考え方も未整理であり、今後、この調査結果を参考にして研究を深めていきたい。

事後評価を行う際の視点

- ・ 大会開催の効果との因果関係の検証
- ・ 一過性の効果と永続的な効果の整理

実際の評価方法

- ・ 県民へのアンケート・モニタリング調査・庁内での自己評価等、適切な評価手法の選択
- ・ 定量的分析と定性的な分析

実施によって得られた教訓のフィードバックの仕組み

- ・ FIFAワールドカップという「特殊解」から大きな国際スポーツイベントの法則性をどのようにして導き出すか。
- ・ その法則性を、次の大きなスポーツイベントにどのように具体的に当てはめていくのか。

【文書回答】

- 1) 2002年Wカップは大きな成果を上げたと思いますが、自治体首長としての全体的な印象をお聞かせください。併せて、事前に意図されたことの達成度について自己採点すると、100点満点で何点に相当するでしょうか。自己採点をお願いいたします。また、次の10の項目の中で、特に重要と思われるものを3つ挙げてください。(地域アイデンティティの確立、知名度向上、経済的な成果、交通インフラ整備、町並景観の向上、住民の参加意欲向上、地域ホスピタリティの向上、地域の国際化、環境問題意識、地域スポーツの振興)

2002 FIFA ワールドカップは、アジア最大級のサッカー専用スタジアム「埼玉スタジアム 2002」で準決勝を含め4試合が開催され、皇太子殿下、同妃殿下を始め各国要人の方々の御臨席のもと、世界一流のプレーが展開され、次代を担う子供たちなど県民の皆様方に大きな夢と希望を与えることができました。

この埼玉開催の成功に際し、大会関係者をはじめ、埼玉県議会や県民の皆様方には多大な支援を賜り、深く感謝を申し上げます。とりわけボランティアの方々には献身的に御協力いただき、頭の下がる思いをしています。

彩の国さいたまを内外に発信したワールドカップの体験は、本県の貴重な財産であり、この成果を生かし、子どもたちによる国際的なサッカー大会を開催するなど、子供たちの交流を通じて世界の平和にも積極的に貢献するとともに、埼玉スタジアムが次世代を担う子供たちに夢と希望を与え、名実ともに我が国を代表するサッカーの殿堂、サッカーのメッカとなるよう、今後とも全力で取り組んでまいります。

大会招致に当たっては、青少年に夢と希望を与える、本県を広く国内外に情報発信し、イメージアップを図る、県内のスポーツの一層の振興を図るという基本的な考え方をもって取り組みました。

このいずれもが十分な成果を上げ、所期の目的は十分に達成できたものと考えています。

国際スポーツイベントの開催を今後検討・意思決定するに当たって一般的に考慮すべき項目を挙げよという理解をした上で、強いて3つに絞り込むとすると、「知名度向上」、「地域の国際化」、「地域スポーツの振興」になろうかと考えます。

- 2) 開催地への立候補時点、開催地決定直後、終了後、各々でWカップへのイメージ、考え方に変化はありましたか。

青少年に夢と希望を与える、本県を広く国内外に情報発信し、イメージアップを図る、

県内スポーツの一層の振興を図るという基本的な考え方は、立候補当初から一貫していました。

特に、2002年大会は隣国韓国との史上初の共同開催ということで、私自ら先頭に立って韓国との交流に意を用いてまいりました。

そして、98年フランス大会を実際にこの目で見て、「人類の祭典」と呼ばれるFIFAワールドカップを本県で迎えるには万全の準備が必要と認識を新たにしました。

2002年大会が終了して、このような素晴らしい大会を本県に招致し、大成功に終わったことに関して、本当に良かったと心から思っています。

交通事業者や警備、救護に当たられた方々、そしてボランティアをはじめとする多くの関係者の皆様、埼玉開催にご支援を頂いた県議会や県民の皆様方に、深く感謝しています。

3) 成果として挙げられるもののうち3つだけに限定し、その成果を自慢してください。

開催地として特に意義深かったことは、青少年をはじめとする700万県民の皆様方に大きな夢と希望、活力を与えた、広く国内外に埼玉県の魅力をアピールすることができた、スポーツの振興に寄与することができた、の3つになろうかと考えます。

1つ目の「青少年をはじめとする700万県民の皆様方に大きな夢と希望、活力を与えた」ですが、各種イベントを通じて、多くの県民の皆様方に、発展する本県の姿や魅力・豊かさを御理解いただいたほか、試合日を中心に、世界の人々との間で様々な国際交流・片言の会話が活発に展開され、県民の皆様方一人ひとりにとって生涯忘れ得ぬ記憶を刻んだものと考えます。

特に、子供たちに関しては、FIFAの配慮もあって準決勝へ子供たちが招待されたほか、県内各地の学校でワールドカップ給食が実施されるなど、多くの子供たちがサッカーの楽しさ、ワールドカップの素晴らしさを実感することができ、子供たちに大きな夢と希望を与えることができたと存じます。ワールドカップを本県に招致して本当に良かったと、改めて思うところです。

また、県内でスポーツボランティアへの理解が浸透しました。本県では、2001年にヤングメンですが日本で初めてのバスケットボールの世界選手権大会が開催され、ここで初めてスポーツボランティアの世界が開かれました。そして、2002年FIFAワールドカップに続いて、2004年に彩の国まごころ国体と全国障害者スポーツ大会が、2006年にはバスケットボール男子世界選手権大会が開催されますが、ワールドカップのボランティアとして実際に御協力をいただいた方々のうち350人以上の皆様方が、これらの大会にも協力の意向を示していただいています。

FIFAワールドカップに際しては、キルトリーダーズ埼玉（キルト製のミニサッカー

ボールをつくって外国からの観戦客などに配る活動)、埼玉サッカーサポーターズ(ワールドカップ観戦客に折り鶴を配ることをはじめ、様々な活動を展開)、定住外国人ネットワーク(在日外国人が海外からの観戦客への案内・通訳などを実施)など、県内各地で様々な自主的活動がボランティア的に展開され、県のホスピタリティの向上、活性化に大いに貢献いただきました。このようなことは、これまで例がなかったといえるでしょう。

更に、この大会の観戦チケットについては、開催地住民枠が大会史上初めて設けられ、県民の皆様方には、当選の機会が2度あるということで、非常に高い関心を示していただいたことも、特筆すべきものと考えます。

2つ目の「広く国内外に埼玉県の魅力をアピールすることができた」では、開催地自治体として、世界的に本県の知名度が上昇し、イメージアップが図られました。

試合が行われた日本で数少ないサッカー専用スタジアムの素晴らしい雰囲気が、広く国内外に伝えられました。また、埼玉新都心のけやき広場に設けたインフォメーション・プレスセンターには、大会当日、イギリス、スウェーデン、ベルギー等から約180人もの記者が取材に来訪しました。ベルギーのラジオ局がワールドカップを生放送したほか、私もシンガポールテレビのインタビューを受けるなど、さいたま新都心から世界に向けて大いに埼玉を情報発信することができました。

また、県政の基本理念である「環境優先」をPRするとともに、環境保全・創造の具体的な行動を促すことができました。

環境問題は、今や議論の時ではなく、実行の時です。私は、ワールドカップの開催に当たっても、観客輸送など様々な面で環境の配慮を実践しました。

本県では、路線型車両のシャトルバスを1日当たり155台運行させましたが、そのすべてに低硫黄軽油を給油しました。低硫黄軽油は、通常の軽油に比べ硫黄分が1割に過ぎないので、排ガス中の硫黄酸化物が削減されるほか、粒子状物質の排出が5~10%削減されました。

このほか、ワールドカップを契機に、バス事業者に理解と協力を求め、低公害バス(最新規制適合車)への買い換えや、DPFなどの粒子状物質減少装置の装着を行っていただきました。

さらに全てのシャトルバスの前面に、「WELCOME TO SAITAMA Caring for the environment- 環境優先・埼玉県」とのバスマスクをつけました。シャトルバスは4日間で6万人以上の観客を輸送したことを考えると、国内外に広く環境優先をPRできたと考えています。

3つ目の「スポーツの振興に寄与することができた」については、県内でスポーツをする方々が急増していることが挙げられます。平成14年度の調査結果によると、県民

の皆様方の約 16%が「週に 3 日以上」、また約 21%が「週に 1~2 日程度」スポーツで汗を流しています。これは、平成 13 年度の調査（週に 1 日以上スポーツをしている人の割合が 23%）と比べると、わずか 1 年間で 14 ポイントも増加していることとなります。

また、大会終了直後に行われたスタジアムの一般公開では、試合が行われなくてもかわらず 4 万 6 千人にも上る多くの方々がお越しになり、トルシエ前日本代表監督の助言を受けて設けた「トルシエ階段」やイングランドの初戦で得点に結びつくコーナーキックを蹴った「ベッカムコーナー」などを見て、大会の余韻を味わわれました。このようなことを見ても、スポーツを「する」ばかりでなく、スポーツを「みる」ことの楽しさも、ワールドカップを通じて浸透したのではないかと考えています。

さらに、県内各地に、民間ベースでフットサルコートが続々と整備されていることも、スポーツ環境の整備という点から好ましい傾向と存じます。

4) こうした事業に対してその成否あるいは事後評価、効果測定及びその公表などの説明責任の重要性についてはどのようにお考えか、ご意見をお願いいたします。

地方分権の進展や、住民意識に変化、県財政の厳しい状況を背景に、政策評価は県政にとって重要なものと考えており、本県では、1998 年度から評価制度を導入しています。

県の各種施策や予算事業を実施した結果について、県民生活の向上にどのように貢献したかという成果主義の観点からわかりやすく県民の皆様方に説明をし、評価結果を公表することで、県民の皆様方と行政とが情報を共有するとともに、それぞれの役割分担と責任を自覚し、県民の皆様方の県政参画を推進するために、政策評価は有効です。

このように、本県では、県民の皆様に対する説明責任を果たすことを、政策評価の目的の一つと考え、積極的に取り組んでいます。

FIFA ワールドカップについても、県の施策の一つとして、毎年度政策評価を行っています。また、この大会は県民の皆様方にとっても関心が高いものと考え、大会終了後に県議会や記者会見の場をお借りして、開催結果を簡潔に御報告したところです。

5) 直接あるいは間接的に出された総費用はどの程度になりましたか。また、その出費は「イベントへの参加費用」としてのコストとお考えでしょうか、あるいは、「将来への投資（インベスト）」としてご確認されているのでしょうか？将来への投資として考えられたとすれば、「(有形、無形いずれも)資産として何が残ったか」「今後、どのような形でそれを生かすべき」とお考えでしょうか。

平成 8 年（1996 年）12 月の埼玉開催の決定を受けて、翌平成 9 年度から本格的な開

催準備を実施しました。平成 9 年度から平成 14 年度までの 6 年間に負担した経費は、概算ですが、17 億円です。このうち、約 2 億 7 千万円は JAWOC への補助等です。

このことは、これまで述べてきましたように、21 世紀の埼玉にとって様々な効果を期待して招致・準備を行い、実際に大会を行ってみて、青少年をはじめ 700 万県民の皆様方に大きな夢と希望を与えた、広く国内外に埼玉県魅力をアピールすることができた、スポーツの振興に寄与することができたなど、数字では図りきれない大きな意義・効果があったわけです。そして、700 万県民の皆様方に、ワールドカップ開催県として郷土埼玉、サッカー王国埼玉に誇りを持っていただくとともに、県民のボランティア活動、国際理解・交流など様々な資産を得ることができたところです。

今後、私は、青少年の交際スポーツ交流についてきまして、この 8 月には、昨年に引き続き第 2 回となりますが、韓国、中国、マレーシア、ドイツ、ベルギーなど世界の子どもたちや国内各県の子子どもたちに参加を呼びかけまして、2002 FIFA ワールドカップ開催記念として、JAWOC のご理解もいただきながら、少年国際サッカー大会を開催いたします。

また、本県の友好省になっています中国山西省の劉振華（リュウ・シンカ）省長との間で、昨年 10 月に青少年のスポーツ交流などについて合意しましたほか、北京では李嵐清（リ・ランセイ）國務院副総理とお会いし、サッカーによる子供たちの交流について提言し、ご賛同を得たところです。

また、この 3 月下旬には青少年をメンバーとするソウル市選抜チームを埼玉スタジアム 2002 に迎え、第 3 回となる交流サッカー大会を開催することとしております。これは、私が同じワールドカップの準決勝戦の地となるソウル市を 2001 年に訪問した際に、このほど、新たな首相に選任されました、当時の高建（コ・ゴン）ソウル市長とお会いし、サッカー交流試合を継続して開催することとしたものでございます。

私は、「国の宝」である子どもたちが世界の子子どもたちとサッカーを通して心と心のふれあう交流ができるよう、全力で取り組み、子どもたちに夢と希望を与え、世界平和の実現に努めてまいる所存です。

6) 単年度決算として、Wカップ関連の収支とそれについてのご感想をお願いいたします。

平成 14 年度のワールドカップ関連での最終予算ベースで見ますと、事業費が約 11 億円に対し、歳入としては県費以外に JAWOC からの負担金や協賛企業からのご支援によりまして約 4 億 6 千万円を確保いたしました。

厳しい財政状況の中、独自の財源確保に努力いたしましたが、なお多額にのぼる県民の皆様方からの貴重な税金を大会に充てさせていただいたわけですが、先の回答にも述べましたような様々な効果・資産もありましたので、多くの方々にも御理解をいただ

るものと考えています。

7) 住民の自治参加意識の醸成にWカップ開催は貢献しましたか。

県民の皆様方の県政への関心を高めたという点から、いくつかエピソード的に紹介させていただきます。

本県では、6万人規模のサッカー専用スタジアムという長所を活かして、決勝戦の招致活動を行いました。

特に、1998年(平成10年)5月には、県の推進組織であるワールドカップサッカー大会埼玉県開催準備委員会において、決勝戦招致を求める100万人署名の動議が可決され、6月から県内各地をはじめいろいろな所で署名運動が展開されました。県議会サッカー振興議員連盟の強力な御支援のおかげもあり、短期間のうちに、予想を大きく上回る166万人余の署名が、県内各地を中心に集まりました。

お一人お一人が自らペンを手にとって署名するという貴重な活動を通して、サッカーファンに止まらず県民の皆様を始め多くの方々に、FIFAワールドカップの埼玉開催、そして決勝戦の招致を御理解いただけたものと、感謝しています。

また、ワールドカップ開催と直接関連はありませんが、スタジアムの建設に当たって、県民の皆様方からの貴重な税金をお預かりしている身として、スタジアムを6万人規模にするか、4万人規模にするか、それとも建設をとめるか、悩みに悩みました。その間、県議会をはじめ県内外の各界各層の皆様方から、温かい御意見や厳しい御意見など、様々な意見をいただきました。このような中、平成8年9月に、私は、子供たちに夢と希望を与える、アジアサッカーのメッカにする、地域の防災拠点とするという理由から、6万人規模での建設を決断いたしました。

御案内のとおりワールドカップは成功裡に終わり、その直後にスタジアムを無料開放いたしましたところ、4万人を超える方々が来場し、ワールドカップの余韻をお楽しみいただきました。

また、県民の皆様方をはじめとした、スタジアムへの来場者は、平成14年度になってから既に100万人を超えました。

私は、このスタジアムを建設して本当によかったと思いますとともに、今後の一層の利活用に向けて決意を新たにしています。

このような例からも、県民の皆様方からの貴重な税金をワールドカップに、スタジアムの建設に充てさせていただいたことなど、県政への関心を高めることになったものと思います。

8) 市民レベルでの国際交流という点では如何でしたか。

私は、平素から、人種、国家、イデオロギーを超えた、人と人、心と心が触れあう草の根の国際交流や国際協力が重要と様々な機会に訴えるとともに、心のこもった草の根外交を積極的に展開し、多くの方々から高い評価をいただいています。

ワールドカップ期間中のスタジアム入口周辺や最寄り駅、駅からスタジアムへ通じる歩行者専用道路は、まさに市民レベルでの国際交流の広場でした。

また、ワールドカップ開催に当たり県が事務局を担いました「成功させよう 2002 FIFA ワールドカップ埼玉委員会」が、さいたま新都心などを会場として様々なイベントを行いました。そこにはスタジアムへのシャトルバスの発着駅だったこともあり、県民の皆様方や海外の観戦客など、非常に多くの方々 came ました。

大会期間中にさいたま新都心の屋外特設広場に開設したサーポーターズビレッジでは、国内外からの来訪された方々と県民の皆様方との交流を図るべく、フェイスペインティングや似顔絵描き、お手玉や紙芝居などをテントで実施したり、コリアン舞踊など様々なパフォーマンスを特設ステージで展開し、広く喜ばれました。

また、5月の連休にさいたま新都心「けやきひろば」で開催したワールドフェスティバルでは、トルコ、ブラジル、スペインや韓国などの民族舞踊をはじめ、ガーナ、ペルー、ネパールの民俗音楽などを披露していただきました。来場した皆様は、ブラジルやパキスタン、エジプトなど各国の料理を思い思いに味わうなど、様々な交流が和やかに行われました。

さらに、このように県が関係したものばかりではなく、御質問の3)でも述べましたが、埼玉サッカーサポーターズ、定住外国人ネットワーク、キルトリーダーズ埼玉など、海外からのお客様をもてなしたいという思いから自主的に活動された団体もあり、それぞれが活発に交流の輪を広げたり深めたりするなど、ワールドカップ埼玉開催は、県民の皆様方の国際交流を深める一つの契機になったのではないかと考えています。

9) 交通・情報インフラ、宿泊施設、商業施設、文化財施設などでき地域において不足しているもの、より充実させたいと思ったものはありますか。

本県の場合、首都東京と隣接しており、スタジアムへは地下鉄1本で直結していることなどから、大会を開催してみて、お尋ねのような施設・ハード関係の不足や不自由、不便を感じることは特にありませんでした。

お尋ねのような施設やインフラ等については、国際スポーツイベントの実施とは別に、行政と民間との関係の在り方や厳しい財政状況を踏まえ、長期的な視点から着実な整備を図っていくべきものと考えています。

10) 自治体、民間を問わず、人材は充分でしたか。将来さらに人材育成の充実を図るためにはどのような政策が有効でしょうか?ご意見を伺わせてください。

本県の場合、2002 FIFA ワールドカップ前の国際スポーツイベントとしては、2001年バスケットボールヤングメン世界選手権埼玉大会があったのみで、この FIFA ワールドカップは、県職員に限らず、誰にとっても手探り状態だったのではないのでしょうか。

今後、国際スポーツイベントを行うに当たっては、コーディネイト役とでもいうべき高い専門性と知識・経験、人脈を身につけた人材が必要と考えられます。

ただし、行政として、このような人材をどのように求め、また、どのような関り方を持つかについては、様々な角度から十分に研究していく必要があると考えます。

11) Jリーグ・浦和レッズの存在がワールドカップ開催にどのようにいかされましたか?また今後さらに発展させるための具体的な方針などあれば、お聞かせください。

本県の場合、JAWOC 埼玉支部に浦和レッズや大宮アルディージャのスタッフを招き、競技運営などの分野で重要な役割を担っていただきました。また、浦和レッズのスチュワードが、ワールドカップ・フランス大会を視察し実務研修を受けてくるなど、JAWOC ボランティアとして大いに助けていただいたと聞いています。

また、ワールドカップ開催の盛り上がりの中で、浦和レッズや大宮アルディージャの選手やコーチがサッカー教室を通じて埼玉の子供たちにサッカーのおもしろさを伝えてくれました。サッカーの普及やレベルアップに大いに役立ったものと思います。

県の立場では、日本一熱心と評される浦和レッズのサポーターが、大会の気運醸成に大きく貢献したことは、多言を要しないことでしょう。

ここ埼玉の地は、サッカーの盛んな土地柄ですので、埼玉スタジアム 2002 の有効活用の観点からも、浦和レッズはもとより、大宮アルディージャや県サッカー協会などとも協力し合って、サッカーをはじめとするスポーツの振興に、引き続き取り組んでまいりたいと考えています。

2-5 横浜市 - アンケート結果・インタビュー

【アンケート結果】

Q1. 貴自治体におかれましても、ワールドカップに関する事後評価は重要であると認識していられることと存じますが、すでに事後評価はしていられるでしょうか。

A1. **はい**

Q2. 以下の25項目につきまして、A、B、Cの3段階でご質問いたします。下記表内に書き込んでください。

- A. ワールドカップ開催前に、ワールドカップ開催によって、下記項目について「充実/促進」がはかれると考えておられましたか。
- B. Aで「はい」と回答された場合は、そのための施策や事業を実施しましたか？
もしされている場合は、その具体的な内容をお書き下さい。
- C. ワールドカップ開催を終え、下記項目について、その成果を評価するとどのようにお考えですか。
1～5、×のなかから番号(記号)を1つ選んでつけてください。
またその成果を評価するための客観的な指標はありますか？
もし有る場合には、その項目と内容を具体的にお書き下さい。
なお「×：現時点で評価できない」とする場合は、いつ頃評価できるようになるのでしょうか？
評価できる時期とその理由をお書き下さい。
- 1: 効果なし
2: ほとんどない
3: あった
4: かなりあった
5: 効果絶大
x: 現段階では評価できない

A2.

項目		住民意識の一体化
1	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	はい
		施策の内容
	C: 評価	3
客観指標・内容		-
項目		住民の連帯感の醸成
2	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	はい
		施策の内容
	C: 評価	3
客観指標・内容		-
項目		地域の誇りや住民の自信の獲得
3	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	はい
		施策の内容
	C: 評価	3
客観指標・内容		-
項目		地域文化の見直し
4	A: 事前認識	いいえ
	B: 施策の有無	-
		施策の内容
	C: 評価	-
客観指標・内容		-

5	項目		地域名のメディア露出
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	IMC（国際メディアセンター）及び決勝戦の誘致、プレスキットの作成・配付、横浜メディア・インフォメーションの設置、メディア取材への支援、予選・本選抽選会でのシティセールス、メディアツアーの実施、競技場ピッチ内での都市名露出
C:	評価	4	
	客観指標・内容	-	
6	項目		外来者観光客数の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	市W杯ホームページの多言語化（計10言語）、観光ホームページの多言語化（計6言語）、観光パンフレット・地図の多言語化、観光事業者向け国際化支援事業、案内所の拡充（多言語、時間延長、臨時案内所・電話案内所の設置）、ピクトグラム及び多言語による案内表示の充実、海外宣伝の実施
C:	評価	4	
	客観指標・内容	-	
7	項目		商店街の活性化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	歓迎横断幕・出場国国旗・ストリートバナー等による装飾の実施、関連イベントへの支援、ようこそ横浜！キャンペーンの展開
C:	評価	3	
	客観指標・内容	-	
8	項目		地域経済への波及
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	FIFAコンフェデレーションズカップ等国際大会の誘致、カウントダウン・関連イベント・W杯前夜祭イベントの実施、商店街振興イベントの実施、ようこそ横浜！キャンペーンの展開
C:	評価	3	
	客観指標・内容	-	
9	項目		交通渋滞解消 / 自動車交通の定時制の確保
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	競技場周辺道路での交通規制の実施、地域関係車両への識別証の発行、交通抑制広報の実施、地元説明会の開催
C:	評価	4	
	客観指標・内容	-	
10	項目		鉄道交通網の整備
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	市営地下鉄の増便、終電延長、民間事業者への臨時運行・終電延長要請
C:	評価	4	
	客観指標・内容	-	
11	項目		街並など景観の向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	ボランティア参加による美化活動の実施、緑化・飾花活動の展開、路上違反広告物等の取り締まり及び違法駐輪対策の実施
C:	評価	4	
	客観指標・内容	-	

12	項目		住民の美化運動の実践
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	ボランティア参加による美化活動の実施、緑化・飾花活動の展開、路上違反広告物等の取り締まり及び違法駐輪対策の実施
	C:	評価	4
		客観指標・内容	-
13	項目		ボランティア活動参加者の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	市W杯ボランティアの募集（通訳案内、一般）、地域美化活動ボランティアへの支援
	C:	評価	5
		客観指標・内容	-
14	項目		ボランティア活動組織の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
	C:	評価	-
		客観指標・内容	-
15	項目		地域ホスピタリティの向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	各種広報の実施、カウントダウン・関連イベントの実施、市W杯ボランティアの募集・参加、オリジナルロゴマークの制定・普及、ようこそ横浜！キャンペーンの展開、市営交通（バス、地下鉄）での歓迎装飾、歓迎横断幕・出場国国旗・ストリートバナー等による装飾の実施
	C:	評価	4
		客観指標・内容	-
16	項目		国際意識の向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	出場国に関する各種広報の実施、横浜で試合を行う出場国歓迎イベントの実施、簡易会話集の作成・配付、観光事業者向け国際化支援事業、9言語対応の119番通報ソフトの開発・導入
	C:	評価	3
		客観指標・内容	-
17	項目		国際交流の進展
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	出場国歓迎レセプションの開催、日韓スポーツ・文化芸術イベントの開催・支援（日韓ジュニアサッカー交流事業、32カ国フットサル大会、国際子ども壁画展、日韓オペラ「春香」の開催支援、国際サッカー児童絵画展）、国際交流ラウンジでの市民交流事業
	C:	評価	3
		客観指標・内容	-
18	項目		青少年への国際理解教育や社会教育の実践
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	出場国を代表する給食献立メニューの実施、「広報よこはま子ども版」W杯特集の実施・学校配布
	C:	評価	3
		客観指標・内容	-

19	項目		環境保全意識への高まりへの寄与
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	CNG(圧縮天然ガス)を燃料とするメディア用シャトルバスの運行、ボランティアによる美化活動
	C:	評価	3
		客観指標・内容	-
20	項目		スタジアム等・スポーツ施設の充実
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	洋式トイレ比率の向上、個室観覧席の設置、三ツ沢陸上競技場への夜間照明設置、市民サッカーパーク設置・整備への支援
	C:	評価	3
		客観指標・内容	-
21	項目		スタジアム等・スポーツ施設利用の活発化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	競技場のW杯記念展示事業、競技場見学ツアーの実施、FIFAコンフェデレーションズカップ等国際大会の誘致
	C:	評価	3
		客観指標・内容	-
22	項目		地域スポーツの活発化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	各区サッカーイベントへの開催支援(横浜熱闘倶楽部を通じた市内プロスポーツチーム応援事業)
	C:	評価	3
		客観指標・内容	-
23	項目		スポーツ参加率の上昇
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	スポーツ教室等の各種スポーツイベントの開催、市民の会やフットサルクラブ等が開催するスポーツイベントへの支援
	C:	評価	3
		客観指標・内容	-
24	項目		スポーツイベント運営ノウハウの獲得
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	庁内危機管理体制の強化、危機管理対応マニュアルの整備、警備に関する県警等との地域連携強化
	C:	評価	3
		客観指標・内容	-
25	項目		サッカー人気の高まり
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	サッカー及びW杯に関する各種広報の実施、カウントダウン・関連イベントの実施、各区支援組織によるイベント開催への支援
	C:	評価	3
		客観指標・内容	-

Q3. 貴自治体におけるワールドカップの事後評価について、特記すべき事項を自由にご記入ください。

A3. 多様な人材の発掘と今後の活かし方

- ・ 今回のW杯は、市民やボランティア、企業といった、「民(みんな)の力」による事業実施の成功一例となった。
- ・ 世界的なビッグイベントを地域で盛り上げ、支えたことにより、市民のホスピタリティの向上、市民の誇り・自信といった効果があった。
- ・ ボランティアの募集を通じて多様な人材の発掘が出来たが、今後の観光コンベンション事業等へ活かすために、市民やボランティアが参加・参画する仕組みづくりが必要である。

シティセールス効果

- ・ 横浜の都市知名度や競技場のステータスが向上したことにより、今後のスポーツコンベンション等の誘致に有利になると期待している。
- ・ ワールドカップによる横浜の知名度・イメージ向上を、観光客、海外企業等の誘致へもつなげていくことが重要である。
- ・ ワールドカップ開催後も、引き続き、世界的な都市知名度を向上させるためのプロモーションを継続実施する予定。

スポーツの振興

- ・ ワールドカップ市民の会が整備した「市民サッカーパーク」についても、引き続き市民に活用してもらえよう市及び都市整備公団で、支援し、スポーツ振興を図っている。
- ・ ワールドカップ後に開催された「知的障害者サッカー大会」決勝戦には2万5千人もの来場者があり、障害者スポーツへの振興へも結びついた。
- ・ 「ワールドカップ横浜開催推進委員会の残余金」及び「JAWOCからの返還金」を基に、「ワールドカップサッカー大会決勝戦開催記念基金」を市スポーツ振興事業団に設置し、ワールドカップ開催記念事業やスポーツ振興に活用する。

子どもたちと夢と感動を

- ・ 競技場内に仮設増席を行い、市内の小中学生と引率者計1,130人を招待したほか、JAWOCから見切り席の提供により900席の追加招待を実施。未来を担う子どもたちに世界最高レベルのプレーを実際に観てもらい、夢や感動を体験してもらった。

競技場の施設活用

- ・ 施設全体にワールドカップのメモリアル展示を行い、競技場見学ツアーと連携しながら、競技場を集客力ある新たな観光名所にしていきたい。
- ・ 市民利用施設という点で、現在でも低廉な費用で市民のスポーツ振興や健康増進に活用されているが「ワールドカップ決勝戦会場」というネームバリューを生かし、国際的スポーツイベントやコンサートなどの音楽イベントの開催などにも活用されるよう努めていく。

【コンベンション室/魚谷氏インタビュー】

1) 平成 14 年度も含め W カップに関して、横浜市が直接的に使用した金額は発表されていますか？

はい。対外的には平成 14 年度予算も含めると 29 億円で、使用しなかった分なども換算すると平成 5 年度からの累計で約 27 億円というのが発表している金額。この金額にはワールドカップの招致、JAWOC に対する出資、施設整備、イベント開催などが含まれる。JAWOC から 3 億 8 千万円戻ってきたのを差し引くと 23.2 億というのが実質の金額ということになる。平成 11 年度以降はワールドカップサッカー推進課（コンベンション推進室）の予算管轄、それ以前（平成 5 年度～10 年度）は教育委員会の予算であった。単年度予算で見ると、平成 13 年度が約 10 億（決算 8.9 億）、14 年度が約 9 億、この 2 年を除くと大体年 5,000 万円くらいで推移していた。平成 13 年度は施設整備が集中した（競技場を W カップ仕様にするための仮設を含め、貴賓室設営、個室観覧席（ボックス）約 3,000 の一般席、洋式トイレの増設など）。なお、経済波及効果については特に算出していない。今後も算出予定はない。

2) スタジアムの建設費についてはいくらぐらいでしたか？ その予算計上はどのようになっていますか？ また「将来の投資への認識」や「スタジアムの運営目標」さらには「防災拠点としての役割」などについてお聞かせください。

スタジアムの建設費については 600 億円の投資。これはワールドカップ予算の範囲ではなく、平成 10 年度の国体のメインスタジアムとして市の建設予算（国や県の補助はあり）ので計上。当初は国立競技場の 60,000 人を踏襲する予定だったが W カップのことも含め 70,000 人収容のスタジアムにした。2 割～3 割程度の起債をしている。

施設の将来性は当然考えていた。「利便性」をテーマとして、まず新幹線の停車駅である新横浜駅近くに立地することによるアクセスの優位性や、さらに付近には横浜アリーナなどの大規模施設もあるため大規模イベントへの対応性も含め、都市開発の意識があった。中に一般市民が利用出来るコミュニティプラザを設置、また医化学センターを内包するといった点も将来性を考えて立地、建設の計画がされ実現した。

スタジアムの運営については特に稼動目標等の数値はなし（ただし芝生の部分は養生の都合もあるので 50～75 日が稼動の限界）。現状運営主体は振興事業団（財団法人）で、10 億円程度の運営費、市の補助金が 8 億円程度。芝生の利用、陸上トラックの使用、コンサート収入を含めた稼動効率は考えていけないといけない。特に J リーグの試合におけるスタジアムの料金換算はチケット売上収益に対し一定率の金額としているので、横浜 F マリノス / 横浜 FC が年間の競技場使用回数が増えた上で、常時 5～6 万人を集客出来るようであれば「単年度黒字」も可能性として決してないわけではない。コンサートに関しても、住宅地に近いとことから防音壁の設備等についても配慮されているので、特別問題なく運営はできる。

東京を含めたヒンターランドという観点では埼玉などと一緒にかもしれないが、交通アクセスとしての新幹線 / 東名高速という交通利便性から考えるとその優位性は大きいものと考えている。

防災の点に関しては、亡くなった高秀元市長が防災に力を注いでいたこともあって、災害時の避難地としてのスタジアムの存立意識はあった。ただし市の拠点は関内近辺であることから防災本部は本庁舎になる。また電波の関係上みなとみらい区内（NTT ドコモタワー）に防災センターを設けた。そのため、スタジアムはあくまで代替的な防災

拠点に留まっている。耐震性は誇るべきものであり、また無線設備をはじめ、水の循環システムを備え、電力の確保、緊急治療に関する医療システムに至るまで充実している。ヘリポートも完備し、防災拠点としては充分ではあるが、現状防災機能をすべてスタジアムに集中することは考えていない。

3) 横浜Fマリノス/横浜FCというJ1/J2のチームをもつホームタウンとして、観客動員数なども含めて、Wカップが果たした役割、影響などはどうお感じになっていますか？

わかりません。観客動員数は浦和に次いで2番目に多いが、必ずしもWカップが影響したものでもない。ただし、選手との交流イベントなどに対して子供達が興味を持った、というような直接目に見えない部分について効果はあるのではないかと思う。昨年も前半はWカップの日程的な問題で売上自体は苦戦したが、観客動員数自体一昨年よりは昨年の方が増えている。今年はカフーの来日も含め、Wカップ効果が考えられるが、競技場を満杯にしようという目標を持って2チームとも臨んでいる。

4) 住民の参加意識という点ではどのように自己評価されていますか？ またボランティアの成果については市としてもお感じになっているようだが、Wカップ独自のものとお考えですか？ 今後への発展可能性も含めてご意見をお聞かせください。

Wカップの名称使用に制限があり(自治体ですら制限を受けた)、自主的な活動は限界があった。市内18区にWカップ推進委員会を設置。官主導であったが、イベントを経る中で自発的な取り組みが増加した。市民の会という自発的な組織もあった。JAWOCの募集の時期とは別に、子供たちを含め多くの市民に対してボランティアへの参加を呼び掛けた。開幕戦前のイベント運営や、子供たちの無料招待など、多くの市民参加型のものを企画したが、想定以上に市民の参加が多かった。ボランティア参加の記念に、ボランティア参加者自身が編集した小冊子を発行、その際にアンケート/ヒアリングを行った。その中でも「参加して良かった」という声が非常に多かった。特に当初住民から拒否反応が出るかと思われた「美化清掃」に関する作業も、逆に参加されたの方がボランティア活動への満足度は高かったというようなアンケート結果が出ている。

横浜市ではボランティア活動センターがあり、国体時は県がスポーツボランティアを手配、また横浜Fマリノスなどチームボランティアを持つなど、元々ボランティア活動は盛んな都市背景を持つ。とはいえ今回非常に多くの方々に参加いただいたのはWカップだったからという要素は大きい。Wカップを機に参加してみて非常に良かったのでまた何か機会があれば参加したいと思う方が増えるきっかけにはなった。他のボランティア組織に登録してもらおうよう呼び掛けをしている。今回ボランティアに参加してくれた方々については住所/電話/E-MAILアドレスなどのDBは確保、保管しており、これをいかしながら人数や層が増えるようにしていきたい。ソウルの7万人を母数とするボランティアのDBには及ばないが、そういうものを目指したいと思っている。

通訳案内ボランティア(特に病院)を60人手配した。ニーズは実際多くなかったが、今後につながると思う。病院自体も自発的に、指差しでの診察ができるインフラ整備など積極的に取り組んでいた。

また2001.9.11のテロをきっかけに危機管理マニュアルを作った(非公開)。これは

ワールドカップ向けではあるが、今後イベントごとにカスタマイズして使えると思うので一つの財産と考えられる。

大都市なので人材難での悩みは少なかったが、当初想定し募集していた通訳の他に、ドロー決定後急遽クロアチア語の通訳をできる人を...ということで募集した。市内に6人いたのでカバーはできた。横浜市には出場32ヶ国すべての国の出身者が在住していた。

5) 首長として中田市長のご感想等でお答えいただけるものがあればいただけますか？

4月に市長となり、Wカップの誘致や開催の準備に関わってこなかった自分に何ができるのか戸惑いがあった。しかしその中で自分が果たす役割としては「十分に力が発揮出来る環境づくり」。選手が安心してゲームに集中出来る環境づくりにより、存分に力を発揮してもらうように、観客にとっても安心して観戦、応援に存分に楽しめるように、ということ意識して各施策に取り組んだ。スタジアムを視察、危険が想定される部分に関しては手直しを指示。横浜では、日本戦が行われた3日の内、4日/14日はスタジアムを、9日は文化体育館をパブリックビューイングとした。暴れてしまってパブリックビューイングを中止する事態にならないように、という注意を促す呼びかけを当日市長自ら行った。ちなみに横浜開催試合は全て見た。

高秀前市長は、決勝の横浜開催、テロ対策（特にテロに対する危機管理）の盛り込みということを含めた取り組みを行った。

6) アカウンタビリティに関してはいかがお考えですか？

高秀前市長も情報公開については熱心に取り組んでいた。以前と比べると随分進んだといえる。

中田現市長は、物事を進めていく際に官のみがやるのではなく、民と力を併せて協同でやっていくことが重要であり、民間の人たちが十分に活動するためのコーディネーターが行政の役割だと考えている。それには情報の共有化が必要不可欠。積極的な情報公開を基本としている。まず市長交際費を情報公開し、「都市経営戦略会議 / 執行会議」の内容や「政策決定プロセス」のWEBでの情報公開を行っている。また横浜市の負債額、起債額、一般会計のみでなく、企業会計 / 特別会計も含めて公表していった。開発公社が持つ土地の原価 / 時価も公表している。したがって含み損益も分かるようになっている。予算の編成過程なども公開している。などなど、市民が分かりやすい素材の提供を含め、アカウンタビリティを果たそうとしていてガラス張りの市政を意識している。

7) 立候補時の意識とWカップという「事業投資」へのリターンに対する見解についてお聞かせください。

リターンとは何を持っていうか。仮に1ヶ国開催として当時立候補していたのが15自治体すべてが残ったのではないかと考える。それぞれで64試合ということはせいぜい1自治体4試合。共催としても3試合は最低保証されていたし1試合増える程度の違いなので、共催による決定的な大差はなかったのではないかと。横浜の場合は単に15から10の自治体に残るということではなく、決勝 / 準決勝 / 開幕ゲームといったビッグゲームのいずれかをとりたいということで臨んでいた。ブランディングに留まらず、プレステージという意識があった。

特に高秀前市長は、横浜の名は船関係 / 港関係の業界を除くと海外に知られていない。その対外的ネームバリューを上げていきたいという考えがあったようだ。一方中田現市長はワールドカップ以降どうするかということに注力している。特に（外資系の）企業誘致活動に熱心。今までは「東京の隣」という説明だったのが、「ワールドカップの決勝をやった」ということに取り替わるようになる。ただし、基本的に現在各計画については数値目標を立てるようにしつつあるが、外資系の企業誘致については数値目標をたててない。地価 / 税制収入（固定資産税・住民） / 起債の金利というところが都市力 / ブランド力につながっているといえる。その意味では今後の横浜のさらなる価値向上に遠からず果たす役割はあったと考えられる。

8) 地域メディアとしての動きが少なかったように思うが、ご感想はいかがでしょうか。

イベントを行うにしても FIFA のしぼりがきつく「ワールドカップ」という名称の使用に制限があり、ニュース / スポーツ以外はほとんどメディアで放送をできなかった。それでも TVK では毎週木曜日に 5 分番組を作ってくれていたり、FM 横浜でも無償で枠をもらったりなどとそれなりのメディアの支援もあったが、スポンサーの獲得が困難な点が最大の問題だった。財政が厳しい中で自治体がなんでもかんでもやらねばいけないというわけではなく、民間との協力関係が必要であったが、FIFA 絡みの権利関係上からも民間の動きに限界があったのが難しい課題だった。

(2003 年 3 月 17 日)

2-6 新潟県 - アンケート結果・文書回答

【アンケート結果】

Q1. 貴自治体におかれましても、ワールドカップに関する事後評価は重要であると認識していらっしゃるかと存じますが、すでに事後評価はしていらっしゃいますか。

A1. する予定はない。

Q2. 以下の25項目につきまして、A, B, Cの3段階でご質問いたします。下記表内に書き込んでください。

- A. ワールドカップ開催前に、ワールドカップ開催によって、下記項目について「充実/促進」がはかれると考えておられましたか。
- B. Aで「はい」と回答された場合は、そのための施策や事業を実施しましたか？もしされている場合は、その具体的な内容をお書き下さい。
- C. ワールドカップ開催を終え、下記項目について、その成果を評価するとの様にお考えですか。1～5、×のなかから番号(記号)を1つ選んでをつけてください。またその成果を評価するための客観的な指標はありますか？もし有る場合には、その項目と内容を具体的にお書き下さい。なお「×：現時点で評価できない」とする場合は、いつ頃評価できるようになるのでしょうか？評価できる時期とその理由をお書きください。
 - 1: 効果なし
 - 2: ほとんどない
 - 3: あった
 - 4: かなりあった
 - 5: 効果絶大
 - x: 現段階では評価できない

A2.

項目		住民意識の一体化
1	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	はい
		施策の内容
	C: 評価	4
客観指標・内容		指標なし 町内会や民間企業がアクセスルートやスタジアム周辺などの清掃等を自主的に実施した。アルビレックス新潟の試合の入場者数からも明らか。また、直接には関係ないが、01年11月にアルビレックス新潟が実施した観客動向調査では、回答者の7割ほどがサッカーによる地元意識の向上ありとしている。
項目		住民の連帯感の醸成
2	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	はい
		施策の内容
	C: 評価	4
客観指標・内容		1.に同じ
項目		地域の誇りや住民の自信の獲得
3	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	いいえ
		施策の内容
	C: 評価	5
客観指標・内容		指標なし 県民がこれまで経験したことのない感動や興奮を経験したこと、海外のサポーターとの交流、触れ合い、そして大会の成功など、県民が自信と誇りを得たことは間違いない
項目		地域文化の見直し
4	A: 事前認識	いいえ
	B: 施策の有無	いいえ
		施策の内容
	C: 評価	2
客観指標・内容		-

		項目	地域名のメディア露出
5	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	メディア向け開催地PRパンフレット、CD等の配布。大会期間中スタジアムメディアセンター内にPRブースを設置。JAL機関誌「ウィングズ」の国内・国際線両方にて「新潟」をPR。予選抽選会、本選抽選会にて新潟をPR。
	C:	評価	4
客観指標・内容		指標なし キャンプ地十日市町市やシャトルバス成功など、国内外のメディアに取り上げられた。特にシャトルバスについては、ニュースウィーク誌に「ワールドカップ伝説の仲間入り」と絶賛された。海外留学生などから地元紙に新潟のことが載っているとのメールも寄せられた。	
		項目	外来者観光客数の増加
6	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	観光客誘致に向けた基本的な考え方として、メディアへの情報提供を中心に事業実施。海外メディア等への観光ガイドブックの配布、JNTO主催の欧州ミッションに参加してのPR活動、海外メディアの受入取材の実施、インターネット観光情報データベース構築、旅館等における外国人受入研修実施 等。
	C:	評価	3
客観指標・内容		-	
		項目	商店街の活性化
7	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	ワールドカップに関連する各種情報提供
	C:	評価	3
客観指標・内容		-	
		項目	地域経済への波及
8	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
	C:	評価	3
客観指標・内容		指標なし 経済効果について、生産誘発額130,178百万円、誘発雇用者数10,749人を試算(平成9年県実施調査)。経済効果の分析については事後的に難しいことから行わない。	
		項目	交通渋滞解消/自動車交通の定時制の確保
9	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	シャトルバスの運行。パーク・アンド・バスランドの実施。交通総量抑制広報の実施。
	C:	評価	5
客観指標・内容		指標：シャトルバスでの観客輸送数 シャトルバスでの輸送量は1試合2万人(往路、復路とも)を計画したが、1試合平均2万余を滞りなく輸送した。ニュースウィーク誌からも「W杯伝説の仲間入り」と絶大な評価を得た。	
		項目	鉄道交通網の整備
10	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	ワールドカップ開催のために鉄道交通網の整備は不要
	C:	評価	-
客観指標・内容		-	

11	項目		街並など景観の向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	ワールドカップ開催盛り上げのためのバナー・フラッグ等での市内装飾や仮設の案内板等を設置。新潟駅からスタジアムへのアクセス道路である市道弁天線や県道公園線が整備。
	C:	評価	4
		客観指標・内容	-
12	項目		住民の美化運動の実践
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
	C:	評価	3
		客観指標・内容	指標なし 町内会が中心となり町内会単位で清掃の実施や、プランターを道路脇に置くなど自発的な取り組みが見られた。また、複数の民間企業・団体が新潟駅～スタジアム間のアクセスルートやスタジアム周辺などのゴミ拾い等を自主的に実施した。
13	項目		ボランティア活動参加者の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	県内企業、病院、大学、専門学校に参加意向調査を実施。JAWOCとともに全国的ボランティア募集を実施。
	C:	評価	4
		客観指標・内容	指標：ボランティア参加者数の増加 前年度のコンフェデレーションカップでの参加者は400余だったが、ワールドカップ時は1600余の参加が得られた。これらのボランティアのうち熱意のある者はアルビレックス新潟の試合で継続的に活動を続けている。
14	項目		ボランティア活動組織の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
	C:	評価	3
		客観指標・内容	指標なし ワールドカップでのボランティア業務を通じ、自主的にいくつかのボランティアグループができ、2006年のドイツ大会に向けて活動を開始しているグループもあると聞いている。
15	項目		地域ホスピタリティの向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	関係機関・団体、地域住民への説明会等を通じ、「もてなしの心」で来県者を迎えるように依頼。海外観戦客のために電話による3者通話システムの導入。
	C:	評価	4
		客観指標・内容	指標なし 国内外の観光客・メディアから新潟の人たちの親切さに対する感謝のことばを随所で聞いた。

16	項目		国際意識の向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	項目には間接的なつながりになるが、ワールドカップ支援担当の国際交流員を2名採用し、 (1)英語表記の翻訳など語学面でのサポート (2)地域や団体等からの依頼により講師として派遣し、地域の国際化へのサポートを実施した。
C:	評価	3	
	客観指標・内容	指標なし (1)英語を中心とした表示が増えたり、出場各国とりわけ新潟での試合を中心とした情報が非常に多くなったことなどから、海外を意識せざるを得ないような状況となった。 (2)海外観戦客等と直接触れ合い、市民レベルでの交流ができたことは、結果として、国際意識の向上等につながった。	
17	項目		国際交流の進展
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	16.に同じ
	C:	評価	3
客観指標・内容		16.に同じ	
18	項目		青少年への国際理解教育や社会教育の実践
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	16.に同じ
	C:	評価	3
客観指標・内容		16.に同じ	
19	項目		環境保全意識への高まりへの寄与
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
	C:	評価	x 時期：予定なし 理由：ワールドカップを項目の観点からはとらえていなかった
客観指標・内容		(観客の円滑な輸送のためのシャトルバスの運行や新潟駅周辺の自家用車の乗り入れ規制等は、結果として環境保全への配慮であったといえる)	
20	項目		スタジアム等・スポーツ施設の充実
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
	C:	評価	2
客観指標・内容		-	
21	項目		スタジアム等・スポーツ施設利用の活発化
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
	C:	評価	2
客観指標・内容		スタジアムについては平成14年度J2リーグ11試合使用、また、SMAP、B'zのコンサートで使用。来年度以降もJリーグ、国際試合などで活用計画あり。	

項目		地域スポーツの活発化
22	A:	事前認識 はい
	B:	施策の有無 いいえ
		施策の内容 -
	C:	評価 2
客観指標・内容 -		
項目		スポーツ参加率の上昇
23	A:	事前認識 はい
	B:	施策の有無 いいえ
		施策の内容 -
	C:	評価 x 時期：未定 理由：各競技団体登録者数の年度比較等が必要
客観指標・内容 (観るスポーツへの参加は増えたと思うが、自らがスポーツをする者の参加については統計調査を待つ必要がある)		
項目		スポーツイベント運営ノウハウの獲得
24	A:	事前認識 はい
	B:	施策の有無 はい
		施策の内容 JAWOC新潟支部への県及び市職員の派遣。県推進委員会への県及び市職員の派遣。コンフェデレーションカップ運営、国際ユース大会運営。
	C:	評価 4
客観指標・内容 指標なし 平成15年度以降、スポーツ振興、スポーツイベント担当部署の設置を検討。マイナス要因として、担当した職員の他部署への異動。		
項目		サッカー人気の高まり
25	A:	事前認識 はい
	B:	施策の有無 はい
		施策の内容 ワールドカップフェアの実施。アルビレックス新潟とのタイアップ事業。県民夢づくり事業。国際ユース大会運営。
	C:	評価 5
客観指標・内容 指標：平成14年アルビレックス新潟ホームゲーム観客動員数。ホームゲーム入場者数平均21,478人。新潟スタジアム平均入場者数31,480人。ホームゲーム一試合平均入場者数21,478人はJ2でNo1。総入場者数472,507人はJリーグでNo1。		

Q3. 貴自治体におけるワールドカップの事後評価について、特記すべき事項を自由にご記入ください。

- A3. (1) ワールドカップから県民が何を得心かと言うことは時間が必要かもしれないが、少なくともこの大会で示された県民のパワーは間違いなく新潟県にとって1つの財産であり、この力を今後の地域の発展に生かしていくことが大切である。
- (2) また、ワールドカップという未だかつて経験したことのない世紀のイベントの成功で県民は大きな自信と誇りを得た。これを契機にワールドカップを一過性に終わらせることなく、多くの県民がスポーツの楽しみ方(観るスポーツの楽しさ、その場の雰囲気を楽しむことの楽しさ等も含め)を知り、地域や日常生活の中にスポーツ文化が根付いたとき、ワールドカップが真の意味で成功だったと評価できると考える。
- (3) このため、県でもスタジアムの利活用はもちろん、単にスポーツ振興ではなく県民にスポーツ文化が根付くよう、学校教育、社会教育の範疇から踏み出した組織・施策を検討することとしている。
- (4) 2002FIFAワールドカップ開催地としての「新潟」の知名度がいつまで人々の記憶に残るか。企業誘致や観光振興にどれだけ寄与できるのか、今後の課題である。

【文書回答】

- 1) 2002年Wカップは大きな成果を上げたと思いますが、自治体の首長としての全体的な印象をお聞かせください。併せて、事前に意図されたことの達成度について自己採点すると、100点満点で何点に相当するでしょうか。自己採点をお願いいたします。また次の10の項目の中で、特に重要と思われるものを3つあげてください。(地域のアイデンティティの確立、知名度向上、経済的な成果、インフラ整備、町並み景観の向上、住民の参加意欲向上、地域ホスピタリティの向上、地域の国際化、環境問題意識、地域スポーツの振興)

ワールドカップについて私は、「(1)新潟県を多くの世界の人に知ってもらうチャンスである」、「(2)ワールドカップという世界的なイベントを新潟県で開催することの意義を自分たちでもっと考え、ワールドカップを成功させたという自信を持って次の課題にチャレンジしていく」、「(3)世界の中で自らを客観的に評価しながら、どういうアイデンティティのある地域づくりをするかということに結びつけていく」そういうイベントにしたいと思っていました。

全体的な感想としましては、開催国である日韓両国が、そろって決勝トーナメント進出という快挙もあり、日韓両国民を熱狂の渦に巻き込みました。新潟スタジアムで開催された3試合についても、各国の代表チームがそれぞれの能力を最大限に発揮し、最高のプレーが見られ、白熱した好試合と各国サポーターの熱狂的な声援に、多くの県民もこれまで経験したことのない沢山の感動と興奮を体験することができたものと思っています。

また、新潟市内では、試合会場以外でも、国際色豊かな衣装で着飾った大勢のサポーターと県民と一緒に踊ったり、歌を合唱するなど様々な交流もあり、国際交流の面でも大変有意義であったと思っています。

一方、大会開催に当たり心配された観戦客輸送や騒動などについては何らのトラブルもなく、運営が極めてスムーズに行われ、国内外観戦客やメディア関係者にも大変好評であったと聞いております。特に、シャトルバスの運行については、海外誌が「ワールドカップ伝説の仲間入りをした」と絶賛するなど、世界に「新潟」の名声を高める役目も果たしました。

今回のワールドカップ開催の実績が、今後の国際大会等の受け入れに大きな自信となり、さらにサッカーを始めとしたスポーツが、21世紀に生きる県民の意識や生活に新しい文化をもたらしてくれることを改めて認識したところです。

自己採点：点数化はしませんが、新潟開催は大成功でした。

特に重要と思われるもの3つ：大会の成功という観点からすると、インフラ整備、住民の参加意欲の向上、地域ホスピタリティが重要と思われます。（順不同）

2) 開催地への立候補時点、開催地決定直後、終了後、各々でWカップへのイメージ、考え方に変化はありましたか。

開催地として正式に立候補したのが92年7月で、知事に就任したのがその年の10月ですので、知事になったときには既に立候補をしていました。

ワールドカップへのイメージとしては、94年の米国大会、98年の仏大会と2002年のワールドカップを観戦しましたが、これまでのスポーツ大会では見たこともないような熱狂的な応援や大会のスケールに感嘆しました。

そして、何とかこの大会を新潟で開催しよう、新潟での開催を世界に向けての新潟の情報発信の絶好の機会とし、スポーツを通じての地域づくりや県民の意識の変化につながればと思いました。

3) 成果として挙げられるもののうち3つだけに限定し、その成果を自慢してください。

国際スポーツ大会の経験がほとんど無かった新潟県にとって地球的規模のワールドカップ開催は全ての面において大変有意義でした。他の回答内容と重複する部分もありますが、今後のスポーツ振興やスタジアムの利活用という観点から次の3つをあげます。

- (1) ワールドカップ開催による県民のスポーツに対する関心の高まりを契機に、スポーツ文化の地域への定着に加え、地域の活性化をも目指した総合的なスポーツ振興の一步を踏み出しました。
- (2) 市内各所で市民が海外観戦客と肌で触れ合い交流を深めたこと、案内ボランティアとして外国人と直接話をしたり、言葉が通じなくても意志が通じ合えたことなど、今までになかった大規模の市民レベルでの国際交流が行われたことに大きな意義があり、今後の国際大会などの開催に当たり大きな財産となりました。
- (3) シャトルバス運行のノウハウ：これは今後のスタジアムの利活用にも大きく関わるもので、大規模イベントの際のスタジアムへの交通アクセスを考えると、シャトルバス運行のノウハウを得たということは非常に貴重でした。

4) こうした事業に対してその成否あるいは事後評価、効果測定及びその公表などの説明責任の重要性についてどのようにお考えか、ご意見をお願いいたします。

施策・事務事業の説明責任についての基本的な考え方ですが、県行政に対する県民の皆さんの理解を得る上で、評価の結論を公表するだけではなく、事業等の概要、企画立案の考え方、実施状況、目的の達成度等を示す指標などを評価し、その全体像を県民にわかりやすい形で積極的に公表していくということが重要なことだと考えています。

本県では、「県民起点」を基本理念とした「新潟県 21 世紀の県行政創造運動」を展開中であり、この一環として、施策・事務事業等の評価結果などを県民の皆さんにわかりやすくお示しし、県行政に対する理解を深めていただきながら、成果・効率を重視した県民参加型の開かれた行政となるよう「施策・事務事業マネジメントシステム」を実施しています。

5) 直接的あるいは間接的に出された総費用はどの程度になりましたか。また、その出費は「イベントへの参加費用」としてのコストとお考えでしょうか、あるいは「将来への投資(インベスト)」としてご認識されているのでしょうか？将来への投資として考えられたとすれば、「(有形、無形いずれも)資産として何が残ったか」「今後、どのようなかたちでそれをいかすべき」とお考えでしょうか。

招致以来の県負担額の総額は、スタジアム建設を含め約 380 億円です。これについては、ワールドカップ開催のための費用、将来への投資の両方と考えています。

資産ということで一例を挙げれば、ハード面では、特に新潟スタジアムが新潟にとって必要不可欠なものとなっています。アルビレックス新潟の試合では、毎試合 3 万人以上の観戦客がスタジアムをオレンジ色にして声援を送っている姿はこれまで新潟では見られなかった光景であり、新潟に新しいスポーツ文化を根づかせるためには無くてはならないものとなっており、今や新潟の財産・宝の一つになっています。

ソフト面においては、ワールドカップを成功裏に終えることができた経験やノウハウは新潟の大きな財産となりました。ワールドカップの顔として大会成功に大きな役割を果たしたボランティアについては、平成 21 年予定の二巡目国体に向けて組織化を図っていきたいと考えています。また、関係機関・団体との連携についても今後の大きな財産となりました。

これらワールドカップ開催で培った経験、ノウハウを一過性に終わらせることなく、今後の県での大規模イベントに生かしていくことはもちろん、ワールドカップ開催に

よる県民のスポーツに対する関心の高まりを契機に、スポーツ文化の地域への定着に加え、地域の活性化をも目指した総合的なスポーツ振興を図っていきたいと考えています。

6) 単年度決算として、Wカップ関連の収支とそれについてのご感想をお願いいたします。

開催自治体は収益事業を行っていません。

7) 住民の自治参加意識の醸成にWカップ開催は貢献しましたか。

大会は、ボランティアの皆さんの献身的な協力、県民の方々や企業・団体の様々な協力や自主的活動のお陰で成功しました。また、国内外の観戦客に新潟を知ってもらったり楽しんでもらうために設置した「ワールドカップパーク」に多数の市民団体が参加し郷土芸能等を披露するなどもてなしの心を十分発揮してくれました。

ワールドカップが住民の自治参加意識の醸成に貢献したかということでは、今後このような自主的な活動などがいろいろな場面ででてくることを期待しています。

8) 市民レベルでの国際交流という点ではいかがでしたか。

新潟市が昨年7月に実施したアンケート調査によると、ワールドカップがどのような効果を市にもたらしたかという問いに、「国際交流の促進が図られた」という回答が4番目に多く寄せられたということです。

私自身は、新潟でのホスト役ということでスタジアムにいたることが多かったのですが、「まるで異国にいるような感じだ」、「こんな新潟を初めて見た」と多くの方から聞きました。多くの県民が身近に海外観戦客と接することができたことは非常に有意義だったと思います。

なお、新潟市では、ワールドカップを契機に韓国の開催都市の一つであるウルサン市と少年サッカー交流を定期的に行うことが合意されたと聞いています。

9) 交通・インフラ、宿泊施設、商業施設、文化財施設などで貴地域において不足しているもの、より充実させたいと思ったものはありますか。

非継続的なワールドカップということで考えると特にありません。

10) 自治体、民間を問わず、人材は十分でしたか。将来さらに人材育成の充実を図るためにはどのような政策が有効でしょうか？ご意見を伺わせてください。

人材は十分だったと思います。ワールドカップを通じて感じたことは、一人ひとりが経験し大なり小なり大会運営を始めとした様々なノウハウを得たことに意義があったと思います。

11) 「アルビレックス新潟」の存在がワールドカップ開催にどのようにいかされましたか？また今後さらに発展させるための具体的な方針などがあれば、お聞かせください。

アルビレックス新潟は、ワールドカップ新潟招致に向けて、また、県民のスポーツやサッカー振興の気運醸成の面から、県内多方面の尽力を得て結成されました。ワールドカップとアルビレックス新潟との関係で言えば大きくは次の3つになると思います。

- (1) サッカー後進県で招致決定でも盛り上がりには欠けた感じのした新潟で、アルビレックスの活躍とともに、ワールドカップへ向けた気運の盛り上がりやサッカーへの理解が深まりました。
- (2) アルビレックス新潟で活動していたボランティアが、その経験を生かし大会時のボランティアの中心となって活躍してくれました。
- (3) アルビレックス新潟の試合を活用してボランティアの実施研修ができたことは、サッカーを初めて経験するボランティアの皆さんには絶好の研修の場となりました。

アルビレックス新潟は、地域に根ざすJリーグ理念で活動しています。3万人～4万人が思いを一つにして応援できる対象がアルビレックス新潟であり、新潟スタジアムがそれを実現してくれます。ワールドカップ後の新たな気運は、県民に夢を与え、豊かなスポーツ文化を築く土壌ができつつあると言えます。

今後は、アルビレックス新潟の協力を得て、小中学生を対象とした「ゆめづくりサッカー教室」の開催によりサッカーの底辺拡大を図ることはもちろん、スポーツ全般の底辺の拡大を考えています。

12) 大会終了後、新潟で試合を行った国を中心とした国際的なPRを継続して行っていくお考えはありますか？

新潟で試合を行った国というよりは、北東アジアを中心に、アジア、さらには欧米へと「人、もの、情報」の交流拡大に取り組んでいくこととしています。

また、新潟にいろいろな世界大会を誘致することにより世界に向けての情報発信もしていきたいと考えています。

なお、クロアチアチームのキャンプ地となった十日町市では、クロアチアのある都市と友好関係を結び、今年から「クロアチア杯」のサッカー大会を創設することになっています。

2-7 静岡県 - アンケート結果・インタビュー

【アンケート結果】

Q1. 貴自治体におかれましても、ワールドカップに関する事後評価は重要であると認識していることと存じますが、すでに事後評価はしていらっしゃいますか。

A1. **はい**

Q2. 以下の25項目につきまして、A, B, Cの3段階でご質問いたします。下記表内に書き込んでください。

- A. ワールドカップ開催前に、ワールドカップ開催によって、下記項目について「充実/促進」がはかられると考えておられましたか。
- B. Aで「はい」と回答された場合は、そのための施策や事業を実施しましたか？
もしされている場合は、その具体的な内容をお書き下さい。
- C. ワールドカップ開催を終え、下記項目について、その成果を評価するとどのようにお考えですか。
1～5、xのなかから番号（記号）を1つ選んで をつけてください。
またその成果を評価するための客観的な指標はありますか？
もし有る場合には、その項目と内容を具体的にお書き下さい。
なお「x：現時点で評価できない」とする場合は、いつ頃評価できるようになるのでしょうか？
評価できる時期とその理由をお書きください。
- 1: 効果なし
2: ほとんどない
3: あった
4: かなりあった
5: 効果絶大
x: 現段階では評価できない

A2.

1	項目		住民意識の一体化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	開催機運の達成をはかるため、「ワールドカップ静岡友の会」をたち上げ、無料で会員を集めた。
	C:	評価	4
	客観指標・内容	会員数 25,000人	
2	項目		住民の連帯感の醸成
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	「友の会」会員にバッジを配布し、スタジアム内覧会への招待を行った。
	C:	評価	3
客観指標・内容	1.に同じ		
3	項目		地域の誇りや住民の自信の獲得
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	情報発信事業のテーマを「Proud of Shizuoka」に設定し、サッカー王国静岡のイメージ戦略を展開した。
	C:	評価	5
客観指標・内容	-		
4	項目		地域文化の見直し
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	ファーストマッチ前イベントにおいて「音楽のまち浜松（静岡）」をテーマにマーチングバンドのパフォーマンスを行った。さらに、浜松、袋井、掛川などで郷土芸能などのイベントを行った。
	C:	評価	5
客観指標・内容	-		

5	項目		地域名のメディア露出
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	平成14年4月に在京特派員等を対象にプレスツアーを実施した。
	C:	評価	5
客観指標・内容		-	
6	項目		外来者観光客数の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	アジア地域への観光プロモーションのほか、出場国大使館やサッカー協会を通じてWカップ静岡開催をPRした。
	C:	評価	3
客観指標・内容		-	
7	項目		商店街の活性化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	県作成バナー、ポスター等の提供。
	C:	評価	3
客観指標・内容		-	
8	項目		地域経済への波及
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	経済波及効果の測定を県内シンクタンクに依頼した。
	C:	評価	3
客観指標・内容		(財)静岡経済研究所によるレポートあり	
9	項目		交通渋滞解消/自動車交通の定時制の確保
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	エコパ周辺道路の整備 試合当日の交通規制やパークアンドバスライド、シャトルバスによる渋滞解消
	C:	評価	5
客観指標・内容		-	
10	項目		鉄道交通網の整備
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	JR愛野駅開設のほか、JR東海道本線の増発 深夜新幹線の臨時便運行
	C:	評価	5
客観指標・内容		-	
11	項目		街並など景観の向上
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・ストリートバナープログラムへの協力 ・県作成看板etcの提出
	C:	評価	3
客観指標・内容		-	
12	項目		住民の美化運動の実践
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	大会直前、直後を通じて慈善団体による活動があった
	C:	評価	5
客観指標・内容		-	

13	項目		ボランティア活動参加者の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	県職員ボランティア休暇制度の創設
C:	評価	5	
	客観指標・内容	JAWOC 1,200人 開催地 300人 かつてない多数のボランティア	
14	項目		ボランティア活動組織の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	「ワールドカップボランティア」の自主的活動を促進するため「県NPOセンター」の使用をすすめた
C:	評価	4	
	客観指標・内容	-	
15	項目		地域ホスピタリティの向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	エコパ周辺の自治体による協議会活動への助成及び参加協力
C:	評価	4	
	客観指標・内容	-	
16	項目		国際意識の向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・ワールドカップを視野に入れての「通訳ボランティア」の養成 ・一校一國運動の展開
C:	評価	5	
	客観指標・内容	H10～13 ボランティア修了生100人以上	
17	項目		国際交流の進展
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	静岡世界少年サッカー大会の実施
C:	評価	5	
	客観指標・内容	H12～14 のべ15の海外チーム場来静し、ホームステイなどを行っている	
18	項目		青少年への国際理解教育や社会教育の実践
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	エコパ周辺の学校における「一校一國運動（実施主体は地元の市町村）」
C:	評価	5	
	客観指標・内容	-	
19	項目		環境保全意識への高まりへの寄与
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	エコパ周辺クリーン運動の実施（実施主体は地元の市町村）
C:	評価	4	
	客観指標・内容	-	
20	項目		スタジアム等・スポーツ施設の充実
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・小笠山総合運動公園の整備 ・キャンプ地（裾野、御殿場、清水、藤枝及び磐田）のサッカー場整備
C:	評価	5	
	客観指標・内容	-	

21	項目		スタジアム等・スポーツ施設利用の活発化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	スタジアム、キャンプ地などのスポーツ施設の充実とともにサッカーをはじめスポーツに親しむ人の増加
C:	評価	5	
	客観指標・内容	-	
22	項目		地域スポーツの活発化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	各種サッカー大会への協賛（静岡県開催推進委員会の名義で）
C:	評価	5	
	客観指標・内容	-	
23	項目		スポーツ参加率の上昇
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	大規模スタジアムの整備によりJリーグなどの入場者数が飛躍的に伸びた
C:	評価	5	
	客観指標・内容	-	
24	項目		スポーツイベント運営ノウハウの獲得
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	世界的イベントの運営やチケットング（JAWOC派遣職員）、交通輸送やボランティアプロトコル（県担当職員）における経験
C:	評価	5	
	客観指標・内容	-	
25	項目		サッカー人気の高まり
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	ワールドカップを開催することで「サッカー王国静岡」をさらに内外に印象づけた
C:	評価	5	
	客観指標・内容	（TV視聴率の低さ）	

Q3. 貴自治体におけるワールドカップの事後評価について、特記すべき事項を自由にご記入ください。

- A3. 開催当初から心配されたフーリガン、雑踏による自己などもなく、エコパスタジアムで開催された3試合はいずれも熱戦を展開し、大いに盛り上がり、無事終了したことは関係者のご支援、ご協力によるものである。
- とりわけ磐田市などでキャンプをした日本チームの活躍や韓国の躍進はワールドカップを一段と盛り上げ、共同開催国として感動と興奮をもたらした。
- 特に、第三戦のイングランド対ブラジル戦は全世界が注目するビッグカードとなり熱戦を展開し、ワールドカップの醍醐味を堪能することが出来た。
- この試合では、朝早くから、在日のブラジル人やベッカム人気から多くのサポーターが愛野駅周辺に集まり大変盛り上がり、国際色豊かなワールドカップらしくなった。
- また、世界最大級のイベントを静岡県で開催できたことは、世界の人々に静岡県を知っていただくとともに、世界とふれあう良い機会となり、今後の県勢の発展の活力となるものと期待している。
- しかしながら、チケット販売の混乱による空席問題やスポンサーの権利保護による開催地の情報発信などのマーケティングの制約ほかフーリガンなどの過度のセキュリティ対策など多くの問題もあった。

【石川嘉延県知事インタビュー】

1) 終了後半年以上が経った現在、開催地への立候補時点の期待とその結果に対する評価など、全体的な印象をお聞かせください。また自己評価すると100点満点の何点？

90点。外国人の観客が1か月の開催期間中国内を旅行することにより、外来客/宿泊客/旅行者が増大することを考えていたが、極東での開催ということで目論見ほどではなかった。これが10点の減点(未達成点)分。その他は期待に対し最高の結果だったと考える。3試合とも好カードで、ブラジル/ドイツ/イングランド/カメルーンといったチームが出場し、また試合内容にも恵まれた。入場者数も47,000人と満杯に近かったし、心配されたフリーガンも問題なく、ゲームに関しては最高だった。

また、今大会を契機に、地域住民に国際的視野を広めてもらいたいと期待していた。教育の現場では学校ごとに参加国の勉強(一校一国運動)をし、国際理解の一助になった。また3試合を行う中で、地域住民と地元自治体とが協力しながら、静岡から浜松までイベントを開催し、ここに外国人/県外の人が多く参加、国際交流が図られた。こういった地域、スタジアム周辺の盛り上がりは他の開催地にはないものだったと評価された。横浜/埼玉の試合も観戦したが、静岡での盛り上がりは実感した。またこれに加え3カ国のキャンプ地としても利用されたことで、元々サッカー熱の高い地域にさらに盛り上がりが増速し、サッカー振興に大きく寄与した。

さらに全国的な話にはなるが、観戦応援についても、敵味方なくフェアプレーを讃える紳士的な洗練された観客/地域住民の反応などは、非常に清々しく、またFIFA役員などからも感嘆された。武士道精神に通じる日本人独自の礼儀正しさが、球場内外に見られたことは特筆すべき。

2) (知事の言葉の中で)ソフト(無形の資産)への評価が高いことを感じるが、ワールドカップならではの部分としてどのようなものがあったでしょうか。また、ワールドカップへの盛り上がり、個々人のアイデンティティを再確認できる場を提供したということで、それが今後どのように生かされていくことを期待されますか。

ワールドカップを機に、日本人ですら自覚をしていない日本文化の長所を、外国人からの指摘などによりあらためて確認することができた。例えば新幹線ダイヤの正確さ、試合運営/業務遂行などマネジメント能力の高さで評価を受けたことは自信につながった。

また自主的な住民参加については、他分野でも最近見られるようになってきているが、特にワールドカップにおいてはその盛り上がりは顕著だった。開催後も各地でボランティアの同窓会があり、地域社会の連帯感醸成にもつながった。一般社会で個がバラバラになり、連帯感が希薄になる傾向のある一方で、スポーツやNPO活動などが盛んになってきている背景には、「友達や仲間が欲しい」といったことへのニーズがあるからと考える。こういったことがサッカーワールドカップのボランティア活動にも影響し、成功につながったのではないかと。

エコパその他スポーツ施設に限らず、立派な施設が用意され、今年行われる国体をはじめ、いろいろなイベント・行事を実施されることが考えられる。その際、ボランティアの力が発揮されることを期待しているが、その力が期待できることへの確実な見当がついたことは大きい。

また個人として参加する場合、NPO を通じてという場合もあるだろうが、日常的に行政と県民のコラボレーションの拡大を図っている中で、浸透していく大きなきっかけといえる。NPO だけでもだめだし、コストや手間の問題があり行政だけでもだめ。こうした相互の関係構築への大きな弾みとなった。行政と県民のコラボレーションという部分で考えると、一種のパイロット事業と捉えることもできた。

3) 長期間にわたり、大きなエネルギーと税金を投入しながら行った事業として、事後検証し、その評価に対してディスクローズしていくこと、アカウントビリティについてのご見解をお聞かせください。

準々決勝を引き受けるために 5 万人スタジアムにしたが、3 試合とも 47,000 人の動員が達成できたことは評価できる。設備投資 / 運営への資金投入に対する経済効果については、直接的には、県の拠出と来客の消費から鑑みると 1.5 倍程度の (経済) 累積効果が出ていると推計しており、これに関しても評価できると考えている。成熟した先進国日本にとっては、スポーツをはじめとする文化的な分野が経済の重要な柱となる可能性が大きい。そう考える時、(FIFA などの組織の存在も重要だがその役割を十分に果たし) イベント開催力があることがわかり、世界的な規模のイベントも静岡から仕掛けることが可能であるとすれば、実際経済の重要な柱となりうることを実感し確認できた。さらに今後は、こうしたスポーツイベントを開催するビジネスへの展開能力が課題。ただ今回課題であることを認識したという事実が重要。

4) 国家としての評価指標 (特にソフトのアセット部分) を作成することへの必要性はどうお感じですか。

(特にスポーツにおける GDP などに基づいた政策論議をするために、そうした評価指標は) 必要だとは思いますが、基礎データになるような現象が少ない点で難しい。プロスポーツが野球とサッカーのみ。バスケット、バレーは一部の選手のためのプロ化に留まっている。発展可能性はありそうだが、どのように育成していくかは課題。

スポーツ愛好人口増大に関して、今後は学校体育ではなく地域スポーツクラブが中心と静岡は考えている。これによってスポーツへの興味の多様化、トップレベルの選手育成にも可能性が高まる。

静岡出身のバルセロナ五輪女子柔道 52kg 級銀メダリスト、溝口紀子さんを埼玉大学卒業後、静岡県立短期大学助手に採用。その後文部科学省の留学生制度でフランスへ勉強に行き、語学も身につけ、帰国後フランス女子柔道のコーチとして 2 年間の招聘を受けた。ご主人も仏柔道協会の広報マンとして採用される好待遇にも恵まれ渡仏。サッカー同様の人気を誇るフランス柔道界において、充実したクラブ組織や確立したコーチの資格制度など勉強している。生きた情報を体得する彼女の帰国後の活躍にも期待したい。

こうした海外 (特にフランス) のスポーツ制度を勉強することをはじめ、toto の助成金も少ないことから、競技同士が競うことで応援してくれる民間企業を獲得し、そのスポンサーシップの支援によって活性化していくことが重要。一方、国や自治体は、寄付金や控除といった「税制上の特典」をもって支援する。こうしたことで日本経団連を通じてビジネス化も望める。青少年の健全育成が図られ、世界的規模の選手が出てくることにより、そのスポーツがメジャーになると同時にビジネス化につながっていくと考えている。

(参考) 今後「スポーツとリハビリ」をテーマにした「富士山麓先端健康産業集積構想 (ファルマバレー構想)」を考え、静岡では推進している。昨年開設した癌センターの準備段階より、最先端の医療技術者を抱え、これらスタッフの定着 / 回転 / 補充により、医療薬 / 医療機器 / 医療技術の開発研究を目指し、これが実現しつつある。産学官が一体となり、健康産業を高めていく計画の中で、「リハビリ」にも転用できると着目、東大と組んで進めていこうという動きもある。

(2003年3月3日)

2-8 大阪市 - アンケート結果・文書回答

【アンケート結果】

Q1. 貴自治体におかれましても、ワールドカップに関する事後評価は重要であると認識していらっしゃるかと存じますが、すでに事後評価はしていらっしゃいますか。

A1. する予定はない。

Q2. 以下の25項目につきまして、A, B, Cの3段階でご質問いたします。下記表内に書き込んでください。

- A. ワールドカップ開催前に、ワールドカップ開催によって、下記項目について「充実/促進」がはかられると考えておられましたか。
 - B. Aで「はい」と回答された場合は、そのための施策や事業を実施しましたか？
もしされている場合は、その具体的な内容をお書き下さい。
 - C. ワールドカップ開催を終え、下記項目について、その成果を評価するとどのようにお考えですか。
1～5、×のなかから番号(記号)を1つ選んでをつけてください。
またその成果を評価するための客観的な指標はありますか？
もし有る場合には、その項目と内容を具体的にお書き下さい。
なお「×：現時点で評価できない」とする場合は、いつ頃評価できるようになるのでしょうか？
評価できる時期とその理由をお書きください。
- 1: 効果なし
2: ほとんどない
3: あった
4: かなりあった
5: 効果絶大
x: 現段階では評価できない

A2.

項目		住民意識の一体化
1	A: 事前認識	いいえ
	B: 施策の有無	-
		施策の内容
	C: 評価	2
客観指標・内容		-
項目		住民の連帯感の醸成
2	A: 事前認識	いいえ
	B: 施策の有無	-
		施策の内容
	C: 評価	3
客観指標・内容		-
項目		地域の誇りや住民の自信の獲得
3	A: 事前認識	いいえ
	B: 施策の有無	-
		施策の内容
	C: 評価	3
客観指標・内容		-
項目		地域文化の見直し
4	A: 事前認識	いいえ
	B: 施策の有無	-
		施策の内容
	C: 評価	2
客観指標・内容		-

5	項目		地域名のメディア露出
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	開催前、後、定期的に市長記者会見を実施。 期間中、プレスツアーなど、海外プレス関係者への情報提供・PRを実施。
	C:	評価	3
	客観指標・内容	-	
6	項目		外来者観光客数の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
	C:	評価	3
	客観指標・内容	-	
7	項目		商店街の活性化
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
	C:	評価	2
	客観指標・内容	-	
8	項目		地域経済への波及
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
	C:	評価	3
	客観指標・内容	-	
9	項目		交通渋滞解消 / 自動車交通の定時制の確保
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
	C:	評価	1
	客観指標・内容	-	
10	項目		鉄道交通網の整備
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
	C:	評価	1
	客観指標・内容	-	
11	項目		街並など景観の向上
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
	C:	評価	2
	客観指標・内容	-	
12	項目		住民の美化運動の実践
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
	C:	評価	2
	客観指標・内容	-	

13	項目		ボランティア活動参加者の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	大阪市では、ボランティアを積極的に活用した運営支援体制を準備した。 そして、1200名以上の応募があり、内665名を登録した。
C:	評価	4	
	客観指標・内容	-	
14	項目		ボランティア活動組織の増加
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
C:	評価	3	
	客観指標・内容	-	
15	項目		地域ホスピタリティの向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	市民の歓迎ムードで盛り上げるため、500日前、1年前等の節目にカウントダウンイベントを実施。 その他にも各種の関連イベントや広報を実施した。
C:	評価	4	
	客観指標・内容	-	
16	項目		国際意識の向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
C:	評価	3	
	客観指標・内容	-	
17	項目		国際交流の進展
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	大阪で試合を行う各国や、共同開催国の韓国に関するイベント・催物などを実施した。
C:	評価	3	
	客観指標・内容	-	
18	項目		青少年への国際理解教育や社会教育の実践
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
C:	評価	3	
	客観指標・内容	-	
19	項目		環境保全意識への高まりへの寄与
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
C:	評価	1	
	客観指標・内容	-	
20	項目		スタジアム等・スポーツ施設の充実
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	長居スタジアムをFIFA基準に沿ったワールドカップ仕様に改修
C:	評価	4	
	客観指標・内容	-	

項目		スタジアム等・スポーツ施設利用の活発化
21	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	いいえ
	施策の内容	-
	C: 評価	x 理由：今後の利用状況の変化を確認しなければわからない
	客観指標・内容	-
項目		地域スポーツの活発化
22	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	いいえ
	施策の内容	-
	C: 評価	x 理由：今後の各種市民スポーツの動向を見る必要がある
	客観指標・内容	-
項目		スポーツ参加率の上昇
23	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	いいえ
	施策の内容	-
	C: 評価	x 理由：22.に同じ
	客観指標・内容	-
項目		スポーツイベント運営ノウハウの獲得
24	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	はい
	施策の内容	大阪市は開催自治体として、ボランティアや職員・スタッフ等約3000人の運営支援体制を組んで開催に臨んだが、この経験によって今後の国際スポーツイベント実施のノウハウがさらに高まったと言える。
	C: 評価	4
	客観指標・内容	-
項目		サッカー人気の高まり
25	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	いいえ
	施策の内容	-
	C: 評価	3
	客観指標・内容	-

Q3. 貴自治体におけるワールドカップの事後評価について、特記すべき事項を自由にご記入ください。

- A3.
- ・ 今回のワールドカップで、世界の頂点を目指すチーム同士の世界最高レベルの試合を間近に見て、若い人を中心に市民が大いに盛り上がり、国際スポーツへの関心・理解が一層深まったと考えられる。そして、多くの市民スポーツへの参加気運がさらに高まり、スポーツ文化が一般に根付いていくことが期待できる。
 - ・ 日韓共催となって両国の各都市で試合が展開されたことにより、両国の一般市民の相互理解が深まった。また、多くの市民が様々な国の人々に接し、多様な異文化交流が展開されたことは、市民の国際理解を深めるのに大きな役割を果たした。こうしたことは、文化・経済など幅広い分野での国際交流の進展に大きく寄与するものと期待できる。
 - ・ 今回の開催に当たって、大阪市はボランティアを活用し、きめ細かな運営支援体制を整えて、世界中から観客に大阪の「ホスピタリティ」をアピールすることが出来た。また、テレビなどのメディアを通じて、開催都市としての大阪の様子や試合の様子が全世界に伝えられた。これらは、大阪の情報を海外に発信し、世界中に大阪をPRする絶好の機会となった。
 - ・ また、ボランティア活動の高まりが一層促されたことで、今後も大阪で展開される様々な国際イベント・交流事業においてボランティアの積極的な参加が得られるものと期待できる。

【文書回答】

1) 2002年Wカップは大きな成果を上げたと思いますが、自治体の長としての全体的な印象をお聞かせください。併せて、事前に意図されたことの達成度について自己採点すると、100点満点で何点に相当するでしょうか。自己採点をお願いいたします。

また次の10の項目の中で、特に重要と思われるものを3つ挙げてください。

(地域のアイデンティティ確立、知名度向上、経済的な成果、交通インフラ整備、町並景観の向上、住民の参加意欲向上、地域ホスピタリティの向上、地域の国際化、環境問題意識、地域スポーツの振興)

今回のワールドカップは、日本全体にとってはもちろん、大阪にとっても大きな成功であったと思う。

大阪市は、多数のボランティアの協力を得て、職員等とも合わせ3,000人規模の運営支援体制を整えた。そして、市民と共に温かいムードの中で海外から大勢の人々をお迎えして、大阪のホスピタリティを大いにアピールすることができた。また、テレビなどのメディアを通じて、開催都市としての大阪の様子や試合の様子が全世界に伝えられた。これらは、大阪の情報を海外に発信し、世界中に大阪をPRする絶好の機会になったと言える。

一方では、世界の頂点を目指すチーム同士の世界最高レベルの試合を間近に見て、若い人を中心に市民が大いに盛り上がり、国際スポーツイベントに対する関心・理解が深まった。そして、日韓共催となって両国の各都市で試合が展開されたことにより、日韓の市民レベルでの相互理解が進み、さらに大阪を訪れた各国の人々と大勢の市民との間で多様な異文化交流が繰り広げられたことで、市民の国際理解が一層深まったものと考えられる。

こうした経験をさらに今後に活かし、様々な国際スポーツイベントなどの開催を通じて、国際交流の進展、「国際集客都市」の構築、そして「スポーツパラダイス大阪」の実現に努めてまいりたい。

2) 開催地への立候補時点、開催地決定直後、終了後、各々でWカップへのイメージ、考え方に変化はありましたか。

自治体が公的資金を投じて行った事業である以上、当然住民の納得が得られなければならない。大阪市では開催前に、今回のワールドカップ開催の意義や効果、運営方針などについて、市民への広報や議会での説明などを重ね、また主としてスタジアム周辺の地元の方々を対象に何度も説明会等を開き、理解と協力をお願いしていた。そして、結果としては大きな成功であったとの評価を各方面からいただい

いる。

ただ、こういったイベントは、具体的にどれだけの効果があったかを数字などで示すことは容易ではない。経済波及効果などもそうであるが、特に、どれだけの情報発信・PR 効果があったのか、国際交流の進展にどの程度役立ったか、そしてそれらが大阪の発展にどれだけ貢献するのか、等々を具体的な形で示すことは難しく、現実には、市民や各関係者にどのように評価していただくかということが大きい。この点で、今回は初期の成果をあげたと認められてとめ、さらに多数の関係資料などを残しており、求めがあればそれらについて必要な説明を行える用意が来ている。

3) 成果として挙げられるもののうち3つだけに限定し、その成果を自慢してください。

今年度決算がまだ済んでいないので、現時点では正確な数字が出せないが、広報・PR、関連イベント開催、交通輸送対策、自主警備等々の開催準備・運営関係経費、また長いスタジアムの設備工事・改修工事など、さらに JAWOC への出捐金や支援など、全体で約 50 億円かかっている。

4) こうした事業に対してその成否あるいは事後評価、効果測定及びその公表などの説明責任の重要性についてどのようにお考えか、ご意見をお願いいたします。

今回支出した経費は、単なる「参加費用」というだけではなく、将来への投資としての意味も大きい。

大阪市でワールドカップを開催した主な目的は、大阪市が目指す「国際集客都市」の構築、「スポーツパラダイス大阪」の実現に向けた大きな足がかりとすることであり、その点で大きな成果をあげることが出来た。

ハード面では、開催に備えて、長居スタジアムを FIFA の基準にそったワールドカップ仕様に改修したが、元々大阪には長居を始め、大阪ドーム、中央体育館など、充実した様々なスポーツ施設が整備されており、関連のインフラなども当初からかなり整っていたので、今回のワールドカップ開催では、有形よりも無形のもの、ソフト面での資産が多く残されたと言える。

例えば、今回の運営支援体制では、ボランティアが大きな役割を果たしたが、ワールドカップの盛り上がりだけでなくさらにボランティア活動の高まりを促したと考えられ、今後大阪で展開される国際イベントなどにおいて、ボランティアの活躍がますます期待できるようになった。

また、ヨーロッパなどに比べれば、元々サッカーにはそれほどなじみのなかった

日本が、実際にワールドカップの開催が始まってみると、日本代表の活躍などもあって、予想以上の盛り上がりを見せた。大阪においても、大勢の市民と海外からの観客・サポーターが一緒になって、長居スタジアムの内外で試合や雰囲気などを楽しみ、様々な交流が行われた。こうしたことによって、市民の間に国際交流の輪の広がりが促され、海外からのビジターを受け入れる素地が、一層高まったと思う。

さらに、このような世界最大規模の国際スポーツイベントを順調に運営することができ、大規模国際イベントの開催・運営ノウハウが一段と蓄積された。

こうした無形の様々な資産が、これからの国際交流事業や国際イベントの展開に大きく貢献するものと期待している。

5) 直接あるいは間接的に出された総費用はどの程度になりましたか。

また、その出費は「イベントへの参加費用」としてのコストとお考えでしょうか、あるいは「将来への投資(インベスト)」としてご認識されているのでしょうか？
将来への投資として考えられたとすれば、「(有形,無形いずれも)資産として何が残ったか」「今後、どのようなかたちでそれを生かすべき」とお考えでしょうか。

大阪市では、先に述べたように、長居スタジアムの改修や交通輸送対策、関連イベントの開催、広報・PR、インフォメーションなどの他、国際的サッカー大会につき物の「フリーガン」対策など警備関係の経費を負担した。厳しい財政状況の中で、できるだけムダを省きながら必要な経費を支出したが、今回のワールドカップが成功の内に終わり、様々な無形の財産を大阪市に残したということを考えれば、その成果は大いにあったと思う。

しかも、ご承知のとおり JAWOC の収支も、当初赤字が心配されていたものが、チケット販売の好調や為替差益などで予想を大きく上回る黒字(剰余金)が出る見込みとなった。その一部は自治体負担分の返還にあてられたが、その上でなお大きな剰余金が出るため、JAWOC はその有効な活用方法について、関係者からも意見を聞きながら検討しているところである。

こうした点からも、収支的にうまくいったと言えるが、課題は、JAWOC の剰余金が、今後いかに有意義に活用されるかであると考えている。

6) 単年度決算として、W カップ関連の収支とそれについてのご感想をお願いいたします。

先に述べたとおり、大阪市でのワールドカップ開催の主な目的は、「国際集客都市」の構築、「スポーツパラダイス大阪」の実現に向けた大きな足がかりとすることにあつた。

言うまでもなく、ワールドカップはオリンピックと並ぶ世界最大級の国際スポーツイベントであり、文字通り全世界から大きな注目を集めている。したがって、大阪市の掲げる目標に大きなインパクトを与えるものと期待して、開催地に立候補したわけである。

この考えは、開催が決まって準備を進める中でも、開催期間中も同様であり、終了後は、まさに期待通りの成果をあげることが出来たと思っている。

7) 住民の自治参加意識の醸成に W カップ開催は貢献しましたか。

ワールドカップ開催は、住民の自治参加意識の醸成にも貢献したと考えている。特に長居スタジアム周辺の地元の方々からは、開催に伴う諸課題について、いろいろな意見の表明や要望があり、大阪市も出来る限りそれに対応してきた。こうした点で、地元住民の自治体が一緒に考えながら事業を進めたと見ることができ、住民の意識に影響を与えたと言えるのではないか。

8) 市民レベルでの国際交流という点ではいかがでしたか。

市民レベルでの国際交流という点では、大きな成果があったと思う。多数のボランティアと共に運営支援体制を整え、開催のかなり前から様々な関連イベントや広報・PRなどを進めて、歓迎ムードの醸成に努めていた。さらに、開催が近づくと新聞・テレビなどのメディアが連日大きく報道したこともあって、市民の歓迎ムードは大いに盛り上がった。そして、ワールドカップが始まってみると、海外からやって来た観客やサポーターは実にフレンドリーで、市民と入り混じって、あちらこちらで大いにワールドカップを楽しんでいた。開催前は不安も抱えていたスタジアム周辺地域でも、開催後はそうした心配が杞憂であったことが分かり、かえって歓迎ムードが一層高まった。

こうしたことで、開催期間中、各国の人々と大勢の市民との間で様々な異文化交流が展開され、市民の国際理解が一層深まって、今後の国際交流の進展に大きく貢献したと言えよう。

9) 交通・情報インフラ、宿泊施設、商業施設、文化財施設などで貴地域において不足しているもの、より充実させたいと思ったものはありますか。

大都市である大阪市には、交通・宿泊施設・商業施設などのインフラ・都市機能はかなり整っていると考えている。実際、例えば交通面では、長居スタジアムのすぐ近くに地下鉄及び JR の駅があり、市内のどこからでも交通の便がよく、輸送量

も大きいので、開催当日、道路交通を大幅に規制したにもかかわらず、比較的スムーズに大量の観客輸送を行うことが出来た。宿泊も、高級ホテルから低廉な宿まで多数の施設が市内にあり、また小売・飲食などの商業施設は、言うまでもなく市内全域にきわめて豊富に揃っているため、こうした面では特に不足を感じることはなかった。

文化財などについては、大阪は京都・奈良に近く、大阪そのものも古代のなんばの宮から 1400 年の歴史を持ち、大阪城ばかりでなく、豊富な史跡を市内各地に有している。また、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンをはじめ大規模なアミューズメント施設も多く、さらにキタ・ミナミなど日本有数の繁華街もあるので、国内外からやって来た人々に大阪観光を楽しんでもらえる要素は少なくないと思う。

ただ、こうした施設や観光スポットなどについて、今後ともプロモーションを展開していくとともに、より便利なシステムの整備や集客施設の一層の充実を図り、大阪を訪れるビジターにとって魅力のある、利便性の高いまちづくりをさらに進めていくことが重要であると考えている。

10) 危機管理についてはどのようにお考えでしたか？また実際にどうでしたか？

ご承知のとおり、ワールドカップにおいては従来から「フーリガン」の問題が言われており、また、一昨年の米国同時多発テロ発生から間がなく、国際テロに対する警戒も必要になっていた。しかもこれらの問題は、日本にとってほとんど経験のないものであり、今回の警備・危機管理は、これまで日本で開かれた各種の国際イベントと比べても、多くの課題を抱えていた。そのため、他の自治体と同様、大阪市も地元警察(大阪府警)と緊密な連携を図りながら、綿密な自主警備計画を練り、大規模な警備体制を組んで本番に臨んだ。

警備計画策定にあたっての大きな課題の一つは、実際にどれだけの数の「フーリガン」が日本にやって来て、どのような行動をとるのかを把握し、それに効果的に対応した警備体制を組むことであった。大阪市では、関係国の大使館・総領事館や関係者に情報の提供を求めたが、不確実な要素が多く、英国側の「フーリガン」出国禁止措置や日本側当局の入国拒否という「水際作戦」によって、「フーリガン」はほとんどやって来ないだろうという見方がある一方で、法の網を潜り抜けて、大勢押しかけて来るという意見もあり、結局、推測を重ねながら、最悪の事態を想定して計画を進めざるを得なかった。

一方、マスコミは一連のワールドカップ報道の中で「フーリガン」問題にもしばしば言及を重ねたが、その多くは必ずしも確実な根拠に基づくものではなく、地元の住民の不安をかえって煽ることもあった。

結果としては、関係国の「水際作戦」が功を奏したと思われ、本番になっても「フ

ーリガン」とおぼしき者は姿を見せず、警備陣を安堵させた。

こうした今回の経験からも、やはり自治体と警察・関係機関とが緊密に連携して様々な方策を講じ、より効果的な警備体制を築くことが重要であると思う。さらに、各問題に関する的確な情報ルートを把握して正確かつ十分な情報の収集を図り、地元住民にもそれを提供していくことが、警備・危機管理にとっての重要な課題であると言える。

1 1) 自治体、民間を問わず、人材は充分でしたか。将来さらに人材育成の充実を図るためにはどのような政策が有効でしょうか？ご意見を伺わせてください。

先にも述べたとおり、大阪市では職員・スタッフ・自主警備員及びボランティアによる 3,000 人規模の運営支援体制を整えた。そして、それぞれのセクションには、概ね必要かつ十分な人材を配置できたものと考えている。とりわけボランティアには、語学対応を始め様々な分野において活躍してもらった。

今後も、国際イベントの開催、国際交流事業の推進などに当たって、ボランティアの果たす役割は大きいと考えており、大阪市としては、活動の中心となるボランティア・リーダーの育成に努めるなど、ボランティアの輪の広がりを促していきたい。

1 2) 大会終了後、大阪で試合を行った国を中心とした国際的な PR を継続して行っていくお考えはありますか？ また、日韓共催に関する評価をお伺いしたく存じます。

すでに繰り返しているように、大阪市は国際交流の促進を図り、「国際集客都市」の構築、「スポーツパラダイス大阪」の実現を目指して、様々な施策を推し進めているが、全世界が注目する大規模国際スポーツイベントのワールドカップを大阪で開催することは、こうした目標に向け大きなインパクトを与えるものと期待できた。

そして、今回のワールドカップが予想以上の盛り上がりを見せ、海外から来た大勢の人々と市民が一緒になって楽しんだこと、大阪のホスピタリティを大いにアピールできたこと、国際的大イベントの開催・運営ノウハウをさらに蓄積できたこと、また市民の国際理解が一層深まったこと等々、期待通り、きわめて大きな成果をあげたと考えている。

また日韓共催となったことについても、結果としてよかったと思う。当初は必ずしも足並みが揃わず、紆余曲折があったようであるが、本番になると、両国の市民が心を通わせて大いに盛り上がり、日本人が韓国代表を応援したりして、両国の市民レベルでの相互理解が深まった。これによって、日韓関係の一層の深化・成熟化

が期待できる。

2-9 神戸市 - アンケート結果・文書回答

【アンケート結果】

Q1. 貴自治体におかれましても、ワールドカップに関する事後評価は重要であると認識していらっしゃるかと存じますが、すでに事後評価はしていらっしゃいますか。

A1. **いいえ**

Q2. 以下の25項目につきまして、A、B、Cの3段階でご質問いたします。下記表内に書き込んでください。

- A. ワールドカップ開催前に、ワールドカップ開催によって、下記項目について「充実/促進」がはかれると考えておられましたか。
- B. Aで「はい」と回答された場合は、そのための施策や事業を実施しましたか？
もしされている場合は、その具体的な内容をお書き下さい。
- C. ワールドカップ開催を終え、下記項目について、その成果を評価するとどのようにお考えですか。
1～5、×のなかから番号（記号）を1つ選んで をつけてください。
またその成果を評価するための客観的な指標はありますか？
もし有る場合には、その項目と内容を具体的にお書き下さい。
なお「×：現時点で評価できない」とする場合は、いつ頃評価できるようになるのでしょうか？
評価できる時期とその理由をお書きください。
- 1: 効果なし
2: ほとんどない
3: あった
4: かなりあった
5: 効果絶大
x: 現段階では評価できない

A2.

項目		住民意識の一体化
1	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	はい
	施策の内容	・ 阪神大震災時に暖かい支援を受けた世界中の人々に対してワールドカップ開催時にその感謝の気持ちを発信しようと市民に呼びかけた ・ アフガン難民キャンプにサッカーボールを贈る運動 ・ ワールドフットデイに向けての取り組み
	C: 評価 客観指標・内容	4 どちらの運動も大きくメディアにとりあげられた
項目		住民の連帯感の醸成
2	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	はい
	施策の内容	1.に同じ
	C: 評価 客観指標・内容	4 1.に同じ
項目		地域の誇りや住民の自信の獲得
3	A: 事前認識	はい
	B: 施策の有無	はい
	施策の内容	1.に同じ
	C: 評価 客観指標・内容	4 1.に同じ
項目		地域文化の見直し
4	A: 事前認識	いいえ
	B: 施策の有無	-
	施策の内容	-
	C: 評価 客観指標・内容	x 特別に当該項目を取り上げて評価を行う予定なし

5	項目		地域名のメディア露出
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・海外メディア向けにシティセールス用メディアキッズの作成、配布 ・海外メディア向けメディアツアー ・予選・本選ドローでの併設展示会 ・Wカップ用ホームページの作成
C:	評価	4	
6	項目		外来者観光客数の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・外国語ホームページの作成 ・観光パンフレットの作成・配布
C:	評価	x	
7	項目		商店街の活性化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・スタジアム周辺商店街の整備 ・バナーなどの掲出
C:	評価	2	
8	項目		地域経済への波及
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
C:	評価	2	
9	項目		交通渋滞解消/自動車交通の定時制の確保
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
C:	評価	1	
10	項目		鉄道交通網の整備
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
C:	評価	1	
11	項目		街並など景観の向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・スタジアム周辺道路の補修 ・不法占用物件の撤去
C:	評価	3	
11	項目		客観指標・内容
	・スタジアム周辺道路の補修 ・不法占用物件の撤去		

12	項目		住民の美化運動の実践
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・全市一斉クリーン作戦 ・啓発キャンペーン
C:	評価	4	
	客観指標・内容	・市内全区において市民、事業者、市の協働により、クリーン作戦等が実施された	
13	項目		ボランティア活動参加者の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・JAWOCと共同でボランティアを募集
C:	評価	4	
	客観指標・内容	・開催地ボランティア、JAWOCボランティア合わせて延べ6,100人が参加	
14	項目		ボランティア活動組織の増加
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
C:	評価	5	
	客観指標・内容	・JAWOCボランティア約170人の親睦団体が、H15年度からスタジアムボランティアとして活動予定	
15	項目		地域ホスピタリティの向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・市民ボランティアの募集 ・歓迎バナーの掲出 ・市民応援団
C:	評価	5	
	客観指標・内容	・多くの市民がボランティアとして来神者を出迎えた ・市内の小中学校において、神戸で試合を行う4カ国の応援などを実施	
16	項目		国際意識の向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・ミニ会話集の作成 ・神戸市での出場国の市民への紹介 ・神戸市での出場国大使館の方々と小学生の交流
C:	評価	x 時期：不明 理由：特別に当該項目を取り上げて評価を行う予定なし	
	客観指標・内容	-	
17	項目		国際交流の進展
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・国際フットサル大会の開催 ・市民応援団と出場国大使館等との交流 ・韓日青年2002ワールドカップ開催都市自転車ツアー ・日韓友情ウォークin神戸 ・ワールドフットサルフェスティバルコウベ
C:	評価	4	
	客観指標・内容	各種交流行事に多数の市民等の参加があった	

18	項目		青少年への国際理解教育や社会教育の実践
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・国際フットサル大会の開催 ・市民応援団と出場国大使館等との交流 ・韓日青年2002ワールドカップ開催都市自転車ツアー ・日韓友情ウォークin神戸 ・ワールドフットサルフェスティバルコウベ
C:	評価	5	
		客観指標・内容	神戸市サッカー協会少女選抜チーム「神戸エンジェル」の提案によりアフガン難民キャンプの子どもへ661個のサッカーボールを送った
19	項目		環境保全意識への高まりへの寄与
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
C:	評価	x 時期：不明 理由：特別に当該項目を取り上げて評価を行う予定なし	
		客観指標・内容	-
20	項目		スタジアム等・スポーツ施設の充実
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	神戸ウイングスタジアムの整備
C:	評価	5	
		客観指標・内容	神戸ウイングスタジアムの整備
21	項目		スタジアム等・スポーツ施設利用の活発化
	A:	事前認識	いいえ
	B:	施策の有無	-
		施策の内容	-
C:	評価	x 時期：平成15年度以降 理由：W杯終了後改修中	
		客観指標・内容	-
22	項目		地域スポーツの活発化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	いいえ
		施策の内容	-
C:	評価	x 時期：不明 理由：今後の展開により評価せざるを得ない	
		客観指標・内容	-
23	項目		スポーツ参加率の上昇
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・シュートスピードチャレンジの実施 ・国際フットサルフェスティバルの開催 ・ワールドフットサルフェスティバルコウベの実施
C:	評価	3	
		客観指標・内容	フットサルを中心として、競技人口が増加している感じがある。

項目		スポーツイベント運営ノウハウの獲得
24	A: 事前認識	いいえ
	B: 施策の有無	-
		施策の内容
	C: 評価	2
客観指標・内容	・競技運営に関してはJAWOC、FAが大半実施している ・外周りを担当した開催自治体にとってはフリーガン対策など特例的な扱いが多く、通常のスポーツイベントに適用できない	
項目		サッカー人気の高まり
25	A: 事前認識	いいえ
	B: 施策の有無	-
		施策の内容
	C: 評価	2
客観指標・内容	一時的な人気、特に日本代表戦はあったものの地域スポーツのサッカーとして評価すれば競技人口、観戦人口はほとんど変化がない。	

Q3. 貴自治体におけるワールドカップの事後評価について、特記すべき事項を自由にご記入ください。

A3. 神戸市がワールドカップ神戸開催を誘致した目的の大きな柱は、阪神大震災の際に支援いただいた世界中の方々に対して感謝お意を表するとともに、復興した神戸の姿を見ていただくことであった。

この点、延べ6100人の市民がボランティアとして神戸を訪ねる国内外の方々をお出迎えできたこと、市内の36小学校、16中学校がそれぞれ神戸で試合を行う国応援団として各種活動や交流し、応援したこと、市役所に隣接する東遊園地において、「KOBEファンヴィレッジin East Park」と称して、大会期間中、ステージパフォーマンス、テントブース、スポーツ体験で国内外から神戸を訪れるの方々をおもてなしできたことなど、多くの成果が得られた。

その中でも特筆すべきことは、「神戸エンジェル」によるアフガニスタン難民キャンプの子どもたちへサッカーボールを贈る運動である。

記事) アフガニスタン難民キャンプにサッカーボールを贈る運動

2001年(平成13年)9月にアメリカ・ニューヨークで発生した同時多発テロに対抗してアフガニスタン・タリバーン政権への攻撃に伴い、アフガニスタン住民の多数が国外へ難民として流出しました。

難民キャンプの状況を伝える報道の中には、空気の抜けたサッカーボールで遊ぶ子どもを紹介する新聞記事がありました。この記事に触発された神戸市サッカー協会少女選抜チーム「神戸エンジェル」の選手達は、神戸市内の少年サッカーチームに、小学校卒業に伴い不要となる4号ボールをアフガニスタン難民キャンプの子どもたちに届ける提案をした。この提案に賛同した少年サッカーチームから661個のボールが集まり、平成14年4月1日から22日にかけてフェニックスプラザで「KOBEから友情のキックオフ～アフガン、NYの子どもたちの心をむすびつないで」展が開催されました。

この運動は高く評価され、マルセル・A・ボイザード国連事務次長から感謝のメッセージが贈られました。また、大会期間中の「ワールドサッカーデー」制定と停戦の呼びかけにもつながり、平成14年4月26日にユニセフ(国際連合児童基金)とFIFA(国際サッカー連盟)による記念式典が開催され、「神戸エンジェル」OGが招待され、アナン国連事務総長夫人より感謝の言葉をいただきました。

大会期間中の6月6日にはユニセフ親善大使のロジャー・ムーア氏が「神戸エンジェル」に合いに神戸を訪れ、市長に感謝の親書が届けられるなど、国際的にも知られるところとなりました。

これらのボールは2002年ワールドカップ神戸開催推進委員会により在日イラン日本大使館を経由して難民キャンプへ届けられました。

これらのことを勘案すると、所期の目的は、十分に達成できたものと評価している。

【文書回答】

- 1) 2002年Wカップは大きな成果を上げたと思いますが、自治体首長として全体的な印象をお聞かせください。

大会関係者努力により、万全の体制のもとに運営された今大会は、危惧されていたフーリガンやテロといったこともなく、安全で感動深いものになった。

特に、共同開催国である日本と韓国が共にセカンドラウンドに勝ち進み活躍したことは、開催国民に対して多くの夢と感動を与え、両国に新たな絆を結んだことと思われる。

日韓共同開催に関して言えば、神戸では市民レベルも含めて日韓交流を通じた大会気運の醸成運動を展開したほか、地上波による放送が行われなかった韓国対アメリカ戦をパブリックビューイングとして実施した。パブリックビューイングで他の開催地の多くが開幕戦や決勝戦を選択した中での神戸の取り組みは、在日の韓国籍・朝鮮籍の方々から大きな評価を受け、その場で朝鮮初級学校の子どもたちが「テーハンミングッ」と応援した姿は、大きな感動を与えてくれた。

また、神戸では、大会気運の醸成のために市民の自発的な参加のもと様々な運動が展開された。その中でも、大会を契機として、少年少女サッカーチームの子どもたちが展開したアフガニスタンにボールを送る運動は、神戸市民だけでなく国内外の人々に大きな感動を与えた。さらに、アフガニスタンサッカー協会の方を迎えて、アフガニスタン代表チームのユニフォーム一式を送ったことが、同チームの国際試合への復帰の大きな契機となった。このように神戸から世界平和へのメッセージが発信できたことは、震災で支援いただいた世界の方々へのいくばくかのお礼になったのではないかと考えている。

- 2) 開催地への立候補時点、開催地決定直後、終了時、各々でWカップへのイメージや考え方に変化はありましたか。

ワールドカップは、世界中で多くの方々を観戦し、その関心度はオリンピックを凌ぐといわれており、まさしく世界中のトッププレイヤーが国と国の威信をかけて戦う世界最大のイベントであり、是非とも市民とりわけ子どもたちにそのプレーを身近で体験してほしいとの考えで立候補した。開催地として決定する前年に、阪神淡路大震災により未曾有の被害を受け、立候補を断念することも考えたが、ワールドカップの神戸開催を実現することにより、市民に夢と希望を与えたいと思い招致活動を継続することとした。震災後は、ワールドカップの神戸開催決定を一つの励みとして、一日も早い復興のため努力してきた。

また、神戸開催にあたっては、ワールドカップを震災で支援いただいた世界の人々に復興した神戸をご覧いただき、感謝の気持ちを表す場と考え、ホスピタリティや世界平和、日韓親善を大きな柱として開催地としての役割を果たすべく努力した。

ワールドカップは、当初想像していた以上に素晴らしい大会であり、まさに世紀の祭典といった表現にふさわしいものであったと考えている。

3) 住民の自治参加意識の醸成に W カップ開催は貢献しましたか。

阪神大震災に際して、世界の国々からいただいた暖かい励ましと支援に対して感謝の気持ちを表したいという思いのもと、市民の皆様がそれぞれに感謝とおもてなしの気持ちを込めて、市民応援団として各地域で大きな声援を送っていただいた。具体的な活動としては：

- ・ 神戸日本ラテンアメリカ協会代表のダゴベルト・メリリャン・ハラさんとそのご子息による応援歌「オーレ！神戸」の作曲、CD化
- ・ 地元商店街等を中心とした横断幕、歓迎バナーの掲出
- ・ イベントやボランティアの重要性に共感する団体のネットワークとして結成された「こうべスポーツ応援団」による「クリーンカップ」(美化活動)の実施や「KOBE ファンビレッジ」の設置・運営
- ・ 自治会、婦人会、老人クラブ等によるクリーン作戦の実施

などがあげられる。

また、大会の運営に直接携わるボランティアとして、神戸市と JAWOC 神戸支部あわせて、1,858 人もの方々にご参加いただいたほか、「KOBE 観光ボランティア」や地元浜山地区の方々による「みち案内ボランティア」など市民の自主的なボランティア活動が展開された。

これらの活動は、行政（市）が中心になって行ったのではなく、むしろ市民の方々が自発的に取り組んだものであり、ワールドカップは市民の参加意識の醸成にも十分貢献したものと考えている。

4) 市民レベルでの国際交流という点では如何でしたか。

スタジアム周辺の 4 小学校では、神戸で試合を行う 4 か国からそれぞれが応援する国の神戸在住外国人や大使館の方々との交流会をはじめ、その他の多くの小中学校でも国を決めて、その国のことを学びかつ応援する活動ができた。

また、神戸在住の日本人と在日韓国籍・朝鮮籍の青年による交流ツアー「韓国体験紀行」の実施、日韓友情ウォークなどが実施された。さらに、サッカーを通

じた交流として、日韓ジュニアサッカーフェスティバル、ワールドフットサルフェスタコウベが行われるなどさまざまな交流が図られた。

特に、大震災を経験した神戸の小学生女子サッカーチーム「神戸エンジェル」のメンバーが中心となって展開したアフガニスタンの子どもたちにサッカーボールを贈る運動は、高く評価され、このような子どもが神戸で育っていることを誇らしく思う。また、この活動を通じて、ロジャー・ムーア氏がユニセフ親善大使として来神し、小学校等でさまざまな交流を実施したことやアナン国連事務総長夫人が神戸エンジェルのメンバーに直接感謝を表されたことなど、子供達にもすばらしい体験をさせることができた。さらに、アフガニスタンサッカー協会からの来神者と神戸の子どもたちとさまざまな交流をもてたことも、本当に有意義であったと考えている。

5)

・スタジアムを縮小されますが 将来を含めたその収支の考え方をお聞かせください。

スタジアムの建設事業では、公設民活方式をとり、事業計画、設計、施工、事業運営をコンペで当選した民間事業者が一貫して行うこととしている。建設そのものは都市公園事業として公的資金で行うが、事業者が設計から事業運営まで一貫して関わることにより、建設段階から運営段階を通じて、無駄の少ない合理的な施設整備及び施設管理を目指そうとするものである。特に、完成後の事業運営については、事業者が純民間の管理会社を設立してスタジアムを含む公園全体を一体管理することとしており、民間のノウハウを活かしたフレキシブルな運営による施設の活性化や経費削減を期待している。

・今回のワールドカップで得たものをどのように発展させますか。

サッカーの振興といった観点からは、ワールドカップが開催されたことを契機として、サッカー発祥の地といわれている神戸が再びサッカー王国といわれるようになることを望んでいる。

また、神戸では、「子供も高齢者も、障害者もトップアスリートもそれぞれがスポーツを楽しみ、健康づくりができるまちづくり」(神戸アスリートタウン構想)を進めており、その一環として、全国に先駆けて、「神戸総合型地域スポーツクラブ」の育成に努めている。ワールドカップが神戸で開催されることにより、市民のスポーツへの関心が高まるなか、スポーツを通じて健康づくり・仲間づくりをはじめようとする市民の期待に応え、市民にもっとも身近な小学校単位を拠点として、子どもから高齢者まで幅広い市民が気軽に様々なスポーツに親しめる地域スポーツクラブ

を育成していくことにより、スポーツを身近に楽しめるまち「神戸」をつくっていききたい。

・ご覧になった試合とその感想をお願いします。

開幕戦と神戸での3試合を観戦した。いずれも世界のトップチームの試合らしく手に汗握る接戦となり、その技術レベルの高さと迫力に圧倒された。特に、神戸での3試合目は、個人技に優れるブラジルと堅実な守備と速攻を誇るベルギーがそれぞれの持ち味を活かしたすばらしい試合展開となり、そのプレーに感動した。

・「復興した神戸を見ていただく」という最大の目的は果たせたとお考えですか。

神戸での3試合で延べ10万人以上の観客がウイングスタジアムを訪れており、それ以外にも選手やチーム関係者、メディアをはじめとして多数の大会関係者が、大会を契機として神戸を訪れた。それらの人々には、震災から復興した神戸のまちを実際にご覧いただくことができた。さらには、報道等を通じて復興した神戸を全世界にアピールすることができ、「復興した神戸を見ていただく」という目的は十分果たせたのではないかと考えている。

2-10 大分県 - アンケート結果・インタビュー

【アンケート結果】

Q1. 貴自治体におかれましても、ワールドカップに関する事後評価は重要であると認識していらっしゃるかと存じますが、すでに事後評価はしていらっしゃいますか。

A1. **はい**

Q2. 以下の25項目につきまして、A, B, Cの3段階でご質問いたします。下記表内に書き込んでください。

- A. ワールドカップ開催前に、ワールドカップ開催によって、下記項目について「充実/促進」がはかれると考えておられましたか。
- B. Aで「はい」と回答された場合は、そのための施策や事業を実施しましたか？
もしされている場合は、その具体的な内容をお書き下さい。
- C. ワールドカップ開催を終え、下記項目について、その成果を評価するとのようにお考えですか。
1～5、×のなかから番号(記号)を1つ選んでをつけてください。
またその成果を評価するための客観的な指標はありますか？
もし有る場合には、その項目と内容を具体的にお書き下さい。
なお「×：現時点で評価できない」とする場合は、いつ頃評価できるようになるのでしょうか？
評価できる時期とその理由をお書きください。
- 1: 効果なし
2: ほとんどない
3: あった
4: かなりあった
5: 効果絶大
x: 現段階では評価できない

A2.

1	項目		住民意識の一体化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・地域振興専門委員会を設置 ・全市町村でワールドカップに関連したイベントを実施し県民一体となった受入を実施
	C:	評価	5
客観指標・内容		・「2002FIFAワールドカップ大分開催実施結果速報」 ・地域振興関係事業実施概要 ・大分推進委員会の専門委員会体系図	
2	項目		住民の連帯感の醸成
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	1.に同じ
	C:	評価	5
客観指標・内容		1.に同じ	
3	項目		地域の誇りや住民の自信の獲得
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	1.に同じ
	C:	評価	5
客観指標・内容		1.に同じ	
4	項目		地域文化の見直し
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・関連イベント専門委員会を設置 ・大分らしいおもてなしのイベントを実施 ・カルチュアルイベント実施
	C:	評価	5
客観指標・内容		1.に同じ	

		項目	地域名のメディア露出
5	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・広報情報専門委員会を設置 ・4カ国（英・仏・伊・西）語のメディアキットを作成 ・首都圏メディアによる情報発信効果調査
	C:	評価	5
客観指標・内容		・メディアキット ・首都圏メディアによる情報発信効果調査報告書（とりまとめ中）	
		項目	外来者観光客数の増加
6	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・大分総合情報センター（一カ所、24時間対応、英・仏・西の3カ国語対応）、サテライトインフォメーション(11カ所)を設けて受け入れた ・観光宿泊専門委員会を設置 ・大分宿泊センターを設けて、期間中の受入れの円滑化を図った
	C:	評価	4
客観指標・内容		・結果速報・ALLEZ!!大分No.1-3 ・「OITA DREAM FESTA EVENT MAP」 ・大分総合情報センター体制図	
		項目	商店街の活性化
7	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・大分市、別府市の中心商店街で受入イベントを実施
	C:	評価	4
客観指標・内容		-	
		項目	地域経済への波及
8	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・ホテル・旅館、スポーツ用品などの分野で経済効果が見られた
	C:	評価	4
客観指標・内容		-	
		項目	交通渋滞解消 / 自動車交通の定時制の確保
9	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・大会開催を目処とした交通インフラ整備（高速道、一般道） ・交通輸送対策専門委員会設置 ・大会時の交通規制・シャトルバス輸送（無料） ・TDM実証実験
	C:	評価	5
客観指標・内容		・結果速報 ・専門委員会体系図 ・ピックアップアクセスご案内	
		項目	鉄道交通網の整備
10	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	スタジアム最寄り駅であるJR高城駅の南北通路の改修工事
	C:	評価	4
客観指標・内容		-	

11	項目		街並など景観の向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・大分カラーによるもてなし
C:	評価	5	
	客観指標・内容	・結果速報 ・「NEO OITA」	
12	項目		住民の美化運動の実践
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・ボランティアによる清掃活動
C:	評価	5	
	客観指標・内容	-	
13	項目		ボランティア活動参加者の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	施策の内容 ・ボランティア専門委員会設置 ・開催地ボランティアセンター設置 ・JAWOCボランティア(大会運営)1,140名 ・開催地ボランティア(地域ホスピタル)909名
C:	評価	5	
	客観指標・内容	・専門委員会体系図 ・ボランティア登録状況	
14	項目		ボランティア活動組織の増加
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・豊の国ボランティアファミリー
C:	評価	5	
	客観指標・内容	・豊の国ボランティアファミリー名簿	
15	項目		地域ホスピタリティの向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・「ようこそOITAへ」作成 100,000部 ・中津江村から大分県全域へ広がった笑顔での受け入れ
C:	評価	5	
	客観指標・内容	・「ようこそOITAへ」	
16	項目		国際意識の向上
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・「ようこそOITAへ」作成 ・県下を4地域に分けて大分で試合をする国の応援運動実施 ・出場国料理による給食
C:	評価	5	
	客観指標・内容	・「ようこそOITAへ」 ・地域振興関係事業実施概要	
17	項目		国際交流の進展
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・ウェルカムビレッジ ・チュニジア村 ・サポーターズパーク
C:	評価	5	
	客観指標・内容	・「OITA DREAM FESTA EVENT MAP」 ・「佐伯万能ガイドブック A TASTE OF SAIKI」	

18	項目		青少年への国際理解教育や社会教育の実践
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・「ようこそOITAへ」作成
	C:	評価	5
客観指標・内容		・「ようこそOITAへ」	
19	項目		環境保全意識への高まりへの寄与
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・大分スポーツ公園の森の移植 ・「オオイタサンショウウオ」の保護
	C:	評価	5
客観指標・内容		・「里山を生かした大分スポーツ公園」	
20	項目		スタジアム等・スポーツ施設の充実
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・「大分スタジアム（ビック・アイ）」建設 ・大分スポーツ公園整備
	C:	評価	5
客観指標・内容		・「スポーツ公園の概要」 ・「OITA SPO PARK21 BIG EYE」	
21	項目		スタジアム等・スポーツ施設利用の活発化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	20.に同じ
	C:	評価	5
客観指標・内容		20.に同じ	
22	項目		地域スポーツの活発化
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・大分トリニータの創設と発展
	C:	評価	5
客観指標・内容		・大分トリニータ マッチデープログラム ・大分トリニータ イヤーブック2002	
23	項目		スポーツ参加率の上昇
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・大分トリニータによる少年サッカー教室の開催
	C:	評価	4
客観指標・内容		-	
24	項目		スポーツイベント運営ノウハウの獲得
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・世界最大のスポーツ大会「FIFAワールドカップ」の運営を体験
	C:	評価	5
客観指標・内容		・大分県サッカー協会の法人化(2003年1月予定)	
25	項目		サッカー人気の高まり
	A:	事前認識	はい
	B:	施策の有無	はい
		施策の内容	・大分トリニータの試合観戦への誘導(無料招待)
	C:	評価	5
客観指標・内容		・2001、2002大分トリニータチーム成績・入場者数推移	

Q3. 貴自治体におけるワールドカップの事後評価について、特記すべき事項を自由にご記入ください。

A3. 1 本県は、今回のワールドカップ大分開催の意義として、次の7点を掲げている。

(参考:平成14年6月議会知事答弁)

- (1) 世界規模の大会を地方都市で開催できること
- (2) 大分を世界に情報発信できる絶好の機会であること
- (3) 国際的な大会を運営するノウハウが得られること
- (4) 国際的なイベント開催に伴うインフラ整備が進むこと(高速道路その他)
- (5) 日韓共催であり、日韓の友好交流が深まること
- (6) 時代を担う青少年に勇気と希望と感動を与えること
- (7) ビッグアイという新しい観光・交流の拠点ができること

2 これに対する大会直後の知事の記者会見は別添の通り。

- (1) 安全・安心
- (2) ホスピタリティ
- (3) アフターワールドカップ

3 本県のワールドカップ推進局でとりまとめた全体概要は添付の通り。

4 現在「ワールドカップ大分開催成果継承委員会」を設置(11月26日)し、交通輸送、ボランティア、救急防災対策などの成果を今後継承していくための方策を検討中。

【平松守彦県知事インタビュー】

1) 2002年Wカップは大きな成果を挙げたと思いますが、自治体首長としての全体的な印象をお聞かせ下さい。

「安心・安全」な大会運営、「ホスピタリティ」、「アフターワールドカップ」が開催に当たったの留意点。

「安心・安全」の観点からは、交通輸送や警備、治安対策など、スムーズな運営ができた。

「ホスピタリティ」の観点からは、中津江村の歓迎が騒ぎになり、本大会に入ってから、大分らしいおもてなしができた。各国大使から「大分のホスピタリティは素晴らしい」と言ってもらえた。

「アフターワールドカップ」の観点からは、国際交流を進展させようと、「大分カメルーン親善協会」「中津江村笑顔の会」などがカメルーンの間ででき、その他にもいくつかの交流が進んでいる。また大分トリニータの国際試合の話も進んでいる。

2) 開催地への立候補時点、開催地決定直後、終了後、各々でWカップへのイメージ、考え方に変化はありましたか。

招致表明以来、5つの開催意義を唱えてきた。

1. オリンピックをしのぐ国際大会を地方で開催できるということ

ローカルにしてグローバルな大分を世界に情報発信できる機会としてとらえた。

一村一品運動の土台にあるローカルにしてグローバル外交の延長線上としてとらえた。

2. 韓国との絆を深めることができたこと

3. 若者に勇気と希望と感動を与えたこと

4. ビッグアイという優れたスポーツ施設ができたこと

5. 大会を契機に県内各地で観光と交流の輪が広がったこと

中津江村の観光客増加

イタリアとのファンゴ(泥パック)交流

3) 住民の自治参加意識の醸成にWカップ開催は貢献しましたか。

計画段階から多くの県民に参加してもらおう取り組みをした。

・県下223団体による「2002年FIFAワールドカップ大分推進委員会」

・7つの専門委員会

・ボランティア参加（JAWOC 1,140人、開催地 909人）

・大分で試合をする4カ国について、地方振興局ごとに応援する国を決め、関連イベントを実施

またビッグアイ周辺の自治体での自発的な運動も多く見られた。

4) 市民レベルでの国際交流という点ではいかがでしたか。

大分市の「こんにちはフェスタ」には33万人の人が詰めかけ、それ以外のイベントでも県民と海外サポーターの交流が各地で見られた。

ワールドカップでの交流がきっかけでスウェーデンの大学生が県内企業でのインターンシップをすることになった。

ワールドカップと一村一品運動の関係

ワールドカップ前から一村一品運動として各国の地域との交流があった。オリンピックとは大都市での開催だが、最もグローバルなスポーツが最もローカルな地域で開催できるのがワールドカップであるという認識があった。一村一品運動の土台にあるローカルにしてグローバルな外交の延長線上として捉えワールドカップ開催地に立候補した。

(2003年2月3日)

3 . 參考資料集

県知事
× × 様

独立行政法人 経済産業研究所
理事長 岡松 壮三郎

「国際スポーツイベント（事後）評価システム構築に関する研究」へのご協力をお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は何かとご高配を賜り誠にありがとうございます。

さて、私共、独立行政法人 経済産業研究所では、現在、「国際スポーツイベントの事後評価システム構築に関する研究」を実施しております。これは、全国各地の自治体において実施されております国際スポーツイベントの成果を的確に把握し、その効果を次代に伝え、さらに国際スポーツイベントを効率的に地域振興に役立てていこうとするために構築するものです。

わが国では、本年、世界最大のスポーツイベントである「2002年FIFAワールドカップ」が開催され、日本中が盛り上がりました。また、開催地にとっては計り知れない効果をもたらしたものと考えられます。

そこで、2002年FIFAワールドカップを事例として取り上げ、開催地が地域振興・地域活性化にどのように戦略的に取り組まれたか、その効果や問題がどのようなものなのかを把握し、国際スポーツイベントの事後評価システムの構築を検討してまいりたいと考えております。

大変ご多用のなか恐縮ではございますが、是非とも趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

なお、研究の目的、内容等につきましては別紙<実施計画書>のとおりでございますが、実施にあたりましては、国内開催地域の10自治体に対しましてアンケート調査を実施させていただきます後、下記本研究担当者が出向き、インタビューをさせていただきたいと存じます。また、合わせて、スポーツ関連団体・スポーツ産業関係団体、住民などを対象にインターネットによるアンケート調査を実施させていただく予定でございます。

何卒、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

1. 調査実施担当者

産業経済研究所 上席研究員 広瀬 一郎

2. 連絡先

独立行政法人 経済産業研究所 (RIETI) 電話 03-3501-8378 FAX 03-3501-8416

以上

貴自治体では、

A. ワールドカップ開催前に、ワールドカップ開催によって、下記項目について「充実/促進」が図られると考えておられましたか？

B. Aで「1.はい」と回答された場合は、そのために施策や事業を実施しましたか？もしされている場合は、その具体的な内容をお書きください。

C. ワールドカップ開催を終え、下記項目について、その成果を評価するとどのようにお考えですか。1～5、Xのなかから番号(記号)を一つ選んで をつけてください。

またその成果を評価するための客観的な指標はありますか？もしある場合には、その項目と内容を具体的にお書きください。

なお「X.現時点で評価できない」とする場合は、いつ頃評価できるようになるのでしょうか？評価できる時期とその理由をお書きください。

【質問C / 効果の程度に関する評価基準】

1	2	3	4	5	X
効果なし	ほとんどない	あった	かなりあった	効果絶大	評価段階ではない

No.	項目	A (開催前の意図)	B (具体的な施策)		C (開催後の成果)		「X.現時点では評価できない」場合
			施策の有無	その内容	効果の程度	成果を客観的に示す指標とその内容	
6	外来者観光客数の増加	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?) (その理由)
7	商店街の活性化	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?) (その理由)
8	地域経済への波及	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?) (その理由)
9	交通渋滞解消/ 自動車交通の定時制の確保	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?) (その理由)
10	鉄道交通網の整備	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?) (その理由)
11	街並など景観の向上	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?) (その理由)
12	住民の美化運動の実践	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?) (その理由)
13	ボランティア活動参加者の増加	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?) (その理由)
14	ボランティア活動組織の増加	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?) (その理由)
15	地域ホスピタリティの向上	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?) (その理由)

貴自治体では、

A.ワールドカップ開催前に、ワールドカップ開催によって、下記項目について「充実/促進」が図られると考えておられましたか？

B. Aで「1.はい」と回答された場合は、そのために施策や事業を実施しましたか？もしされている場合は、その具体的な内容をお書きください。

C. ワールドカップ開催を終え、下記項目について、その成果を評価するとどのようにお考えですか。1～5、Xのなかから番号(記号)を一つ選んで をつけてください。

またその成果を評価するための客観的な指標はありますか？もしある場合には、その項目と内容を具体的にお書きください。

なお「X.現時点で評価できない」とする場合は、いつ頃評価できるようになるのでしょうか？評価できる時期とその理由をお書きください。

【質問C / 効果の程度に関する評価基準】

1	2	3	4	5	X
効果なし	ほとんどない	あった	かなりあった	効果絶大	評価段階ではない

No.	項目	A (開催前の意図)	B (具体的な施策)		C (開催後の成果)		「X.現時点では評価できない」場合
			施策の有無	その内容	効果の程度	成果を客観的に示す指標とその内容	
16	国際意識の向上	1. はい	1. はい		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?)
		2. いいえ	2. いいえ				(その理由)
17	国際交流の進展	1. はい	1. はい		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?)
		2. いいえ	2. いいえ				(その理由)
18	青少年への国際理解教育や社会教育の実践	1. はい	1. はい		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?)
		2. いいえ	2. いいえ				(その理由)
19	環境保全意識への高まりへの寄与	1. はい	1. はい		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?)
		2. いいえ	2. いいえ				(その理由)
20	スタジアム等スポーツ施設の充実	1. はい	1. はい		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?)
		2. いいえ	2. いいえ				(その理由)
21	スタジアム等スポーツ施設利用の活発化	1. はい	1. はい		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?)
		2. いいえ	2. いいえ				(その理由)
22	地域スポーツの活発化	1. はい	1. はい		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?)
		2. いいえ	2. いいえ				(その理由)
23	スポーツ参加率の上昇	1. はい	1. はい		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?)
		2. いいえ	2. いいえ				(その理由)
24	スポーツイベント運営ノウハウの獲得	1. はい	1. はい		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?)
		2. いいえ	2. いいえ				(その理由)
25	サッカー人気の高まり	1. はい	1. はい		1 2 3 4 5 X _ _ _ _		(いつ頃?)
		2. いいえ	2. いいえ				(その理由)

Q3 貴自治体におけるワールドカップの事後評価について、特記すべき事項を自由にご記入下さい。

以上です。ご協力ありがとうございました。

なお、大会開催の前後に地域振興に関して言及した書類（議会への説明書類やJAWOCへの提出書類等）がございましたら、回答とともに当方へ送っていただきたく存じます。
あわせて、どうぞよろしくお願いいたします。

自治体提出資料リスト

3-3 自治体提出資料リスト

札幌市

No.	資料名称
1	2002 FIFAワールドカップTM札幌開催 報告書
2	(社)北海道未来総合研究所の経済効果試算

宮城県

No.	資料名称
1	2002 FIFA WORLD CUP KOREAJAPAN MIYAGI 報告書

茨城県

No.	資料名称
1	2002 FIFAワールドカップTM茨城県開催報告書
2	「2002 FIFAワールドカップTM茨城開催に関する経済波及効果」について

埼玉県

No.	資料名称
1	2002 FIFAワールドカップTM埼玉開催の記録
2	埼玉県知事杯フットサル大会パンフレット
3	さいたま彩の国だより 6月号
4	6月・9月定例会議事録
5	県政ニュース一覧(82件) 県ホームページより
6	2002 FIFA World Cup TM in SAITAMA ホームページ(5カ国語)
7	さいたま見沼竜神祭り案内 ホームページより
8	2002 FIFAワールドカップ会話集 Q & A(5カ国語)
9	さいたまMAP(5カ国語)
10	交通混雑緩和の広報看板 写真
11	埼玉高速鉄道線パンフレット
12	2002 FIFAワールドカップTM開催記念 埼玉クリーンウォーク パンフレット
13	2002 FIFAワールドカップTM開催記念 埼玉クリーンウォーク 活動写真

自治体提出資料リスト

14	2002 FIFAワールドカップ埼玉開催地ボランティア 活動の記録
15	盛り上げよう！2002年ワールドカップさいたま市市民委員会総会 資料
16	第5回埼玉国際ユースサッカー大会 パンフレット
17	第1回埼玉国際ユース(U-15)サッカー大会 パンフレット
18	第1回埼玉県国祭ジュニアサッカー大会 パンフレット
19	バスマスク 写真・イラスト
20	埼玉スタジアム2002 パンフレット
21	新聞記事 90本
22	パンフレット各種 15種類

横浜市

No.	資料名称
1	感動を横浜から世界へ 決勝戦の舞台～THE CITY OF THE FINAL 2002 FIFAワールドカップTM横浜開催の記録
2	中期財政ビジョン (横浜市財政の実態と課題) ～今後の財政運営に向けて～
3	わたしたちのワールドカップ YOKOHAMA2002 ～横浜市ボランティアの記録集～
4	横浜市中期政策プラン 市民向け概要版 2002～2006
5	平成14年度 ヨサンのミカタ
6	横浜国際競技場パンフレット

新潟県

No.	資料名称
1	2002 FIFAワールドカップTM新潟開催ボランティア活動記念誌
2	美しい新潟 第18号
3	新潟県の地図
4	パンフレット各種 22種類

静岡県

No.	資料名称
1	2002 FIFAワールドカップ静岡開催経済波及効果報告書
2	2002 FIFAワールドカップ静岡開催の概要
3	ポケット会話集(8カ国語)

自治体提出資料リスト

4	パンフレット(8カ国語) 2種類
5	パンフレット各種 2種類
6	ステッカー 1種類
7	静岡スタジアムエコパ 絵はがき 1セット
8	富士山 絵はがき 1セット

大阪市

No.	資料名称
1	Ole! Vol.1~Vol.8
2	2002FIFAワールドカップTM6カ国語会話集
3	パンフレット各種 2種類

神戸市

No.	資料名称
1	*なし*

大分県

No.	資料名称
1	大分スポーパーク21 パンフレット 3種類
2	パンフレット各種 6種類
3	第二回 大分県議会定例会会議録 第二号
4	平成14年6月16日臨時記者会見「ワールドカップ大分開催の3日間を振り返って」 県庁ホームページより
5	ALLEZ 大分! vol.1~vol.4
6	2002年FIFAワールドカップ大分推進委員会(団体概要・規約・幹事名簿・専門委員会体系図・大会運営組織図)
7	2002年FIFAワールドカップ大分開催 交通輸送計画概要
8	ワールドカップマンス「ドリームフェスタOITA」イベント 一覧
9	大分総合情報センター体制図
10	ボランティアに関する資料
11	準備キャンプ状況に関する資料
12	ワールドカップ大分開催成果継承委員会設置規程・委員名簿
13	地域振興関係事業実施概要「ワールドカップを契機とした地域振興策」(平成14年11月大分県ワールドカップ推進局)

3-4 ワールドカップ関連事業費一覧

自治体	ハード(単位千円)		ソフト(単位千円)											
	概要(種類/収容人員)	建設費	総事業費	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14
札幌	ドーム / 53,845人	42,200,000	3,942,000		236,000	1,000	1,000	2,000	242,000	14,000	28,000	967,000	1,099,000	902,000
宮城	共用 / 49,133人	27,000,000	2,889,843	4,200	121,700	4,200	4,200	4,200	251,136	11,000	47,983	355,794	984,664	1,100,766
茨城	専用 / 41,800人	23,360,000	2,550,000	(H5-10は合算)						590,000	60,000	310,000	940,000	650,000
埼玉	専用 / 63,700人	35,595,000	2,712,961						270,129	20,565	87,294	359,880	962,477	1,012,616
横浜	共用 / 72,370人	60,300,000	2,821,940		247,905	21,235	19,999	19,396	259,828	68,869	75,506	189,472	917,730	100,200
新潟	共用 / 42,300人	31,200,000	1,370,000	(H4-9は合算)					456,000	54,000	75,000	97,000	242,000	446,000
静岡	共用 / 51,349人	29,800,000	1,965,000	(H5-8は合算)				197,000	246,000	17,000	46,000	103,000	322,000	1,034,000
大阪	共用 / 50,000人	674,000(改修費)	4,738,943						245,000	16,828	83,000	189,485	1,975,103	2,229,527
神戸	共用 / 42,000人(大会後34,000人)	23,000,000	1,571,000								52,000	348,000	607,000	564,000
大分	ドーム / 約43,000人	25,100,000	2,140,632							38,664	120,169	408,942	770,953	801,904

3-5 各自治体ボランティア数一覧

	2001年度	2002年度	W杯会場
札幌市	27,673		1,337
宮城県	39,799	25,012(仙台市除く)	1,715
茨城県	135,786	134,819	1,983
埼玉県	452,369		4,247
横浜市			3,805
新潟県	337,002		1,828
静岡県	229,331		2,160
大阪市	50,853		3,795
神戸市			3,232
大分県	35,176	36,456	2,258
本部・IMC			2,342
計			28,729

大分県の2001年度は平成13年4月1日に集計、2002年度は平成14年4月1日に集計

大分県は大分県福祉協議会による資料

宮城県は宮城県福祉協議会による資料

茨城県は茨城県福祉協議会による資料

宮城県、茨城県以外は全国社会福祉協議会による資料

W杯会場ボランティアの資料はJAWOCによる報告書より

3-6 国際スポーツイベントによる地域づくりに向けた視点・留意点

地域づくりの理念や目標像の理解促進

大項目	中項目	小項目
地域づくりの理念や目標像の理解促進	地域アイデンティティの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・目標とする地域づくりの推進 ・まちづくりの理念や目標像の浸透 ・歴史や文化的財産の継承・保存・再生 ・地域に根ざした個性ある文化の創造 ・地域の誇りや住民の自身の獲得 ・住民連帯感の醸成や住民意識に一体化
	地域からの情報発信・地域イメージの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・開催理念の世界への発信 (国際平和や地球環境保全等) ・地域の自然・歴史・文化・伝統・産業の世界への発信 ・広報・広聴ネットワークの構築・改善 ・情報公開・提供の推進

ゆとりと豊かさを実感できる地域社会の創造

大項目	中項目	小項目
ゆとりと豊かさを実感できる地域社会の創造	地域経済・地域産業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・観光・リゾート産業の振興 ・地場産業の活性化 ・地元商店街の活性化 ・コンベンション産業の育成 (国際会議や国際見本市の開催) ・企業誘致や業務管理機能の集積化 (外資系企業や国際業務機能等)
	文化・生活環境の整備拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・住民参加のまちづくりや都市デザインの推進 ・美しい街並みや都市景観の形成・維持・向上 (都市サインの統一、公共施設の緑化等) ・住民のガーデニング等美化活動の活発化 ・住環境を中心としたゆとりある生活空間の形成 (選手村の整備等) ・多様な文化施設の整備と芸術文化イベントの定期開催化 ・高次の消費利便・宿泊、医療・福祉等都市的サービスの充実
	地域スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> ・競技施設を活用したスポーツイベント開催 ・スポーツイベントの活発化 (企画・運営ノウハウ獲得) ・地域スポーツの活性化・多様化 ・スポーツ競技 (開催競技種目) の理解促進・普及 ・スポーツ交流の活発化 ・スポーツクラブの定着・発展 ・プロスポーツの地元定着 ・ジュニアの育成強化 ・スポーツ・レクリエーション環境の整備
	地域の国際交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・国際意識の醸成や向上 ・国際協力・国際交流の推進 (開催都市間の姉妹提携等) ・国際理解教育の推進や社会教育の実践 (国際親善・交流等) ・在住外国人 (留学生) との相互理解の促進

新しい時代に相応しい社会システムの構築

大項目	中項目	小項目
新しい時代に相応しい社会システムの構築	交通通信基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・高速交通網の早期整備・拡張(空港・新幹線・高速道路) ・域内道路交通システムの高度化(新交通システムの導入等) ・交通マネジメントシステムの構築(交通渋滞解消・自動車交通の定時確実性の確保) ・交通施設の安全性・快適性の向上(道路大型案内標識や道路照明等の整備、道路の立体交差化等) ・交通情報通信網の早期整備・拡充(ISDNやCATV等) ・住民生活支援の地域情報システムの高度化(救急医療情報システムや駐車場案内・誘導システムの構築等)
	住民参加の促進、ボランティア・NPOとの協働	<ul style="list-style-type: none"> ・行政職員の意識改革 ・自発的な市民参加の活発化 ・行政と住民・NPOとのパートナーシップの構築 ・ボランティア活動の活発化 ・ボランティア活動組織やNPO等の育成
	環境保全(環境への配慮)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然や緑の保全・回復 ・環境教育の推進 ・環境にやさしい街づくりの推進(ゴミ減量化の啓蒙普及、自動車の中心市街地への乗り入れ規制、電気自動車の導入等) ・未利用・自然エネルギーの活用(地下鉄・下水排熱・太陽光・風力等) ・循環型社会の形成(リサイクルシステムの導入)
	セキュリティ・ホスピタリティの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・治安・警備体制の維持・向上 ・安全な市街地の形成(自然災害や火災への対応) ・防災力や消防力の強化、救援・救護体制の充実 ・地域ホスピタリティの向上 ・サービス水準の向上(行政やサービス産業) ・ひとにやさしい福祉のまちづくり(交通施設等のバリアフリーの推進) ・外国人(旅行者)の活動しやすい環境づくり(公共サイン等の多言語表記等)

3-7 各自治体におけるワールドカップ関連部署の大会時と現在の状況

自治体	大会当時担当部署(平成14年度)	人員	現在引継部署(平成15年度)	人員
札幌市	教育委員会生涯学習部ワールドカップサッカー推進室		市民局スポーツ部スポーツ事業課	
宮城県	企画部ワールドカップサッカー推進局		企画総務課	
茨城県	企画部事業推進課ワールドカップ推進室	16	企画部事業推進課	2
埼玉県	国体・国際スポーツ大会局ワールドカップサッカー	39	国体・国際スポーツ大会局青少年国際サッカー大会	6
横浜市	企画局コンベンション都市推進室	48	都市経営局総務課	11
新潟県	総合政策部ワールドカップ推進局推進課	16	総合政策部企画課県民スポーツ推進室	6
静岡県	生活・文化部ワールドカップ推進室	16	生活・文化部生活文化管理室/国際室	—
大阪市	ワールドカップ推進室	40	大阪市ゆとりとみどり振興局国際スポーツ振興室国	2
神戸市	教育委員会事務局社会教育部スポーツ体育課	33	教育委員会事務局	2
大分県	ワールドカップ推進局	17	大分県企画文化部文化振興課	3